高崎市文化財調査報告書第420集

日高村主遺跡

―事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査―

２０１８

株式会社　高崎測量

高崎市教育委員会

株式会社　測研

例　言

・本書は、事務所建設に伴い事前調査された日高村主遺跡（高崎市遺跡番号 724）の発掘調査報告書である。
・本遺跡は、群馬県高崎市日高町字村主 581 番地 1 に所在する。
・発掘調査及び整理等作業は、高崎市教育委員会の指導・監督の下に、事業者と委託契約を締結した株式会社測研が実施した。
・発掘調査から整理等作業を経て本書刊行に至る経費は、事業主である株式会社高崎測量に負担して頂いた。
・発掘調査の体制は下記のとおりである。

　高崎市教育委員会
　株式会社　測研　　高林　真人

・発掘調査期間は平成 30 年 4 月 9 日～平成 30 年 5 月 31 日、整理等作業期間は平成 30 年 6 月 1 日～ 11 月 30 日である。
・本書の執筆は、第 1 章を高崎市教育委員会文化財保護課、第 2 章～第 4 章を高林が行い、編集は高林が行なった。
・出土した遺物及び各種原図・写真などの記録類は高崎市教育委員会が保管している。
・本遺跡の発掘調査および報告書刊行にあたって、下記の方々・機関から御指導・御協力を賜った。ここに記して御礼申し上げます。（順不同・敬称略）

　株式会社高崎測量　　瑞穂建設株式会社　　加藤空撮

凡　例

・遺構番号は、原則として発掘調査時に付したものを使用している。
・遺構挿図中に使用した座標値は世界測地系によるものであり、方位記号は座標北を示している。
・断面図に付した数値（L＝）は、海抜を表す。
・土層注記及び遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局　財団法人日本色彩研究所監修『新版標準土色帖（1998 年版）』を使用した。
・遺構には次の略号を使用した。

　SI＝竪穴住居跡　SH＝方形周溝墓　SK＝土坑　SD＝溝跡　P＝ピット（小穴）　p＝住居跡ピット

・遺構の実測図は、調査区全体図を 1 /100、竪穴住居跡の平面・断面図を 1 /60、住居跡炉跡の平面・断面図及びピット断面図を 1 /30、方形周溝墓・溝跡の平面図を 1 /80、断面図を 1 /40、土坑の平・断面図を 1 /40、ピットの平面図を 1 /80 で掲載した。
・遺物の実測図は、土器は 1 / 3 を原則とし大型品を 1 / 6 で、土製品は 1 / 2 で、石器は 1 / 6 で、磨製石鏃・蛇紋岩原石は 1 / 2 で掲載した。
・遺物実測図の割れ口は、輪積み・積み上げ部分で割れていると判断したものは実線で表している。
・遺物写真は実測図とほぼ同寸となるように掲載した。
・出土した遺物の注記は、遺跡番号（724）・遺構名・出土層位などを記入した。
・本報告書で使用した地図は下記のとおりである。

　◎国土地理院　地形図「前橋」 1 /25,000　◎高崎市都市計画基本図　1 /2,500

・遺物実測図に使用したトーンは以下のとおりである。

赤彩　煤　釉薬範囲・灰釉陶器断面　須恵器断面
切断痕　敲き痕　つぶれ痕　擦れ痕　赤色物質　自然面

目　次

例言・凡例・目次
第１章　調査に至る経緯 …… 1
第２章　遺跡の位置と環境 …… 1
　第１節　遺跡の位置と周辺の地形 …… 1
　第２節　周辺の遺跡 …… 1
第３章　調査方法と調査の経過 …… 3
　第１節　調査方法 …… 3
　第２節　調査の経過 …… 4
第４章　確認された遺構と遺物 …… 4
　第１節　遺構の分布と基本土層 …… 4
　第２節　竪穴住居跡 …… 6
　第３節　方形周溝墓 …… 20
　第４節　土坑 …… 22
　第５節　溝跡 …… 33
　第６節　ピット …… 35
　第７節　遺物包含層出土遺物 …… 35
　第８節　遺構外出土遺物 …… 36
　第９節　まとめ …… 37

挿図目次

第　1図　周辺遺跡図・調査区位置図（1/25,000・1/2,500） …… 2
第　2図　グリッド配置図 …… 3
第　3図　調査区全体図・基本層序断面図 …… 5
第　4図　1号竪穴住居跡平面・断面図 …… 7
第　5図　1号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 8
第　6図　2号竪穴住居跡平面・断面図、出土遺物実測図 …… 9
第　7図　3号竪穴住居跡平面・断面図、出土遺物実測図 …… 10
第　8図　4号竪穴住居跡平面・断面図、出土遺物実測図 …… 11
第　9図　5号竪穴住居跡平面・断面図① …… 12
第 10図　5号竪穴住居跡平面・断面図②、出土遺物実測図① …… 13
第 11図　5号竪穴住居跡出土遺物実測図② …… 14
第 12図　6号竪穴住居跡平面・断面図 …… 15
第 13図　6号竪穴住居跡炉跡平面・断面図、出土遺物実測図① …… 16
第 14図　6号竪穴住居跡出土遺物実測図② …… 17
第 15図　6号竪穴住居跡出土遺物実測図③ …… 18
第 16図　7号竪穴住居跡平面・断面図、出土遺物実測図 …… 18
第 17図　8号・9号竪穴住居跡平面・断面図、8号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 19
第 18図　9号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 20
第 19図　1号方形周溝墓平面・断面図 …… 21
第 20図　1号方形周溝墓出土遺物実測図 …… 22
第 21図　1号～3号・12号・22号～24号土坑平面・断面図 …… 23
第 22図　4号～9号・13号土坑平面・断面図 …… 25
第 23図　10号・11号・14号～18号土坑平面・断面図 …… 27
第 24図　19号～21号土坑平面・断面図、土坑出土遺物実測図① …… 30
第 25図　土坑出土遺物実測図② …… 31
第 26図　3号溝跡平面・断面図① …… 32
第 27図　3号溝跡平面・断面図②、出土遺物実測図 …… 33
第 28図　ピット平面図、出土遺物実測図 …… 34
第 29図　遺物包含層出土遺物実測図 …… 35
第 30図　遺構外出土遺物実測図 …… 36

表目次

第１表　ピット計測表 …… 35
第２～第４表　遺物観察表 …… 38
写真図版

第１章　　調査に至る経緯

平成 30 年 1 月、土地所有者および施工責任者である株式会社高崎測量から、高崎市日高町において計画している事務所建設に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である新保田中 11-1 遺跡内に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年 1 月 11 日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出され、同年 2 月 19 日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、弥生時代の竪穴住居跡を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「日高村主遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に準じ、平成 30 年 3 月 15 日に株式会社高崎測量と民間調査機関株式会社測研との間で契約を締結、また同日に株式会社高崎測量・株式会社測研・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。

第２章　　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置と周辺の地形

日高村主遺跡は、高崎市日高町に所在する弥生時代後期の集落跡を主体とする遺跡である。本遺跡の所在する高崎市は群馬県南西部に位置し、北東側に緩やかに弧を描く北西－南東方向に細長い形をしている。日高町は高崎市の北東側に位置しており、高崎中心市街地からは北東へ約 5.5㎞の場所にある。南北に細長い形をしており、北東部は前橋市との境をなす。本遺跡は日高町の北側に位置し、本遺跡の南西約 30 ｍの所に関越自動車道が北北西―南南東方向に走り、北東約 450 ｍにはＪＲ上越線、約 80 ｍの所には県道 12 号線（主要地方道前橋・高崎線）が関越自動車道と交差する方向に走る。

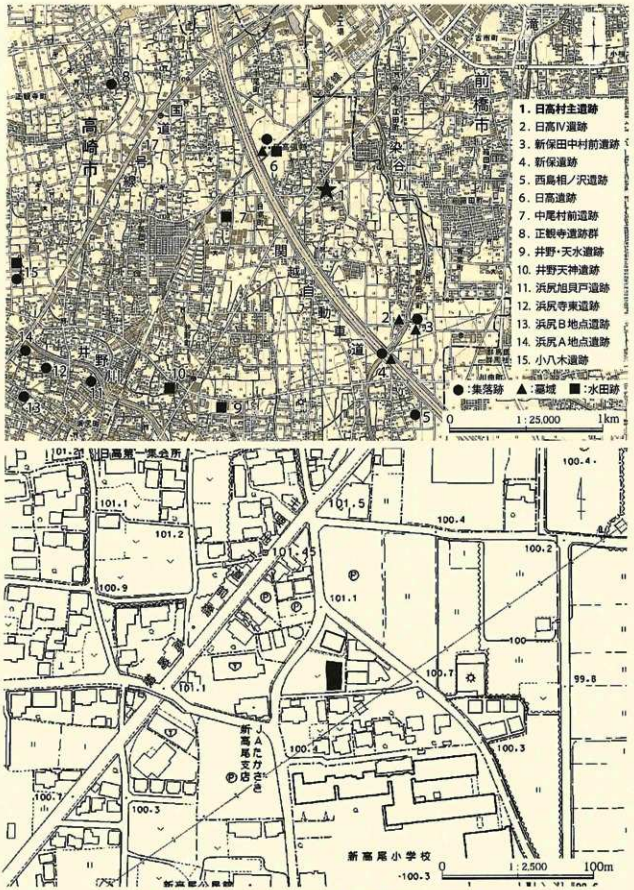
本遺跡は椎名山麓扇状地から南東方向に延びる前橋台地上に立地する。前橋台地は、南東側が相馬ヶ原扇状地を源とする井野川の周辺に形成された井野川低地に、北東側が旧利根川の氾濫原である広瀬川低地に挟まれており、南東端部は広瀬川が利根川に合流する伊勢崎市境平塚周辺となる北西―南東方向に長い舌状台地である。間を利根川が北西―南東方向に流れており、台地を北東側と南西側に二分している。

本遺跡は南西側の前橋台地上に立地しており、本遺跡の東側約 500 ｍの所に相馬ヶ原扇状地を源とし井野川へと合流する染谷川が南流している。本遺跡の現況は荒蕪地で、標高は約 100 ｍで概ね平坦である。

第２節　周辺の遺跡

日高村主遺跡の今回の発掘調査では、弥生時代中期～後期の竪穴住居跡、弥生時代終末期～古墳時代初頭の方形周溝墓などが確認された。本遺跡周辺の地形は染谷川流域、井野川流域と、その間の微高地に分けられる。弥生時代中期～古墳時代初頭の集落跡、墓域、そして近くに浅間Ｃ軽石下水田跡で著名な遺跡である日高遺跡があることから水田跡を含めて、本遺跡周辺の遺跡を概観したい。

集落跡　染谷川流域では中期後半から新保遺跡（４）、新保田中村前遺跡（３）で集落が造られ始め、後期に至り大規模化し地域の中核をなす集落となるが、その後減少していき古墳時代初頭には途絶えてしまう。後期前半から西島相ノ沢遺跡（５）で集落が造られ、古墳時代初頭も継続する。井野川流域では中期後半から浜尻Ａ地点遺跡（14）、浜尻Ｂ地点遺跡（13）で環濠集落が造られ、浜尻旭貝戸遺跡（11）、浜尻寺東遺跡（12）と合わさって大きな集落を形成していたと考えられるが、後期初頭で途絶えてしまう。後期前半に小八木遺跡（15）で竪穴住居跡１軒が確認されており、集落本体は別にあると考えられる。染谷川・井野川間では中期の集落は確認されていない。後期前半から正観寺遺跡群（８）で竪穴住居跡が出現し、後半～末期の地域の中核となる大規模集



第1図　周辺遺跡図・調査区位置図（1/25,000・1/2,500）

落となる。約1km南東の日高遺跡（6）でも後期後半から集落が造られ、ともに古墳時代初頭も継続する。 **墓域** 染谷川流域では日高Ⅳ遺跡（2）で後期から方形周溝墓が造られるが墓域は後期で途絶える。新保遺跡、新保田中村前遺跡では後期から周溝墓・土壙墓が造られ、墓域は古墳時代初頭も継続する。日高Ⅳ遺跡、新保遺跡、新保田中村前遺跡は隣接していることから一連の遺跡と考えられる。井野川流域では墓域は確認されていない。染谷川・井野川間では後期から日高遺跡で方形周溝墓が造られるが、墓域は後期で途絶える。 **水田跡** 染谷川流域では明確な水田遺構は確認されていないが、新保遺跡で水田に関連すると思われる後期の水路が確認された。井野川流域では小八木遺跡、井野・天水遺跡（9）、井野天神遺跡（10）で後期の水田跡が確認された。染谷川・井野川間では中期後半から後期にかけて日高遺跡で、後期に中尾村前遺跡（7）で水田跡が確認されている。

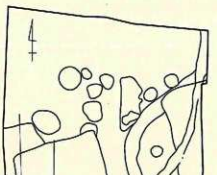
第3章　　調査方法と調査の経過

第1節　調査方法

日高村主遺跡の発掘調査は、事務所建設に伴い現状が変更される建物部分において工事を行う前に実施した記録保存調査である。したがって、発掘調査範囲は南北17.9 m、東西10.3 mの長方形状を呈する。発掘調査面積は約200㎡である。

表土掘削は、事前に実施された試掘調査の成果を基に遺物包含層（Ⅳ層、第4章基本層序参照）上面まで重機を用いて行ったが、この面では遺構覆土との違いを見分けることが出来なかったため再度重機を用いて基盤層（Ⅴ層）上面まで掘削を行った。この際に出土した遺物は、表土及び遺物包含層（Ⅳ層）で取り上げた。

基盤層（Ⅴ層）上面を人力で削り遺構確認作業を行った。調査区南側の約1／3は基盤層（Ⅴ層）がほとんど見られず、大半は遺物包含層（Ⅳ´層）が残っている状況であった。そのため上層観察用ベルトを格子状に設け任意のグリッドを設定し遺物包含層（Ⅳ´層）を掘り下げ遺構確認を行った。グリッドは、調査区南東隅部を起点に西へA～E、北へ移動し西へ向かってF～Jと繰り返し、最終的にRまで区分した。出土した遺物は、グリッドごとに遺物包含層（Ⅳ´層）及び確認面で取り上げた。



第2図　グリッド配置図

遺構の掘り込みは、遺構の形態を捉えることのできたものは形態・大きさに応じて適宜上層観察用のベルトを設定し、重複のため形態の不明瞭なものは、明らかな所から直交ないし中央ラインで上層観察用ベルトを設定し、土の堆積状況や遺物の出土状況に留意して行った。そのため、土層観察ベルトの位置がずれた遺構も見られる。遺物の取り上げは、遺構に伴うと判断したもの及び遺存状況の良いものは平面図作成又は座標値を測量して取り上げた。その他の遺物は遺構覆土一括で取り上げた。

遺構の記録は、遺構実測図作成及び写真撮影を実施している。遺構実測図は光波測距儀を用いて全体図を1／50、遺構平面図・遺構断面図を1／20の縮尺で図化した。ピットは他の遺構と重複しているもののみ上層断面図を作成し、その他は土層注記・土層断面写真撮影後に完掘した。写真撮影は、35㎜小型一眼レフカメラと約1800万画素のデジタルノンレフレックスカメラを併用して行った。35㎜カメラはモノクローム・カラーリバーサルフィルムを使用し、ともに同一カットを3枚1単位で露出を変えての撮影を基本とした。デジタルカメラも同一カットの露出を変えて3枚1単位で撮影を行った。また、無線操縦のヘリコプター模型による空中写真撮影を実施し、ブローニー版中型カメラでモノクロームフィルム、約1800万画素デジタル一眼レフカメラで撮影を行った。

第２節　調査の経過

調査日誌抄

平成 30 年４月　６日	事業者と打ち合わせ、発掘調査範囲の設定。
平成 30 年４月　９日	表土掘削開始。
平成30年 ４月10日	表土掘削終了、作業員雇用開始、遺構確認作業開始。
平成 30 年４月11 日	遺構確認作業終了、近世遺構の掘り下げ開始。
平成 30 年４月12 日	調査区南側の遺物包含層掘削開始。
平成 30 年４月17 日	高崎市教育委員会担当者が来跡し、調査状況を確認。
平成 30 年４月19 日	遺物包含層の掘削が終了、１号～３号竪穴住居跡・方形周溝墓・土坑の掘り下げを開始。
平成 30 年４月24 日	近世遺構の掘り下げ終了。
平成 30 年４月 26 日	溝跡の掘り下げ開始。
平成 30 年４月 27 日	４号～７号竪穴住居跡の掘り下げを開始。
平成 30 年５月 11 日	８号・９号竪穴住居跡の掘り下げを開始。
平成 30 年５月 25 日	ピットの半截開始。
平成 30 年５月 30 日	遺構精査・遺構測量終了、空中写真撮影実施、高崎市教育委員会担当者が来跡し調査終了を確認。
平成 30 年５月 31 日	調査範囲の埋め戻し実施、発掘調査器材の片付け・撤収を行い発掘調査に伴う全ての作業が終了。

第４章　　確認された遺構と遺物

第１節　遺構の分布と基本土層

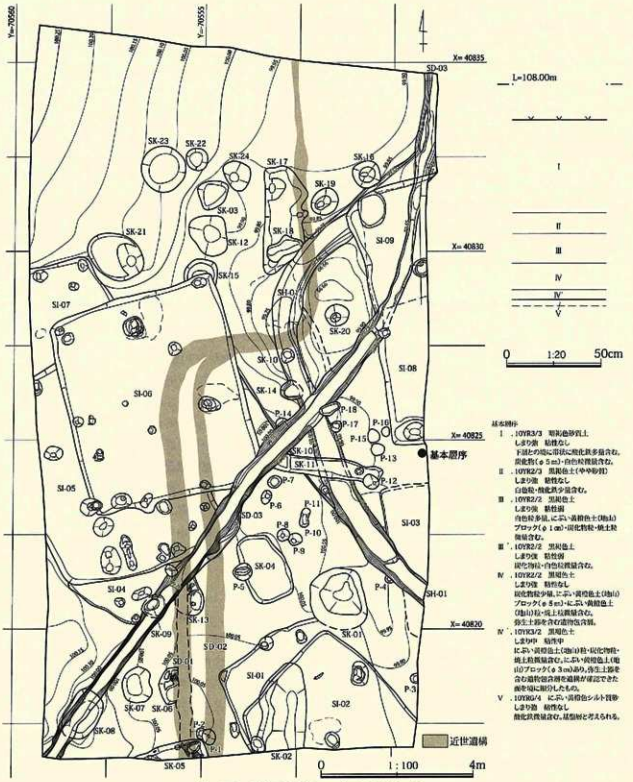
遺構分布　今回の日高村主遺跡の発掘調査では近世の溝跡２条（ＳＤ０１・０２）、古代と考えられる土坑２基（ＳＫ０７・１１）、古墳時代中期の土坑１基（ＳＫ２１）、古墳時代中期以降と考えられる土坑２基（ＳＫ０８・０９）、古墳時代前期～中期と考えられる溝跡１条（ＳＤ０３）、弥生時代終末～古墳時代初頭の方形周溝墓１基（ＳＨ０１）、土坑２基（ＳＫ０１・１４）、弥生時代中期～後期の竪穴住居跡１軒（ＳＩ０３）、弥生時代後期の竪穴住居跡８軒（ＳＩ０１・０２・０４～０９）、土坑16基（ＳＫ０３～０６・１０・１２・１３・１５～２０・２２～２４）、ピット18基（Ｐ０１～Ｐ１８）、弥生時代後期以前の土坑１基（ＳＫ０２）が確認された。

近世の溝跡は１条（ＳＤ０１）が調査区東西幅のほぼ中央をクランク状に屈曲して北一南方向に走り、もう１条（ＳＤ０２）はＳＤ０１のクランク南側の約１ｍ東側を並走しクランク部で合流する。溝跡からは近世瓦（軒桟瓦など）が出土したことから近世遺構と判断した。今回の発掘調査の主対象の時代とは異なるため遺構範囲のみを記録した。

古代の土坑は、調査区南西部に１基（ＳＫ０７）、調査区南東部に１基（ＳＫ１１）分布する。古墳時代中期の土坑は調査区北西部に１基（ＳＫ２１）分布し、古墳時代中期以降の土坑は南西部に２基（ＳＫ０８・０９）が分布する。古代・古墳時代の土坑分布に傾向は見られない。古墳時代前期～中期の溝跡（ＳＤ０３）は、調査区北東隅部と南西隅部を結ぶように走り、調査区内を北西側と南東側に二分している。

弥生時代末～古墳時代初頭の方形周溝墓（ＳＨ０１）は、調査区東側で周溝の北西隅部付近が確認され、土坑は調査区南東部に１基（ＳＫ０１）分布する。

弥生時代後期の８軒の竪穴住居跡の分布状況は３か所に分かれている。１つは調査区南東部で、２軒（ＳＩ０１・０２）が重複している。１つは調査区東側で、２軒（ＳＩ０８・０９）が重複する。１つは調査区西側で、４軒（ＳＩ０４～０７）が重複している。調査区北側では竪穴住居跡が確認されなかったことから、集落域の北限である可能性が高い。弥生時代中期～後期の竪穴住居跡（ＳＩ０３）は調査区東側に分布し、ＳＩ０８・０９の南側に位置する。弥生時代後期の土坑は、竪穴住居跡のない場所に分布している。分布状況に傾向は見られな



第３図　調査区全体図・基本層序断面図

いが、調査区北壁際で土坑が確認されていない状況から、本調査区北側は活動範囲の外であったのではないかと思われる。また、ピットも同様に竪穴住居跡のない場所に分布しているが調査区北半分には見られない。

弥生時代後期以前の土坑は、調査区南東部に分布する。弥生時代後期の竪穴住居跡の下から確認された。遺構は南側の調査区外へと続いており、遺構の分布も南側に広がるものと思われる。

基本層序　Ⅰ層は表土及び近代に改変を受けた土層である。表土掘削中にプラスチックごみや近世瓦をまとめ

て廃棄したごみ穴が見られた。この改変が所々で深く掘り込まれており、遺構確認面で撹乱として確認された。Ⅱ層は黒褐色土である。Ⅲ層以下の土よりわずかに明るく、白色粒を少量含む。Ⅲ層は黒褐色土である。φ１cmの白色粒を多量含む。また、炭化物・焼土粒及び土師器・須恵器片を微量含む。白色粒の量によってⅢ´層を細分した。Ⅳ層は黒褐色土である。φ５mm～φ１cmの白色粒を含むがⅢ層よりも少ない。弥生土器及び土師器・須恵器を含む遺物包含層で、炭化物・焼土粒も含む。遺構確認面を境にⅣ´層を細分した。Ⅴ層はにぶい黄褐色シルト質砂で、前橋泥流の基盤層である。

第２節　竪穴住居跡

今回の発掘調査では、９軒の竪穴住居跡が確認された。時期はいずれも弥生時代中期～後期と考えられる。

１号竪穴住居跡（第４・５図、写真図版１・10）

位置　調査区南東部。　**重複関係**　２号住居跡、１号・２号土坑と重複する。本遺構は１号土坑よりも古く、２号住居跡・２号土坑よりも新しい。　**遺存状態**　南壁が調査区外にあり、東壁は削平されたため遺存しない。

覆土　黒褐色土が基調で、炭化物・焼土粒を含む。　**平面形と規模**　平面形は隅丸方形を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸が4.11ｍ遺存、短軸が4.06ｍ遺存する。確認面からの深さは最深21cmを測る。　**長軸方位**　Ｎ－26°－Ｗ。　**壁・壁溝**　壁高は北壁で６cm、西壁で18cmを測り、ともに外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　東壁際の２号住居跡と重複する部分で多量の白色粘土・黄橙色土ブロックが見られる範囲があったことから、貼床の可能性が高い。下層に遺構が存在する為か若干波打ったような起伏が見られる。

柱穴　４基確認された。ｐ１が西壁外側の中央寄り、ｐ２・ｐ３が北壁際の中央、ｐ４が東壁際の中央寄りで確認され、位置から柱穴と考えられる。平面形はｐ１・ｐ３・ｐ４が楕円形、ｐ２が円形を呈する。規模はｐ１が40cm×23cm、深さ39cm、ｐ２が38cm×36cm、深さ36cm、ｐ３が38cm×26cm、深さ26cm、ｐ４が63cm×47cm、深さ56cmを測る。　**炉**　確認できなかった。しかし、床面中央やや北寄りで確認された石が炉に伴うものであった可能性が高い。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　遺物量は多く住居跡全域に偏りなく出土しているが、遺存度の高い遺物は少ない。赤彩が施された遺物も少量出土している。　**遺物**　弥生土器・土製品・石器が出土し、そのうちの弥生土器11点、土製勾玉１点、石器２点を図示し得た。土器は弥生時代後期の樽式Ⅱ～Ⅲ期と思われる。石器は叩石・磨石である。　**備考**　約４ｍ×4.2ｍ規模と思われる竪穴住居跡である。出土遺物から本遺構の帰属時期は弥生時代後期の樽式Ⅱ～Ⅲ期にかけてと考えられる。

２号竪穴住居跡（第６図、写真図版２・10）

位置　調査区南東部。　**重複関係**　１号住居跡、２号土坑と重複する。本遺構は１号住居跡よりも古く、２号土坑よりも新しい。　**遺存状況**　南隅部・東隅部が調査区外にあり、上部は１号住居跡によって壊されている。

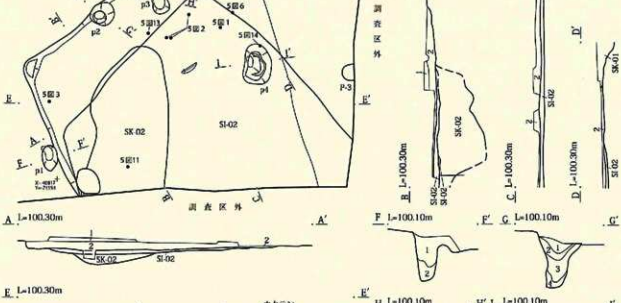
覆土　黒褐色土が基調である。　**平面形と規模**　平面形は西壁側が開いた隅丸台形状を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸が3.91ｍ遺存、短軸が3.84ｍ遺存する。確認面からの深さは最深９cmを測る。　**長軸方位**　Ｎ－44°－Ｗ。　**壁・壁溝**　壁高は北壁で５cm、東壁で８cmを測り、ともに外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　２号土坑上の一部で白色粘土による貼床が見られた。２号土坑周辺は若干起伏が見られるがその他は概ね平坦である。　**柱穴**　確認されなかった。　**炉**　調査区南壁際の床面ほぼ中央で確認された。北側に炭化物が広がり、南側に炉石が遺存する。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　遺物量は少なく、散見される程度である。赤彩が施された遺物も少量出土している。　**遺物**　弥生土器・剥片が出土し、そのうちの弥生土器４点を図示し得た。弥生時代後期の樽式と思われる。　**備考**　一辺約４ｍ前後の規模と思われる竪穴住居跡である。破片資料であるが樽式土器が出土していること及び遺構の重複関係から、本遺構の帰属時期は弥生時代後期で１号住居跡よりも古いと思われる。

3号竪穴住居跡（第7図、写真図版2）

位置　調査区東側。　**重複関係**　1号方形周溝墓と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　東側の大半が調査区外にあり、北壁・西壁南半分は削平され遺存しない。　**覆土**　黒褐色土が基調で、炭化物・焼土粒を含む。

平面形と規模　平面形は隅丸方形を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸が推定4.04 m、短軸が2.65 m遺存する。確認面からの深さは最深8 cmを測る。　**長軸方位**　N－9°－W。　**壁・壁溝**　壁高は西壁で8 cmを測り、外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　概ね平坦である。　**柱穴**　確認されなかった。

炉　確認されなかった。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　遺物量は少なく、散見される程度である。赤彩が施された遺物も少量出土している。　**遺物**　弥生土器・剥片が出土し、そのうちの弥生土器



SI-01 AA' BB' CC' DD' EE'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ1 cm)にぶい黄橙色土(地山)粒・炭化物粒・白色粒微量含む。
2. 10YR3/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄橙色土(地山)粒少量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ3 cm～φ5 cm)・炭化物粒・焼土粒・白色粒微量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄色土ブロック(φ1 cm)少量、焼土粒(φ5 mm)微量含む。炭粒。
4. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ3 cm)多量・(φ5 mm)少量、にぶい黄橙色土(地山)粒・炭化物(φ5 mm)・白色粒微量含む。炭粒。
5. 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱 粘性強
にぶい黄橙色土(地山)粒少量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ3 cm)・焼土粒微量含む。
6. 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱 粘性中
にぶい黄橙色土(地山)粒多量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ1 cm)微量含む。

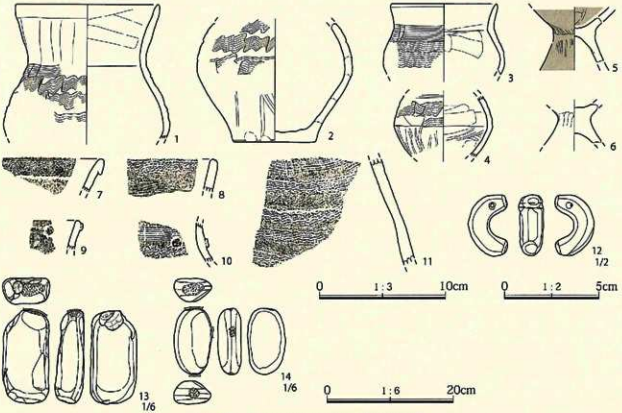
SI-01p1 FF'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄橙色土(地山)粒少量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ5 mm)・炭化物微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄橙色土(地山)多量、にぶい黄色土(地山)ブロック(φ1 cm)少量、焼化炭微量含む。

SI-01p2 GG'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ5 mm)・にぶい黄橙色土(地山)粒・焼土粒微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱 粘性弱
にぶい黄橙色土(地山)粒多量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ1 cm)・炭化炭微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱 粘性強
にぶい黄橙色土(地山)粒多量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ3 cm)・焼土粒微量含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄橙色土(地山)粒多量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ1 cm)微量含む。

SI-01p3 HH'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ3 mm)・にぶい黄橙色土(地山)粒・炭化物粒・焼土粒・白色粒微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄橙色土(地山)粒少量、炭化物粒・微炭粒微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄橙色土(地山)粒多量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ5 mm)少量、炭化物(φ5 mm)・焼土粒・微炭粒微量含む。

SI-01p4 II'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ1 cm)・にぶい黄橙色土(地山)粒・炭化物粒微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄橙色土(地山)粒少量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ3 cm)微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄橙色土(地山)粒多量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ1 cm)少量含む。

第4図　1号竪穴住居跡平面・断面図



第５図　１号竪穴住居跡出土遺物実測図

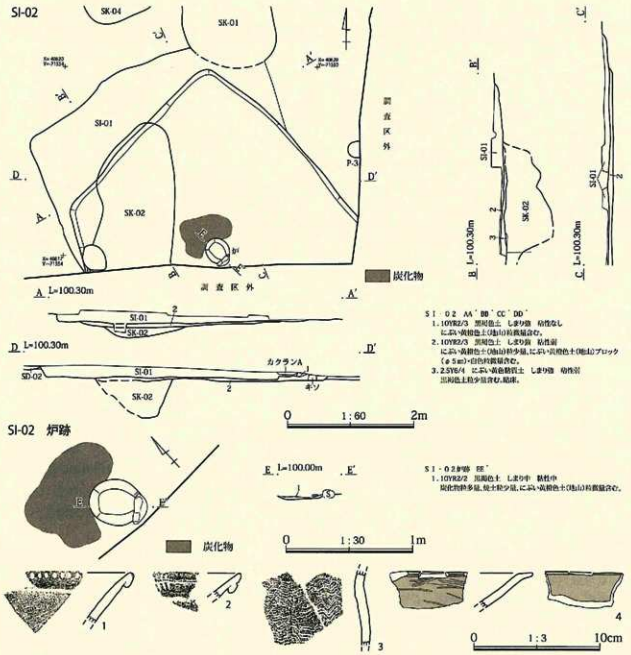
１点を図示し得た。縄文が施されていることから、弥生時代中期の遺物と考えらえる。　**備考**　確認された平面形が隅丸方形を呈すると思われることから、一辺４ｍほどの竪穴住居跡と判断した。破片資料であるが出土遺物から、本遺構の帰属時期は弥生時代中期～後期にかけてと考えられる。

４号竪穴住居跡　（第８図、写真図版２・５・10）

位置　調査区西側。　**重複関係**　５号住居跡・９号土坑・３号溝跡と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　東西隅部を結んだ北側半分が５号住居跡によって、南東壁は３号溝跡によって壊されている。　**覆土**　黒褐色土が基調で白色粒を含む。　**平面形と規模**　確認された南西壁が直線状で端部が丸みを帯びることから、平面形は隅丸方形を呈するものと思われる。規模は上端幅で長軸が 2.26 ｍ遺存、短軸が 2.23 ｍ遺存する。確認面からの深さは最深 10㎝を測る。　**長軸方位**　Ｎ－59°－Ｗ。　**壁・壁溝**　壁高は南西壁で８㎝を測り、外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　若干の起伏が見られるが、概ね平坦である。　**柱穴**　４基確認された。ｐ１が東隅部側、ｐ２～ｐ４が南隅部側に位置する。位置・規模からｐ１～ｐ３が柱穴と考えられる。平面形はｐ１・ｐ２が楕円形、ｐ３・ｐ４が不整円形を呈する。規模はｐ１が 34㎝× 26㎝、深さ 41㎝、ｐ２が 55㎝× 26㎝、深さ 28㎝、ｐ３が 21㎝× 20㎝、深さ 14㎝、ｐ４が 28㎝× 24㎝、深さ 11㎝を測る。　**炉**　確認されなかった。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　遺物量は少なく、散見される程度である。　**遺物**　古式土師器（Ｓ字甕）・弥生土器・剥片が出土し、そのうち弥生土器３点を図示し得た。古式土師器は流れ込んだ遺物と考える。　**備考**　南西壁が確認され、隅丸方形を呈すると思われることから、一辺 2.3 ｍほどの小型の竪穴住居跡と判断した。破片資料であるが樽式土器が出土していること及び遺構の重複関係から、本遺構の帰属時期は弥生時代後期で５号住居跡よりも古いと思われる。

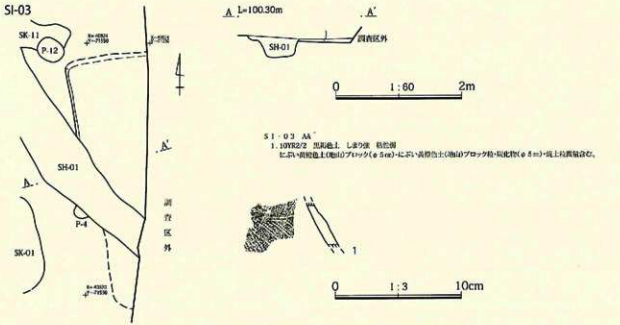
５号竪穴住居跡　（第９～11 図、写真図版３・５・10）

位置　調査区西側。　**重複関係**　４号・６号・７号住居跡、３号溝跡と重複する。本遺構は６号住居跡・３号



第６図　２号竪穴住居跡平面・断面図、出土遺物実測図

溝跡より古く、４号・７号住居跡よりも新しい。　**遺存状態**　北壁東半分から北隅を経て東壁の３／４を６号住居跡、東隅部を３号溝跡によって壊され、西隅部から西壁２／３は調査区外にある。　**覆土**　黒褐色土が基調で、白色粒・炭化物を含む。　**平面形と規模**　確認された南隅部及び壁面の様相から、隅丸長方形を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸が 6.06 m、短軸が 4.51 m を測る。確認面からの深さは最深 23cm を測る。　**長軸方位**　N－22°－W。　**壁・壁溝**　壁高は南壁で 14cm、西壁で 23cm を測り、南壁はほぼ垂直に、西壁は外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　概ね平坦である。南隅部あたりに掘方が確認された。　**柱穴**　14 基確認され、そのうちｐ６～ｐ８、ｐ９・ｐ 10 は重複する。ｐ１が東壁際、ｐ２が南東隅部寄り、ｐ３・ｐ５～ｐ 10 が南壁際、ｐ 14 が北壁際、ｐ４・ｐ 11 ～ｐ 13 が住居跡中央寄りにある。位置・規模・形態からｐ１・ｐ６・ｐ８・ｐ 10・ｐ 11・ｐ 13・ｐ 14 が柱穴と考えられる。平面形はｐ１・ｐ４・ｐ 10・ｐ 11・ｐ 14 が不整円形、ｐ２・ｐ６～ｐ９・ｐ 12・ｐ 13 が不整楕円形、ｐ３・ｐ５が不整形を呈する。規模はｐ１が 25cm × 22cm、深さ 29cm、ｐ２が 25cm× 19cm、深さ 18cm、ｐ３が 36cm× 34cm、深さ 18cm、ｐ４が 40cm× 37cm、



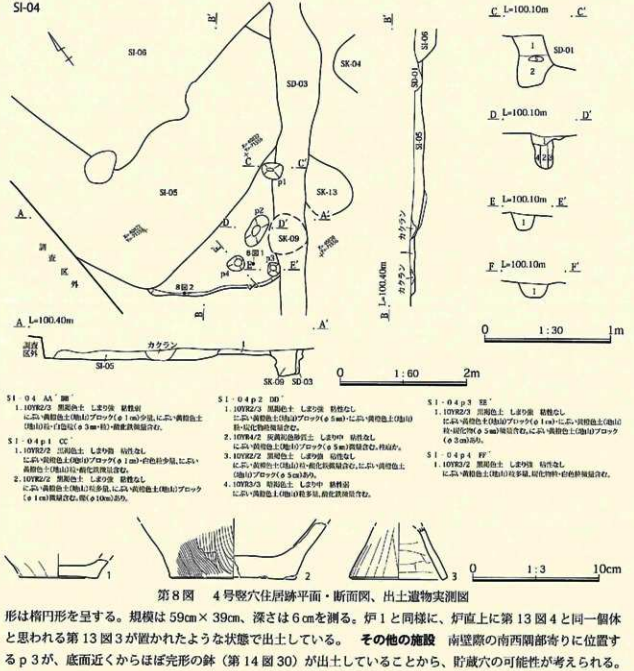
第７図　３号竪穴住居跡平面・断面図、出土遺物実測図

深さ 30cm、ｐ５が 50cm× 36cm、深さ 17cm、ｐ６が推定 39cm× 25cm、深さ 35cm、ｐ７が 23cm残存× 23cm、深さ 19cm、ｐ８が推定 46cm× 31cm、深さ 48cm、ｐ９が 29cm残存× 47cm、深さ 70cm、ｐ 10 は推定 55cm× 52cm、深さ 68cm、ｐ 11 は 55cm× 48cm、深さ 44cm、ｐ 12 は 59cm× 45cm、深さ 35cm、ｐ 13 は 49cm× 38 cm、深さ 49cm、ｐ 14 は 41cm× 20cm残存、深さ 36cmを測る。　**炉**　確認されなかった。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　遺物量は多く、赤彩が施された土器片も多量出土している。　**遺物**　弥生土器・土製品が出土し、そのうち弥生土器 27 点、土製紡錘車１点を図示し得た。土器は弥生時代後期の樽式Ⅱ期～Ⅲ期と思われる。　**備考**　確認された平面形態及び床面・ピットの状況から、約 6 m× 4.5 mの竪穴住居跡と判断した。出土遺物から本遺構の帰属時期は弥生時代後期の樽式Ⅱ期～Ⅲ期にかけて、遺構の重複関係から４号・７号住居跡よりも新しいと考えられる。

６号竪穴住居跡　（第 12 図～ 15 図、写真図版３～５・10・11）

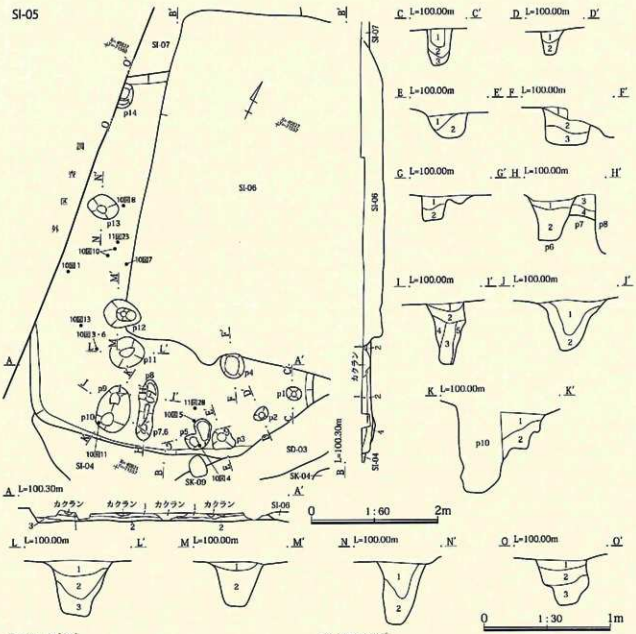
位置　調査区西側。　**重複関係**　５号・７号住居跡、15 号土坑、３号溝跡と重複する。本遺構は３号溝跡より古く、５号・７号住居跡、15 号土坑よりも新しい。　**遺存状態**　南東隅部が３号溝跡によって壊されている。

覆土　黒褐色土が基調で、上層は白色粒を多量含む。　**平面形と規模**　平面形は隅丸方形を呈する。規模は上端幅で長軸が 5.73 m、短軸が 4.71 mを測る。確認面からの深さは最深 35cmを測る。　**長軸方位**　Ｎ－ 15°－Ｗ。　**壁・壁溝**　壁高は東壁・西壁が 30cm、南壁・北壁が 18cm～ 20cmを測り、壁はいずれも外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　概ね平坦である。　**柱穴**　８基確認された。ｐ１・ｐ２が南壁際の中央寄り、ｐ４が南壁際の南西隅部寄り、ｐ５が西壁際の中央寄り、ｐ６・ｐ９が西壁際の北西隅部寄り、ｐ７が住居跡中央部の北東隅部側、ｐ８が北壁際の北東隅部寄りに位置する。位置・規模から全て柱穴と考えられる。ｐ６とｐ９は隣接することから柱の付け替えが行われた可能性がある。平面形はｐ１・ｐ２・ｐ６・ｐ８が楕円形、ｐ４・ｐ５が円形、ｐ７・ｐ９が不整円形を呈する。規模はｐ１が 28cm× 20cm、深さ９cm、ｐ２が 40cm× 22cm、深さ 56cm、ｐ４が 23cm× 23cm、深さ 36cm、ｐ５が 27cm× 26cm、深さ 34cm、ｐ６が 25cm× 20cm、深さ 31 cm、ｐ７が 36cm× 34cm、深さ 34cm、ｐ８が 40cm× 26cm、深さ 24cm、ｐ９が 35cm× 30cm、深さ 47cmを測る。　**炉**　２基確認され、炉１は北壁際の北壁中央付近、炉２は東壁際の東壁中央やや南寄りに位置する。共に周囲に多量の炭化物、炉内に灰が堆積している。炉１の平面形は隅丸方形を呈する。規模は 53cm× 46cm、深さ６cmを測り、南側に炉石が遺存する。炉の直上に第 13 図４が置かれたような状態で出土している。炉２の平面



第８図　４号竪穴住居跡平面・断面図、出土遺物実測図

形は楕円形を呈する。規模は 59cm× 39cm、深さは６cmを測る。炉１と同様に、炉直上に第 13 図４と同一個体と思われる第 13 図３が置かれたような状態で出土している。　**その他の施設**　南壁際の南西隅部寄りに位置するｐ３が、底面近くからほぼ完形の鉢（第 14 図 30）が出土していることから、貯蔵穴の可能性が考えられる。平面形は楕円形を呈し、規模は 54cm× 38cm、深さは 31cmを測る。　**遺物出土状況**　弥生土器の出土量は非常に多く、また微量の石器・剥片・自然石が出土している。覆土下層から床面にかけても多くの弥生土器が出土し、出土位置に特に偏りは見られない。ほぼ完形の遺存状態の良い土器のほか、赤彩が施された土器も非常に多く出土している。第 13 図３・４は同一個体と考えられる土器が２か所の炉の上から出土している状況から、何らかの意図があって置かれたものと思われる。　**遺物**　弥生土器・石器・剥片・自然石が出土し、そのうち弥生土器 39 点、石器６点、原石１点を図示し得た。土器は弥生時代後期の樽式土器Ⅱ期～Ⅲ期であるが、Ⅲ期の土器が主体である。第 13 図 10、第 14 図 17・30 はほぼ完形品である。石器は打製石斧・スクレイパー・磨製石鏃未成品・敲石・砥石で、原石は蛇紋岩と思われる。　**備考**　本遺構は約 5.7 m× 4.7 mの隅丸長方形で、炉を２基有する竪穴住居跡である。出土遺物は樽式Ⅱ期～Ⅲ期であるがⅢ期が主体となっていることから、本遺構の帰属時期は弥生時代後期の樽式Ⅲ期と考えられる。



SI-05 AA' BB'
1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
白色粒少量、にぶい褐色土(地山)ブロック(φ1cm)・炭化物(φ1cm)微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土(φ3mm)少量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)・炭化物(φ1cm)・白色石微量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、焼化少量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)・白色石微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ3cm)・にぶい黄橙色土(地山)粒多量含む。粘土。

SI-05p1 CC'
1. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり弱 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ5cm)少量、白色石微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)・炭化物粒微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒土部に多量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ5mm)微量含む。

SI-05p2 DD'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ5mm)・焼土(φ5mm)微量含む。
炭化物(φ1cm)あり。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒少量含む。

SI-05p3 EE'
1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ5cm)・にぶい黄橙色土(地山)粒微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒少量含む。炭化物(φ1cm)あり。

SI-05p4 FF'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)・炭化物(φ5cm)微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒・ブロック(φ5cm)微量含む。

SI-05p5 GG'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ5cm)・にぶい黄橙色土(地山)粒・焼化粒微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒・焼化粒微量含む。

SI-05p6・p7 HH'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ5cm)・にぶい黄橙色土(地山)粒・炭化物(φ5cm)・白色石微量含む。
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ3cm)あり。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒多量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ1cm)・炭化物粒・白色粒・焼化粒微量含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒多量含む。

第９図　５号竪穴住居跡平面・断面図①

S1 05p8 II

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄橙色土(地山)粒・白色粒微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性なし
にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ5mm)・にぶい黄橙色土(地山)粒少量含む。炭化物(φ1mm)あり。
3. 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまり弱 粘性弱
にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ5mm)・にぶい黄橙色土(地山)粒微量含む。砂質。
4. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり中 粘性弱
にぶい黄橙色土(地山)粒多量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ5mm)微量含む。炭化物(φ1mm)あり。
5. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり弱 粘性弱
にぶい黄橙色土(地山)粒多量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)微量含む。炭化物(φ1mm)あり。

S1 05p9 KK

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし。
にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ5mm)・炭化物(φ1mm)・白色粒・褐化粒微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)少量、にぶい黄橙色土(地山)粒・炭化物(φ1cm)・焼土粒・褐化粒微量含む。

S1 05p10 JJ

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし。
にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ5mm)・白色粒微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄橙色土(地山)粒少量含む。にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ3mm)あり。

S1 05p11 LL

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
白色粒少量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)・にぶい黄橙色土(地山)粒・炭化物粒微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性なし。
にぶい黄橙色土(地山)粒・炭化物粒微量含む。にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)あり。
3. 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまり中 粘性なし。
にぶい黄橙色土(地山)粒多量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)微量含む。

S1 05p12 MM

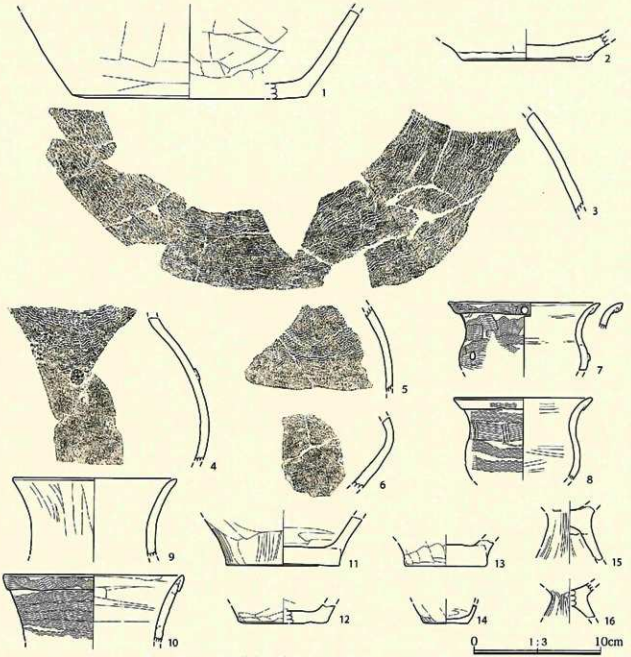
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし。
にぶい黄橙色土(地山)粒・炭化物・白色粒微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄橙色土(地山)粒少量、炭化物粒微量含む。

S1 05p13 NN

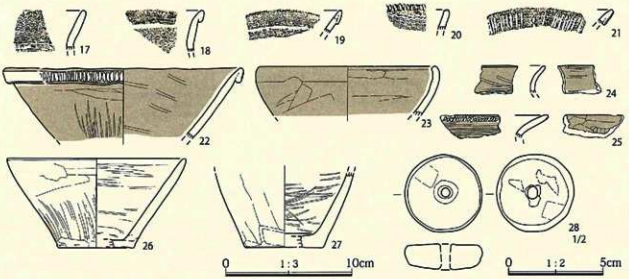
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし。
にぶい黄橙色土(地山)粒・褐化粒少量、にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ5mm)・焼土粒微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまり中 粘性なし。
にぶい黄橙色土(地山)粒・褐化粒微量含む。

S1 05p14 OO

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ5mm)少量、にぶい黄橙色土(地山)粒・炭化物粒微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまり中 粘性なし。
にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ5mm)多量、にぶい黄橙色土(地山)粒・焼土粒微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまり中 粘性なし。
にぶい黄橙色土(地山)ブロック(φ5mm)・にぶい黄橙色土(地山)粒微量含む。



第10図　5号竪穴住居跡平面・断面図②、出土遺物実測図①



第11図　5号竪穴住居跡出土遺物実測図②

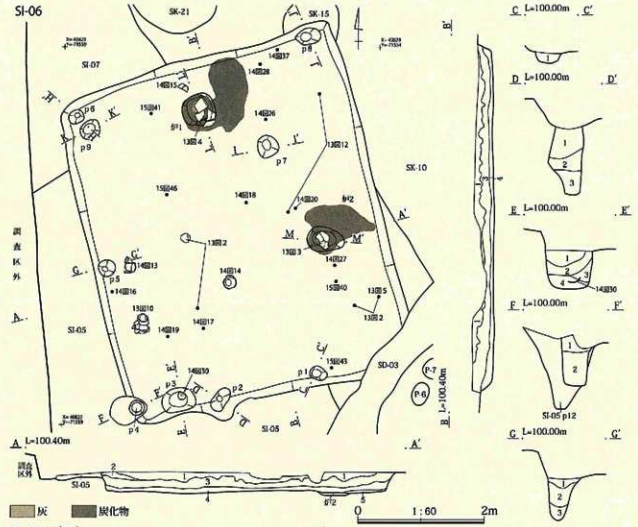
7号竪穴住居跡（第16図、写真図版5・12）

位置　調査区西側。　**重複関係**　5号・6号住居跡と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　南側は5号・6号住居跡によって壊され、西側は調査区外にある。　**覆土**　黒褐色土が基調で、白色粒・炭化物粒を含み、炭化物の塊が出土している。　**平面形と規模**　遺存する北東隅部から、隅丸方形を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸が2.70 m遺存、短軸が2.65 m遺存する。確認面からの深さは最深14cmを測る。　**長軸方位**　N－20°－W。　**壁・壁溝**　壁高は東壁が10cm、北壁が11cmを測り、ともに外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　東側に若干傾斜しているが、概ね平坦である。　**柱穴**　3基確認された。p1が北東隅部、p2が北東隅部寄り、p3が北壁際の北壁中央寄りに位置する。位置・規模からp1・p3が柱穴と考えられる。平面形はp1・p2が楕円形、p3が不整円形を呈する。規模はp1が31cm×25cm、深さ42cm、p2が26cm×20cm、深さ19cm、p3が40cm×32cm、深さ56cmを測る。　**炉**　確認されなかった。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　遺物量は少なく、散見される程度である。赤彩が施された遺物も少量出土している。　**遺物**　弥生土器・自然石が出土し、そのうち弥生土器7点を図示し得た。土器は弥生時代後期の樽式土器である。Ⅰ期と思われる遺物も出土しているが、Ⅱ期～Ⅲ期が主体と思われる。　**備考**　北東隅部が確認され、隅丸方形を呈すると思われることから、竪穴住居跡と判断した。出土遺物から本遺構の帰属時期は弥生時代後期の樽式Ⅱ期～Ⅲ期にかけて、遺構の重複関係から5号・6号住居跡よりも古いと考えられる。

8号竪穴住居跡（第17図、写真図版5・12）

位置　調査区東側。　**重複関係**　9号住居跡、3号溝跡と重複する。本遺構は3号溝跡より古く、9号住居跡よりも新しい。　**遺存状態**　遺構確認の段階で重複する9号住居跡と合わせて1軒の住居跡と捉えて調査を進めたため、北壁は掘削してしまい遺存しない。東側の大半は調査区外にある。　**覆土**　黒褐色土が基調で、上層に白色粒を少量含み、炭化物・焼土粒も含む。　**平面形と規模**　遺存する南西隅部と西壁から隅丸方形を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸が推定3.74 mを測り、短軸が1.33 m遺存する。確認面からの深さは最深37cmを測る。　**長軸方位**　N－3°－W。　**壁・壁溝**　壁高は南壁が33cm、西壁が30cmを測り、ともに外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　中央に向かって非常に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。

柱穴　1基確認された。p2が西壁際の北西隅部付近に位置し、柱穴と判断した。平面形は不整円形を呈し、規模は32cm×27cm、深さ13cmを測る。　**炉**　確認されなかった。　**その他の遺構**　南壁際の南西隅部に位置するp1が形態から貯蔵穴と考えられる。住居壁に接する南側以外の外周に幅16cm～24cm、高さ5cmの周堤が巡る。平面形は不整楕円形を呈し、規模は54cm遺存×47cm、深さ38cmを測る。　**遺物出土状況**　遺物量は多



SI-06 AA' BB'
1.10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
白色粒多量に含む。黄褐色土(地山)ブロック(φ1cm)・炭土粒・微化粒混量含む。
2.10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性弱
に含む・黄褐色土(地山)ブロック(φ1cm)・白色粒微量含む。
3.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
に含む・黄褐色土(地山)ブロック(φ1cm)少量、に含む・黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)・白色粒微量含む。
4.10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
に含む・黄橙色土(地山)ブロック(1cm)・に含む・黄橙色土(地山)粒・炭化物粒・焼土粒微量含む。
5.10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
炭化物粒多量、に含む・黄橙色土(地山)粒微量含む。に含む・黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)あり。

SI-06p1 CC'
1.10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性なし
に含む・黄橙色土(地山)粒少量、に含む・黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm・φ5cm)・炭化物粒・焼土粒微量含む。

SI-06p2 DD'
1.10YR2/3 黒褐色土 しまり中 粘性弱
に含む・黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)・に含む・黄橙色土(地山)粒少量、に含む・黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)・炭化物微量含む。
2.10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
に含む・黄橙色土(地山)粒少量、に含む・黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)微量含む。
3.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性強
に含む・黄橙色土(地山)粒多量含む。

SI-06p3 EE'
1.10YR2/1 黒色土 しまり強 粘性なし
に含む・黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)・白色粒微量含む。
2.10YR2/1 黒色土 しまり中 粘性なし
に含む・黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)少量、に含む・炭化色土(地山)粒微量含む。に含む・黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)あり。
3.10YR2/1 黒色土 しまり弱 粘性弱
に含む・炭粒色土(地山)ブロック(φ3cm)少量、に含む・炭化色土(地山)粒少量含む。
4.10YR2/1 黒色土 しまり弱 粘性弱
に含む・黄橙色土(地山)粒・炭化物粒微量含む。

SI-06p4 FF'
1.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
に含む・炭粒色土(地山)ブロック(φ1cm・φ3cm)・焼土粒微量含む。
2.10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
に含む・炭粒色土(地山)粒少量、に含む・炭粒色土(地山)ブロック(φ5cm)・炭化物粒微量含む。

SI-06p5 GG'
1.10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
に含む・炭粒色土(地山)ブロック(φ5cm)・に含む・黄橙色土(地山)粒・炭土粒微量含む。
2.10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性なし
に含む・炭粒色土(地山)粒少量含む。焼土(φ1cm)あり。
3.10YR3/2 黒褐色砂質土 しまりなし 粘性なし
に含む・炭粒色土(地山)粒多量含む。

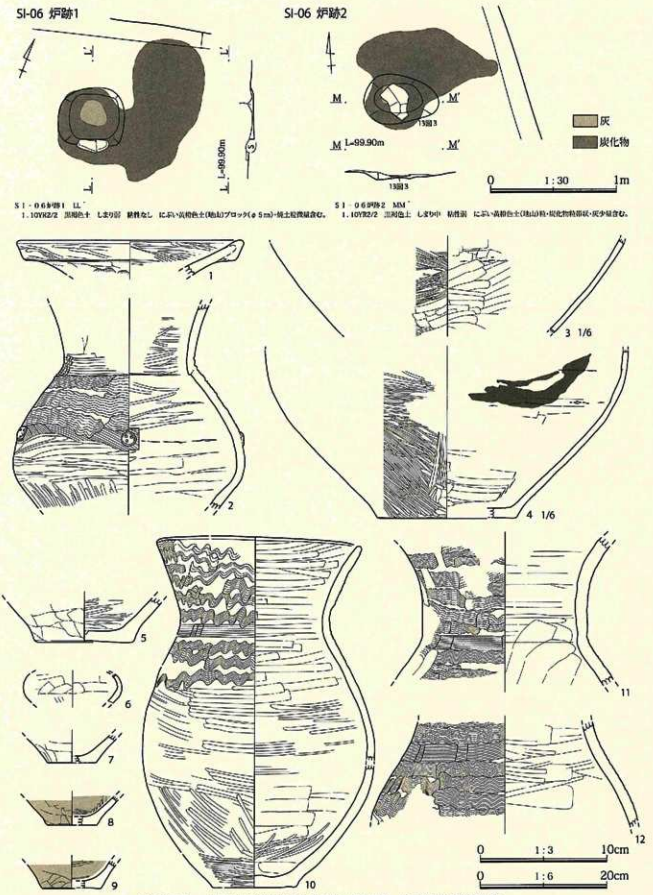
SI-06p6 HH'
1.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
に含む・炭粒色土(地山)粒・焼土粒・白色粒微量含む。
2.10YR3/2 黒褐色土砂質土 しまり中 粘性弱
に含む・黄橙色土(地山)粒多量含む。

SI-06p7 II'
1.10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
に含む・黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)・白色粒少量、に含む・黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm・φ3cm)・焼土粒微量含む。
2.10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
に含む・炭粒色土(地山)粒微量含む。

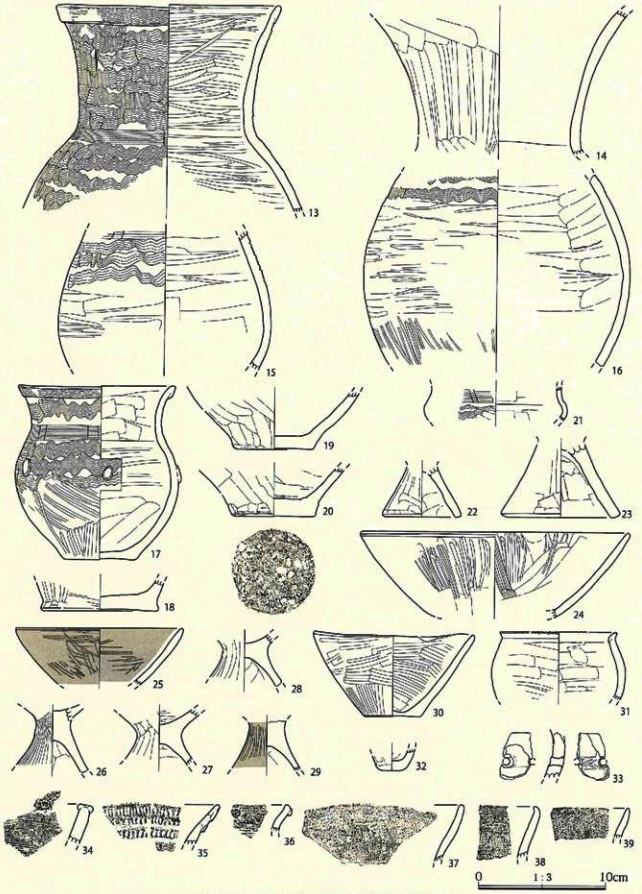
SI-06p8 JJ'
1.10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
に含む・黄橙色土(地山)ブロック(φ3cm)少量、に含む・炭粒色土(地山)ブロック(φ1cm)・に含む・炭粒色土(地山)粒・焼土粒微量含む。に含む・炭粒色土(地山)ブロック(φ5cm)あり。

SI-06p9 KK'
1.10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
上部に含む・炭粒色土(地山)ブロック(φ10cm)少量含む。に含む・黄橙色土(地山)ブロック(φ3cm)少量、に含む・黄橙色土(地山)粒・炭・微化物微量含む。

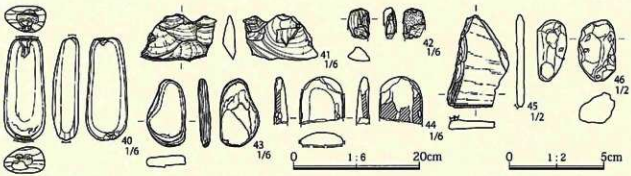
第12図　6号竪穴住居跡平面・断面図



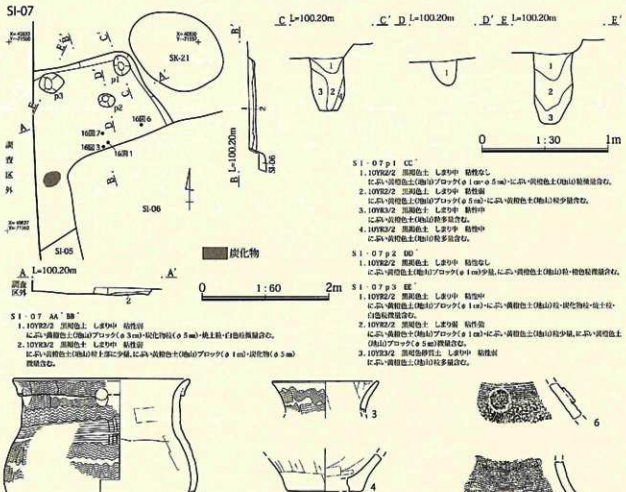
第 13 図　6 号竪穴住居跡炉跡平面・断面図、出土遺物実測図①



第14図　6号竪穴住居跡出土遺物実測図②

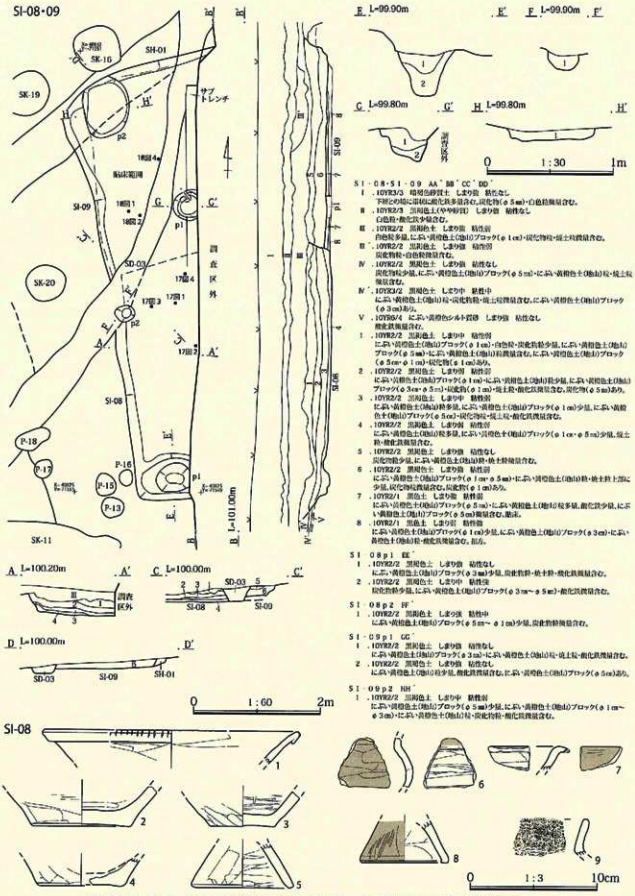


第 15 図　6 号竪穴住居跡出土遺物実測図③

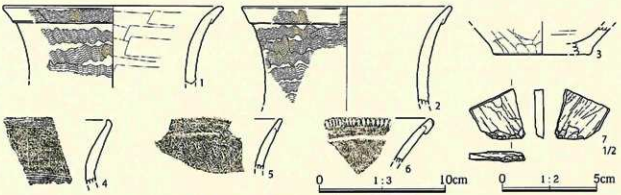


第 16 図　7 号竪穴住居跡平面・断面図、出土遺物実測図

いが、遺存度の高い遺物は少ない。赤彩が施された遺物も少量出土している。　**遺物**　弥生土器・自然石が出土し、そのうち弥生土器９点を図示し得た。弥生時代後期の樽式と思われる。　**備考**　南西隅部と西壁が確認され、隅丸方形を呈すると思われることから、一辺４ｍほどの竪穴住居跡と判断した。遺存度の低い資料であるが樽式土器が出土していること及び遺構の重複関係から、本遺構の帰属時期は弥生時代後期で９号住居跡よりも新しいと思われる。



第17図　8号・9号竪穴住居跡出土遺物実測図



第18図　9号竪穴住居跡出土遺物実測図

9号竪穴住居跡（第17・18図、写真図版5・12）

位置　調査区東側。　**重複関係**　8号住居跡、1号方形周溝墓、3号溝跡と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　南側が8号住居跡によって壊され、東側の大半は調査区外にある。　**覆土**　黒褐色土が基調で、掘方埋土は黒色土でにぶい黄橙色土を多量含む。　**平面形と規模**　遺存する北西隅部と北壁・西壁から隅丸方形を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸が3.18ｍ遺存、短軸が3.16ｍ遺存する。確認面からの深さは最深33cmを測る。

長軸方位　N－73°－E。　**壁・壁溝**　壁高は北壁が35cm、西壁が16cmを測り、ともに外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　覆土とは異なるにぶい黄橙色土を多量に含む面が確認されたことから床面（貼床）と判断した。中央に向かってわずかに傾斜するが、概ね平坦である。　**柱穴**　1基確認された。ｐ1が住居跡中央付近に位置し、柱穴と判断した。平面形は円形を呈し、規模は49cm遺存×47cm、深さ27cmを測る。

炉　確認されなかった。　**その他の遺構**　北壁際の北西隅部に位置するｐ2が貯蔵穴である可能性が考えられるが、掘方埋土のムラを遺構としてしまった可能性も否定できない。平面形は楕円形を呈し、規模は99cm×76cm、深さ11cmを測る。　**遺物出土状況**　遺物量は多いが、遺存度の高い遺物は少ない。赤彩が施された遺物も少量出土している。　**遺物**　弥生土器・石器・自然石が出土し、そのうち弥生土器6点、石器1点を図示し得た。土器は弥生時代後期の樽式土器Ⅱ期～Ⅲ期、石器は磨製石鏃未成品である。　**備考**　北西隅部と北壁・西壁が確認され、隅丸方形を呈すると思われることから竪穴住居跡と判断した。出土遺物から本遺構の帰属時期は弥生時代後期の樽式Ⅱ期～Ⅲ期にかけてと考えられる。

第3節　方形周溝墓

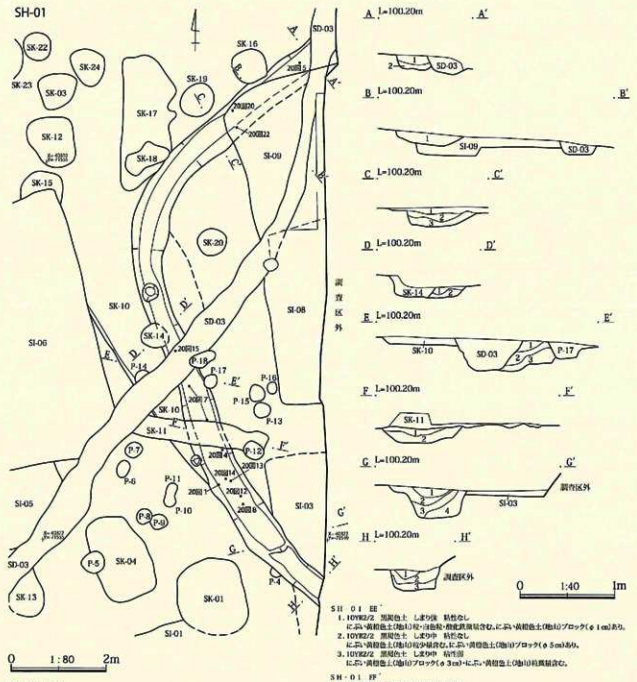
今回の発掘調査では、弥生時代終末期～古墳時代初頭と考えられる方形周溝墓が1基確認された。

1号方形周溝墓（第19・20図、写真図版6・12）

位置　調査区東側。　**重複関係**　3号・9号住居跡、10号・11号・14号土坑、3号溝跡、Ｐ4・Ｐ17と重複する。本遺構は11号・14号土坑、3号溝跡より古く、3号・9号住居跡、10号土坑、Ｐ4よりも新しい。Ｐ17とは新旧不明である。　**遺存状態**　北西隅部及び西辺・北辺西半分が確認され、大半は調査区外にある。

覆土　北辺は黒色土、西辺は黒褐色土が基調である。　**平面形と規模**　平面形は、北西隅部が確認された状況から四隅の切れるものではないが、大半が調査区外にあるため全周するものか一部土橋となるものかは判断できない。規模は長軸が10.18ｍ遺存、短軸が7.14ｍ遺存する。推定全長は15ｍ弱と考えられる。溝幅は上端で54cm～84cmを測る。　**長軸方位**　N－34°－W。　**壁面**　方台部側は西辺南部がほぼ垂直に、その他が大きく外傾して立ち上がり、反対側は北辺及び西辺南部がほぼ垂直に、その間が大きく外傾して立ち上がる。　**底面**　底面高は北辺が99.65ｍ～99.70ｍ、西辺中央が99.68ｍ～99.72ｍ、西辺南側が99.69ｍ～99.75ｍで、傾斜は見られない。　**その他の施設**　周溝内土坑及び方台部に周溝に伴うと考えられる遺構は確認されなかった。

遺物出土状況　遺物量は多いが、遺存度の高い遺物は少ない。赤彩が施された遺物・古式土師器も少量出土している。　**遺物**　弥生土器・古式土師器・石器・自然石が出土し、そのうち弥生土器17点、古式土師器4点、



SH-01 AA'
1.10YR2/1 黒色土 しまり強 粘性なし
に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ5m)微量含む。

SH-01 BB'
1.10YR2/1 黒色土 しまり中 粘性中
に赤い黄橙色土(地山)粒少量、に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ5m)・焼土粒微量含む。

SH-01 DD'
1.10YR2/1 黒色土 しまり強 粘性弱
に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ3cm)微量含む。

SH-01 CC'
1.10YR2/1 黒色土 しまり強 粘性なし
白色粒多量、に赤い黄橙色土(地山)粒少量、に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ3cm)微量含む。
2.10YR2/1 黒色土 しまり中 粘性弱
白色粒少量、に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)・に赤い黄橙色土(地山)粒・焼土粒微量含む。
3.10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
に赤い黄橙色土(地山)粒多量、に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)少量、白色粒微量含む。

SH-01 DD'
1.10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ3cm)少量、に赤い黄橙色土(地山)粒・焼土粒微量含む。
2.10YR5/3 に赤い黄橙色シルト質砂
しまり中 粘性弱 黒褐色土粒少量、焼土粒微量含む。

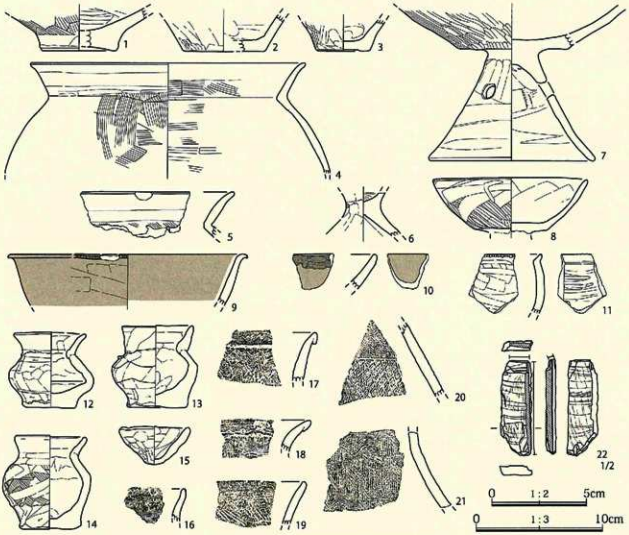
SH-01 EE'
1.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
に赤い黄橙色土(地山)粒・白色粒・焼土粒微量含む、に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)あり。
2.10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性なし
に赤い黄橙色土(地山)粒少量含む、に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)あり。
3.10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ3cm)・に赤い黄橙色土(地山)粒微量含む。

SH-01 FF'
1.10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)・に赤い黄橙色土(地山)粒・焼土粒・白色粒微量含む。
2.10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ1m~φ5m)少量、に赤い黄橙色土(地山)粒・焼土粒微量含む。

SH-01 GG'
1.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)・に赤い黄橙色土(地山)粒・焼土粒・白色粒微量含む、に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ3cm)・焼土粒あり。
2.10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
に赤い黄橙色土(地山)粒少量、焼土粒微量含む、に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)あり。
3.10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
に赤い黄橙色土(地山)粒多量、に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)微量含む。

SH-01 HH'
1.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
白色粒少量、に赤い黄橙色土(地山)粒・焼土粒微量含む。
2.10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)・に赤い黄橙色土(地山)粒・炭化物(φ2cm)・白色粒微量含む。
に赤い黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)あり。
3.10YR3/2 黒褐色土 しまり弱 粘性中
に赤い黄橙色土(地山)粒多量、焼土粒微量含む。

第19図　1号方形周溝墓平面・断面図



第20図　1号方形周溝墓出土遺物実測図

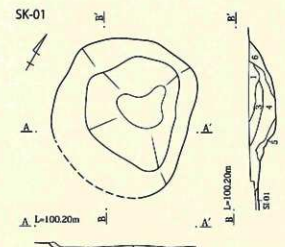
磨製石鏃未成品1点を図示し得た。第20図4・5はS字状口縁台付甕を模倣した古式土師器と思われる。第20図7・8は古式土師器で、東海地方廻間式土器の有段高坏と思われる。第20図12～14はミニチュア土器である。祭祀または祈祷に使用されたものと考えられる。　**備考**　約90°屈曲する平面形及び祭祀に使用したと考えられる遺物が出土している状況から、本遺構は方形周溝墓と判断した。平面形態及び弥生時代後期樽式土器・古式土師器が出土していることから、本遺構の帰属時期は弥生時代終末期～古墳時代初頭にかけてと考えられる。

第4節　土坑

今回の発掘調査では、古代の土坑2基、古墳時代中期の土坑1基、古墳時代中期以降の土坑2基、弥生時代終末期～古墳時代初頭の土坑2基、弥生時代後期の土坑16基、弥生時代後期以前の土坑1基が確認された。

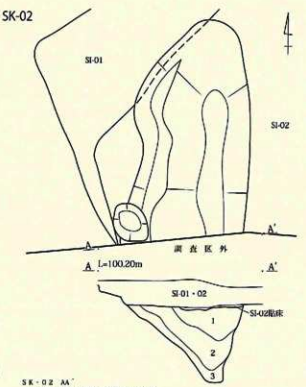
1号土坑　（第21図、写真図版6）

位置　調査区南東部。　**重複関係**　1号住居跡と重複し、本遺構の方が新しい。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　上層は黒褐色土・黒色土、下層は暗褐色土が堆積する。　**平面形と規模**　平面形は不整方形を呈する。規模は長軸推定165cm、短軸143cm、確認面からの深さ29cmを測る。　**長軸方位**　N－19°－W。　**壁面**　東側は急角度で立ち上がり、大きく外傾する。西側は大きく外傾して立ち上がる。　**底面**　西から東へ緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。　**遺物**　弥生土器と古式土師器が出土したが、図示し得るものはなかった。　**備考**　本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭と考えられる。



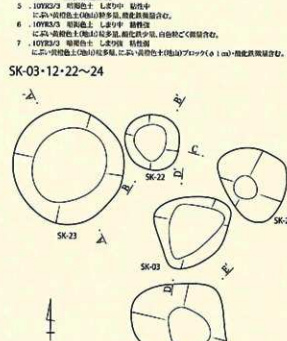
SK-01 AA' 断面

1 . 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり強 粘性中
自色粒・微炭粒含む。
2 . 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
に赤・黄橙色土(φ1cm)粒・焼土粒・自色粒微量含む。
3 . 10YR2/1 黒色土 しまり中 粘性強
に赤・黄橙色土(φ1cm)・に赤・黄橙色土(地山)粒・焼土粒・自色粒微量含む。
4 . 10YR2/1 黒色土 しまり中 粘性強
に赤・黄橙色土(地山)粒少量、に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ5mm)・白色粒(φ5mm)微量含む。
5 . 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性強
に赤・黄橙色土(地山)粒多量、に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ3mm・φ1mm)・炭化物粒(φ5mm)・白色粒(φ5mm)・焼土粒微量含む。
6 . 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性強
に赤・黄橙色土(地山)粒多量、焼化粒少量、白色粒ごく微量含む。
7 . 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性強
に赤・黄橙色土(地山)粒多量、に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)・焼化粒微量含む。



SK-02 AA'

1. 10YR1.7/1 黒色土 しまり中 粘性強
に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ5m)・に赤・黄橙色土(地山)粒微量含む。
2. 10YR1.7/1 黒色土 しまり中 粘性強
に赤・黄橙色土(地山)粒・焼土粒微量含む。
3. 10YR1.7/1 黒色土 しまり中 粘性強
に赤・黄橙色土(地山)粒多量含む。



SK-12 EE'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ3cm)・に赤・黄橙色土(地山)粒・焼化粒微量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 しまり強 粘性なし
に赤・黄橙色土(地山)粒・黒褐色土粒微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
に赤・黄橙色土(地山)粒少量、に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)・焼化粒微量含む。

SK-23 AA'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
炭粒混入部に白色灰少量、に赤・黄橙色土(地山)粒・炭化物粒・焼土粒微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
に赤・黄橙色土(地山)粒多量含む。

SK-22 BB'

1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
に赤・黄橙色土(地山)粒微量含む。に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ5mm)あり。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ5mm・φ1cm)・に赤・黄橙色土(地山)粒・焼土粒微量含む。

SK-24 CC'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)・に赤・黄橙色土(地山)粒・焼土粒・白色粒微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性強
に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)・に赤・黄橙色土(地山)粒少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性弱
に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)・に赤・黄橙色土(地山)粒・白色粒微量含む。

SK-03 DD'

1. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
に赤・黄橙色土(地山)粒少量、白色粒微量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性弱
に赤・黄橙色土(地山)粒多量含む。

第21図　1号～3号・12号・22号～24号土坑平面・断面図

2号土坑（第21・24図、写真図版7・12）

位置　調査区南東部。　**重複関係**　1号・2号住居跡と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　南側が調査区外にあるが概ね良好。　**覆土**　黒色土が基調である。　**平面形と規模**　南側が調査区外にあるため全容は不明であるが、不整楕円形を呈すると思われる。規模は長軸236cm遺存、短軸146cm、確認面からの深さ86cmを測る。

長軸方位　N－1°－W。　**壁面**　東壁は約80°の急傾斜で立ち上がる。北壁・西壁は大きく外傾して立ち上がる。　**底面**　幅19cm～28cmと細長い。概ね平坦である。　**遺物**　縄文土器1点、弥生土器2点、磨製石鏃未成品1点を図示し得た。　**備考**　本遺構は壁面の形態から陥し穴と考えられる。また、南側が長く延びる溝の北端部である可能性も考えられる。帰属時期は、本遺構の覆土上に2号住居跡の貼床が確認されたことから弥生時代後期以前と考えられる。

3号土坑（第21図、写真図版6）

位置　調査区北西部。　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積する。　**平面形と規模**　平面形は不整形を呈する。規模は長軸82cm、短軸73cm、確認面からの深さ18cmを測る。

長軸方位　N－64°－E。　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　若干起伏が見られる。　**遺物**　出土していない。　**備考**　本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周囲の主要な遺構と同時期の弥生時代後期と考えられる。

4号土坑（第22・24図、写真図版7・12）

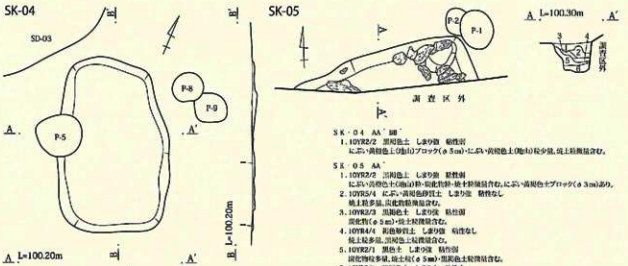
位置　調査区南東部。　**重複関係**　P5と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　上部が掘削され、ほぼ底面のみである。　**覆土**　黒褐色土が基調である。　**平面形と規模**　平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸186cm、短軸119cm、確認面からの深さ3cmを測る。　**長軸方位**　N－25°－W。　**壁面**　遺存せず不明。　**底面**　概ね水平であるが、起伏が見られる。　**遺物**　弥生土器1点を図示し得た。　**備考**　本遺構は形態に特徴がないことから性格は不明である。遺構ではなく微地形の可能性もある。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

5号土坑（第22・24図、写真図版7）

位置　調査区南西部。　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　南側の大半が調査区外にあるが、概ね良好。　**覆土**　黒褐色土が基調である。多量の炭化物・焼土粒を含む。　**平面形と規模**　遺存する北東隅部と北壁から隅丸方形を呈すると思われる。規模は長軸183cm遺存、短軸74cm遺存、確認面からの深さ31cmを測る。　**長軸方位**　N－68°－E。　**壁面**　急角度で立ち上がる。北東隅部に酸化（焼土化）した部分が確認された。　**底面**　中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。　**遺物**　弥生土器1点を図示し得た。　**備考**　本遺構は壁面に酸化が見られること、土坑内に多量の炭化物・焼土が含まれていることから、焼成土坑ではないかと考える。また、検出範囲がわずかであるため土坑と捉えたが焼失住居跡の可能性も考えられる。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

6号土坑（第22・24図、写真図版7・12）

位置　調査区南西部。　**重複関係**　近世溝跡と重複する。　**遺存状態**　東側を近世溝跡によって壊されている。　**覆土**　上層は黒褐色土、中層は黒色土、下層はにぶい黄褐色砂質土が堆積する。　**平面形と規模**　東側が壊されているため全容は不明であるが、楕円形を呈すると思われる。規模は長軸105cm遺存、短軸61cm遺存、確認面からの深さ20cmを測る。　**長軸方位**　N－19°－E。　**壁面**　大きく外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦である。北側はテラス状を呈し一段高くなる。　**遺物**　弥生土器6点を図示し得た。　**備考**　本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

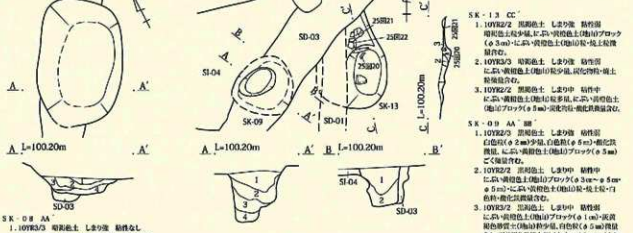


SK-04 AA′ 線
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)・に赤・黄橙色土(地山)粒少量、炭土粒微量含む。

SK-05 AA′
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
に赤・黄橙色土(地山)粒・炭化物・焼土粒微量含む。に赤・黄褐色土ブロック(φ3cm)あり。
2. 10YR3/4 に赤・黄褐色砂質土 しまり強 粘性なし
焼土粒多量、炭化物微量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性弱
炭化物(φ5cm)・焼土粒微量含む。
4. 10YR4/4 黄褐砂質土 しまり強 粘性なし
焼土粒多量、黒褐色土粒微量含む。
5. 10YR2/1 黒色土 しまり強 粘性弱
炭化物粒多量、焼土粒(φ5cm)・黒褐色土粒微量含む。
6. 10YR3/1 黒褐色土 しまり強 粘性中
に赤・黄橙色土(地山)粒・炭化物(φ3cm)粒微量含む。

SK-06 AA′
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
に赤・黄橙色土(地山)粒・白色粒微量含む。に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)あり。焼成か。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
に赤・黄橙色土(地山)粒・白色粒少量、に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)・焼土粒・骨片微量含む。
3. 10YR3/1 黒色土 しまり強 粘性弱
に赤・黄橙色土(地山)粒・白色粒少量、に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)・焼土粒・骨片微量含む。
4. 10YR4/3 に赤・黄褐色砂質土 しまり強 粘性なし
焼土粒・黒褐色土粒少量、炭化物微量含む。埋(φ1cm)あり。

SK-07 BB′ CC′
1. 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 しまり強 粘性なし
に赤・黄橙色土(地山)粒・白色粒微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
に赤・黄橙色土(地山)粒塊状に少量、に赤・黄橙色土(地山)粒微量・炭化物粒・白色粒微量含む。
3. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性弱
に赤・黄橙色土(地山)粒・炭化物微量含む。
4. 10YR5/3 暗褐色土 しまり強 粘性弱
に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)・に赤・黄橙色土(地山)粒・白色粒・黒褐色土粒・炭化物微量含む。
5. 10YR5/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)・に赤・黄橙色土(地山)粒・白色粒・黒褐色土ブロック(φ5cm)・黒褐色土粒・炭化物微量含む。
6. 10YR7/4 に赤・黄橙色粘質土 しまり強 粘性弱。
7. 2.5YR6/8 明黄褐色粘質土 しまり強 粘性弱
黒褐色土粒少量含む。



SK-08 AA′
1. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性なし
焼化粒少量、焼土粒・白色粒(φ3cm)微量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性なし
白色粒(φ3cm)・焼化粒少量、に赤・黄橙色土(地山)粒微量含む。
3. 10YR4/3 に赤・黄褐色砂質土 しまり中 粘性なし
に赤・黄橙色土(地山)粒・焼化粒少量、白色粒微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
に赤・黄橙色土(地山)粒・焼化粒少量、白色粒(φ3cm)微量含む。

SK-13 CC′
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
暗褐色土粒少量、に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ3cm)・に赤・黄橙色土(地山)粒・焼土粒微量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性弱
に赤・黄橙色土(地山)粒少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
に赤・黄橙色土(地山)粒多量、に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)・炭化物粒・焼化粒微量含む。

SK-09 AA′ 線
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
白色粒(φ2cm)少量、白色粒(φ5cm)・焼化粒微量、に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ5cm)ごく微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ3cm～φ5cm・φ5cm)・に赤・黄橙色土(地山)粒・焼土粒・白色粒・焼化粒微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
に赤・黄橙色土(地山)ブロック(φ1cm)・炭黄褐色砂質土(地山)粒少量、白色粒(φ5cm)微量含む。炭黄褐色砂質土(地山)ブロック(φ5cm)あり。
4. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性弱
炭黄褐色砂質土(地山)粒多量、白色粒微量含む。

0 1:40 m

第22図 4号～9号・13号土坑平面・断面図

7号土坑（第22・24図、写真図版7・12）

位置　調査区南西部。　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積する。　**平面形と規模**　平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸94cm、短軸76cm、確認面からの深さ15cmを測る。　**長軸方位**　N－8°－W。　**壁面**　大きく外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦である。　**遺物**　弥生土器・須恵器が出土したが図示し得なかった。磨製石鏃未成品1点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと考える。　**備考**　本遺構は形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は須恵器片が出土したことから古代と思われる。

8号土坑（第22・24図、写真図版7・12）

位置　調査区南西部。　**重複関係**　3号溝跡と重複し、本遺構の方が新しい。　**遺存状態**　概ね良好。　**覆土**　上層は暗褐色土・にぶい黄褐色砂質土、下層は黒褐色土が堆積する。　**平面形と規模**　平面形は楕円形を呈する。規模は長軸136cm、短軸90cm、確認面からの深さ18cmを測る。　**長軸方位**　N－34°－E。　**壁面**　大きく外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦である。　**遺物**　古式土師器1点と弥生土器1点を図示し得た。　**備考**　本遺構は形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、遺構の重複関係から3号溝跡よりも新しいものである。遺物の伴う21号土坑と同時期以降の古墳時代中期以降と考えられる。

9号土坑（第22・24図、写真図版7・12）

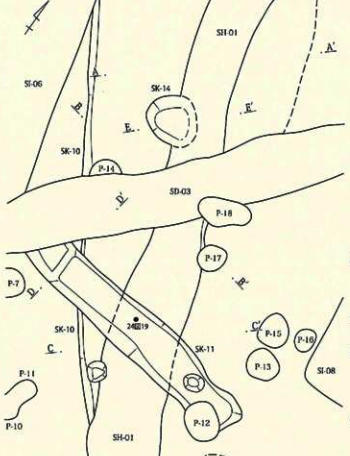
位置　調査区南西部。　**重複関係**　4号住居跡・3号溝跡と重複し、本遺構の方が新しい。　**遺存状態**　本遺構の覆土が3号溝跡の覆土と非常に似ていたため、掘り進める際に本遺構の覆土のみ掘ることがかなわなかった。そのため3号溝跡よりも深い所以外は推定復元となっている。　**覆土**　上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積する。　**平面形と規模**　平面形は不整円形を呈する。規模は長軸推定63cm、短軸推定59cm、確認面からの深さ51cmを測る。　**長軸方位**　N－77°－W。　**壁面**　ほぼ垂直に立ち上がる。　**底面**　概ね平坦である。東側は三日月形のテラス状を呈し一段高くなる。　**遺物**　古式土師器1点と弥生土器2点を図示し得た。　**備考**　本遺構は形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、遺構の重複関係から3号溝跡よりも新しいものである。遺物の伴う21号土坑と同時期以降の古墳時代中期以降と考えられる。

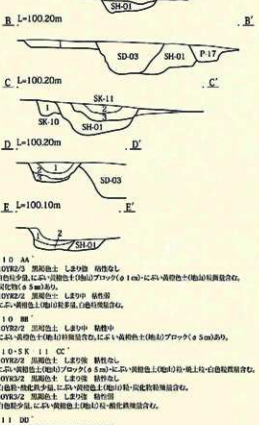
10号土坑（第23図、写真図版8）

位置　調査区中央部。　**重複関係**　6号住居跡、1号方形周溝墓、11号・14土坑、3号溝跡、P 14と重複する。本遺構は1号方形周溝墓、11号・14号土坑、3号溝跡より古く、6号住居跡、P 14とは新旧不明である。　**遺存状態**　西側は壁面が認められるが、その他3方は東側北部にわずかに傾斜が認められるのみである。　**覆土**　黒褐色土が基調である。　**平面形と規模**　平面形は確認されたのが西壁のみであるため不明である。規模は長軸494cm遺存、短軸推定239cm、確認面からの深さ16cmを測る。　**長軸方位**　N－32°－W。　**壁面**　ほぼ垂直に立ち上がる。　**底面**　概ね平坦である。　**遺物**　弥生土器が出土したが図示し得るものはなかった。　**備考**　本遺構は、明確な西側壁面が確認できたため土坑と判断したが、平面形態・性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

11号土坑（第23・24図、写真図版8・12）

位置　調査区南東部。　**重複関係**　1号方形周溝墓、10号土坑、3号溝跡、P 12と重複し、本遺構の方が新しい。　**遺存状態**　3号溝跡を先に調査したため北西端部が不明であるが、概ね良好。　**覆土**　上層に黒褐色土、下層に明黄褐色シルト質砂が堆積する。　**平面形と規模**　平面形は隅丸長方形を呈すると思われる。規模は長軸287cm遺存、短軸57cm、確認面からの深さ18cmを測る。　**長軸方位**　N－81°－W。　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦である。南東側に小穴が1基ある。　**遺物**　弥生土器・土師器が出土し、土師器1点を





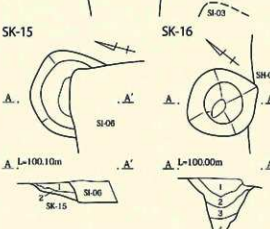
SK-10 AA'
1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
白色粒多量,にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ1cm)・にぶい黄橙色土(10ys)粒微量含む。
炭化物(φ5mm)あり。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄橙色土(10ys)粒多量,白色粒微量含む。

SK-10 BB'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ5cm)・にぶい黄橙色土(10ys)粒・黄橙色土(10ys)粒微量含む。

SK-10・SK-11 CC'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ5cm)・にぶい黄橙色土(10ys)粒・橙土粒・白色粒微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
白色粒・橙色粒多量,にぶい黄橙色土(10ys)粒・炭化物粒微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
白色粒少量,にぶい黄橙色土(10ys)粒・微化鉄微量含む。

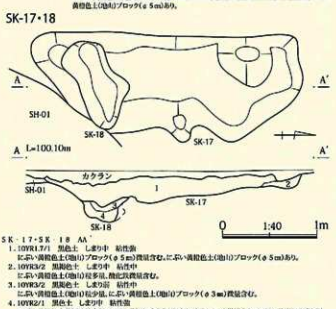
SK-11 DD'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ5cm)・にぶい黄橙色土(10ys)粒・白色粒・微化鉄微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ1cm)・白色粒・微化鉄微量含む。
3. 10YR7/6 明黄褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし
黒褐色土粒微量含む。ホリスキ。

SK-14 EE'
1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
白色粒多量,にぶい黄橙色土(10ys)粒微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ5cm)・にぶい黄橙色土(10ys)粒・微化鉄微量含む,にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ5cm)あり。



SK-15 AA'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
炭化物粒多量,にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ5cm)・白色粒微量含む。
2. 10YR4/2 灰褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄橙色土(10ys)粒・微化鉄微量含む。

SK-18 AA'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ5cm)・にぶい黄橙色土(10ys)粒・黄橙色土(10ys)ブロック(φ1cm)・にぶい黄橙色土(10ys)粒・炭土粒・微化鉄微量含む。
2. 10YR2/1 黒色土 しまり弱 粘性中
にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ3mm)少量,にぶい黄橙色土(10ys)粒多量,にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ5cm)微量含む。
3. 10YR2/1 黒色土 しまり弱 粘性強
にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ1cm)・にぶい黄橙色土(10ys)粒多量,にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ5cm)微量含む。
4. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト しまり弱 粘性強 にぶい黄橙色土(10ys)粒多量,にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ1cm)微量含む。



SK-17・SK-18 AA'
1. 10YR1.7/1 黒色土 しまり中 粘性強
にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ5cm)微量含む,にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ5cm)あり。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄橙色土(10ys)粒多量,微化鉄微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱 粘性中
にぶい黄橙色土(10ys)粒少量,にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ3mm)微量含む。
4. 10YR2/1 黒色土 しまり中 粘性強
にぶい黄橙色土(10ys)粒多量,にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ1cm)微量含む,にぶい黄橙色土(10ys)ブロック(φ3cm)あり。

第23図　10号・11号・14号～18号土坑平面・断面図

図示し得た。 **備考** 本遺構は非常に細長い形態であるが、遺構の性格は判断できない。帰属時期は、土師器が出土していることから古代と思われる。

12 号土坑 （第 21 図、写真図版 6 ・ 8）

位置 調査区北西部。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、灰黄褐色砂質土も堆積する。 **平面形と規模** 平面形は不整方形を呈する。規模は長軸 108cm、短軸 97cm、確認面からの深さ 21cm を測る。 **長軸方位** N－8°－W。 **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 出土していない。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周囲の主要な遺構と同時期の弥生時代後期と考えられる。

13 号土坑 （第 22 ・ 25 図、写真図版 8 ・ 12）

位置 調査区南西部。 **重複関係** 3 号溝跡、近世溝跡と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 北端部・西半分が 3 号溝跡・近世溝跡によって壊されている。 **覆土** 黒褐色土が基調で、一部で暗褐色土が堆積する。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈すると思われる。規模は長軸 99cm遺存、短軸推定 77cm、確認面からの深さ 13cmを測る。 **長軸方位** N－15°－W。 **壁面** 非常に緩やかに立ち上がる。 **底面** 南から北へ傾斜するが、概ね平坦である。北側はテラス状を呈し一段高くなる。 **遺物** 弥生土器 3 点を図示し得た。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

14 号土坑 （第 23 ・ 25 図、写真図版 8 ・ 12）

位置 調査区中央部。 **重複関係** 1 号方形周溝墓、10 号土坑と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 概ね良好であるが、東側は 1 号方形周溝墓と同時に掘り進めたため推定復元となっている。 **覆土** 黒褐色土が基調である。 **平面形と規模** 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸推定 59cm、短軸推定 51cm、確認面からの深さ 22cmを測る。 **長軸方位** N－63°－W。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 古式土師器 1 点を図示し得た。S 字甕の模倣品と考えられる。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭で、1 号方形周溝墓よりも新しいと考えられる。

15 号土坑 （第 23 図、写真図版 8 ）

位置 調査区北西部。 **重複関係** 6 号住居跡と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 南側が 6 号住居跡によって壊されている。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は灰黄褐色土が堆積する。 **平面形と規模** 平面形は不整円形を呈すると思われる。規模は長軸 88cm、短軸 68cm遺存、確認面からの深さ 20cmを測る。 **長軸方位** N－83°－W。 **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** 出土していない。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周囲の主要な遺構と同時期の弥生時代後期で、6 号住居跡よりも古いと考えられる。

16 号土坑 （第 23 図、写真図版 8 ）

位置 調査区北東部。 **重複関係** 1 号方形周溝墓と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層・下層に黒褐色土・砂質シルト、中層に黒色土が堆積する。 **平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。規模は長軸 71cm、短軸 71cm、確認面からの深さ 64cmを測る。 **長軸方位** N－30°－W。 **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、その後外傾する。断面形は漏斗状を呈する。 **底面** 22cm× 11cmの楕円形で非常に狭い。概ね平坦である。 **遺物** 弥生土器が出土したが図示し得るものはなかった。 **備考** 本遺構は形態から柱穴の可能性が考えられる。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

17号土坑（第23図、写真図版8）

位置　調査区北東部。　**重複関係**　1号方形周溝墓、18号土坑と重複する。本遺構は1号方形周溝墓より古く、18号土坑よりも新しい。　**遺存状態**　概ね良好。　**覆土**　黒色土が基調で、一部黒褐色土が堆積する。　**平面形と規模**　平面形は不整形を呈する。規模は長軸285cm、短軸117cm、確認面からの深さ29cmを測る。　**長軸方位**　N－0°－E。　**壁面**　西壁は大きく外傾して立ち上がり、その他の壁は急角度で立ち上がる。　**底面**　中央に向かって緩やかに傾斜し、起伏がある。　**遺物**　弥生土器が出土したが図示し得るものはなかった。　**備考**　本遺構は形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

18号土坑（第23図、写真図版8）

位置　調査区北東部。　**重複関係**　1号方形周溝墓、17号土坑と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　上部が17号土坑によって壊されているが、概ね良好。　**覆土**　上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積する。　**平面形と規模**　平面形は不整形を呈する。規模は長軸98cm、短軸61cm、確認面からの深さ26cmを測る。　**長軸方位**　N－70°－E。　**壁面**　急角度で立ち上がる。　**底面**　南側から北側へ傾斜する。　**遺物**　出土していない。　**備考**　本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが遺構の重複関係から17号土坑より古い段階の弥生時代後期と考えられる。

19号土坑（第24・25図、写真図版9・13）

位置　調査区北東部。　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積する。　**平面形と規模**　平面形は不整円形を呈する。規模は長軸85cm、短軸66cm、確認面からの深さ65cmを測る。　**長軸方位**　N－47°－E。　**壁面**　ほぼ垂直に立ち上がり、その後外傾する。断面形は漏斗状を呈する。　**底面**　21cm×14cmの楕円形で非常に狭い。概ね平坦である。　**遺物**　弥生土器2点を図示し得た。　**備考**　本遺構は形態から柱穴の可能性が考えられる。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

20号土坑（第24図、写真図版9）

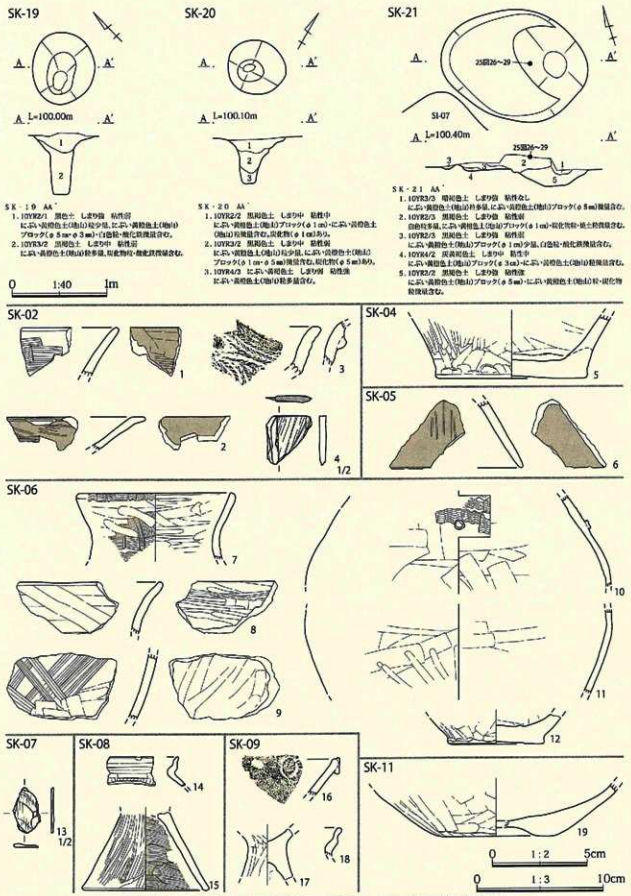
位置　調査区北東部。　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　上層は黒褐色土、下層はにぶい黄褐色土が堆積する。　**平面形と規模**　平面形は円形を呈する。規模は長軸60cm、短軸57cm、確認面からの深さ47cmを測る。　**長軸方位**　N－59°－E。　**壁面**　ほぼ垂直に立ち上がり、その後外傾する。断面形は漏斗状を呈する。　**底面**　14cm×8cmの楕円形で非常に狭い。概ね平坦である。　**遺物**　弥生土器が出土したが図示し得るものはなかった。　**備考**　本遺構は形態から柱穴の可能性が考えられる。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

21号土坑（第24・25図、写真図版9・13）

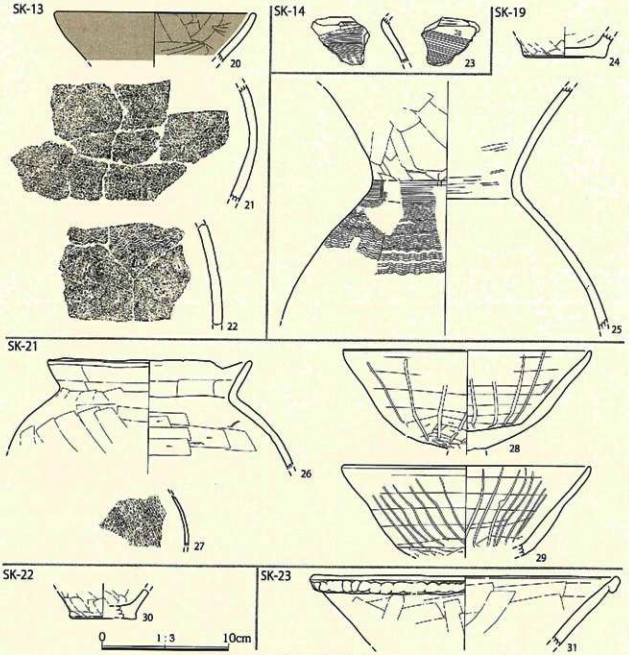
位置　調査区北西部。　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、一部で暗褐色土・灰黄褐色土が堆積する。　**平面形と規模**　平面形は楕円形を呈する。規模は長軸155cm、短軸117cm、確認面からの深さ18cmを測る。　**長軸方位**　N－68°－W。　**壁面**　大きく外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦である。西側はテラス状を呈し一段高くなる。　**遺物**　古式土師器・土師器を図示し得た。　**備考**　本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から古墳時代中期5世紀前半頃と考えられる。

22号土坑（第21・25図、写真図版9）

位置　調査区北西部。　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調である。　**平面形と規模**　平面形は円形を呈する。規模は長軸60cm、短軸58cm、確認面からの深さ21cmを測る。　**長軸方位**　N－36°－W。　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦である。　**遺物**　弥生土器1点を図示し得た。　備



第 24 図　19 号～ 21 号土坑平面・断面図、土坑出土遺物実測図①



第 25 図　土坑出土遺物実測図②

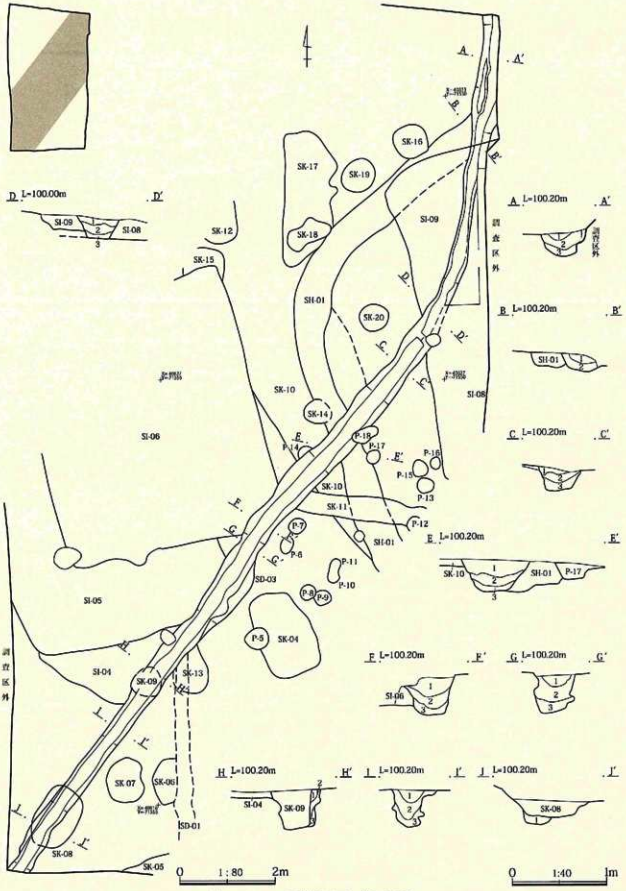
考　本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

23 号土坑（第 21・25 図、写真図版 9・13）

位置　調査区北西部。　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調である。　**平面形と規模**　平面形は円形を呈する。規模は長軸 117㎝、短軸 115㎝、確認面からの深さ 9 ㎝を測る。　**長軸方位**　N－41°－W。　**壁面**　非常に緩やかに立ち上がる。　**底面**　ほぼ水平であるが、起伏が見られる。　**遺物**　弥生土器 1 点を図示し得た。　**備考**　本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

24 号土坑（第 21 図、写真図版 9）

位置　調査区北西部。　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調である。　**平面形と規**



第26図　3号溝跡平面・断面図①

SD・03 AA′
1.10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
酸化鉄少量、白色粒微量含む。
2.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
白色粒少量、に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ5cm)・に赤・黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。
3.10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
酸化鉄少量、に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ1cm)・に赤・黄褐色土(地山)粒・炭化物微量含む。

SD・03 BB′
1.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
白色粒少量、に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ5cm)・酸化鉄微量含む。
2.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ1cm)・白色粒・酸化鉄少量、に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ5cm)微量含む。

SD・03 CC′
1.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
白色粒少量、に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ5cm)・酸化鉄微量含む。
2.10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性強
に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ1cm)・白色粒・酸化鉄微量含む。
3.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性強
に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ1cm)少量、酸化鉄微量、白色粒こく微量含む。炭化物(φ5cm)あり。

SD・03 DD′
1.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ5cm)微量含む。
2.10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性強
に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ5cm)・に赤・黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。
3.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
酸化鉄微量含む。

SD・03 EE′
1.10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
白色粒少量、に赤・黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。
2.10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
酸化鉄少量、に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ1cm)・に赤・黄褐色土(地山)粒・白色粒微量含む。
3.10YR2/2 黒褐色土 しまり弱 粘性中
に赤・黄褐色土(地山)粒少量、に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ3cm)・酸化鉄微量含む。

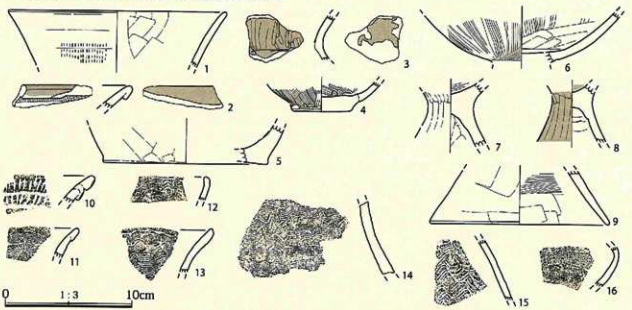
SD・03 FF′
1.10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性中
白色粒(φ3mm)粒少量、炭化物粒・酸化鉄微量含む。に赤・黄褐色土ブロック(φ1cm)あり。
2.10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ5cm)少量、に赤・黄褐色土(地山)粒・白色粒(φ3mm)・酸化鉄微量含む。
3.10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ1cm)少量、に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ3cm)・に赤・黄褐色土(地山)粒、酸化鉄微量含む。

SD・03 GG′
1.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
に赤・黄褐色土(地山)粒・白色粒(φ3mm粒)・酸化鉄微量含む。
2.10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
に赤・黄褐色土(地山)粒・白色粒・酸化鉄少量、に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ5cm)・炭化物粒・白色粒(φ5mm)微量含む。
3.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
に赤・黄褐色土(地山)粒多量、に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ1cm)・酸化鉄微量含む。

SD・03 HH′
1.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ1cm)・白色粒・酸化鉄微量含む。
2.10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
に赤・黄褐色土(地山)ブロック粒・酸化鉄微量含む。
3.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ1cm)・に赤・黄褐色土(地山)粒微量含む。

SD・03 II′
1.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
白色粒・酸化鉄微量含む。
2.10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
白色粒・酸化鉄少量、に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ1cm)微量含む。
3.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
に赤・黄褐色土(地山)ブロック(φ3cm)少量、に赤・黄褐色土(地山)粒・白色粒・酸化鉄微量含む。

SD・03 JJ′
1.10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
に赤・黄褐色土(地山)粒少量、白色粒(φ5cm)・酸化鉄微量含む。



第27図　3号溝跡平面・断面図②、出土遺物実測図

模　平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸83cm、短軸67cm、深さ14cmを測る。　**長軸方位**　N－32°－W。

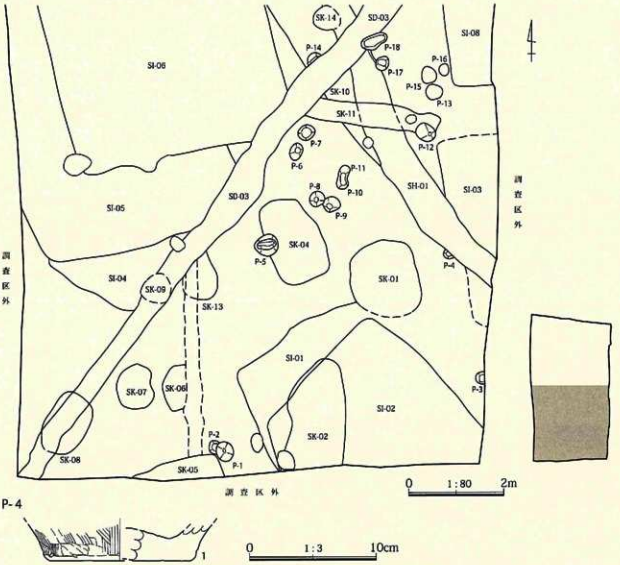
壁面　西壁は急角度で立ち上がり、その他の壁は非常に緩やかに立ち上がる。　**底面**　概ね平坦である。　**遺物**　出土していない。　**備考**　本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周囲の主要な遺構と同時期の弥生時代後期と考えられる。

第5節　溝跡

今回の発掘調査では、近世溝跡2条と古墳時代前期～中期と考えられる溝跡1条が確認された。近世溝跡下の遺構の有無を確認するため掘削を行い、近世瓦・陶磁器が出土し遺物を取り上げるため1号・2号溝跡とした。しかし、今回の発掘調査の主たる対象年代ではないため1号・2号溝跡は全体図（第3図）に平面形のみを明示した。

3号溝跡　（第26・27図、写真図版9・13）

位置　調査区南西隅部から調査区北東隅部へ調査区を縦断する。　**重複関係**　4号～6号・8号・9号住居跡、



第28図　ピット平面図、出土遺物実測図

1号方形周溝墓、8号～11号・13号土坑、P 14・P 18と重複する。本遺構は8号・9号・11号土坑より古く、4号～6号・8号・9号住居跡、1号方形周溝墓、10号・13号土坑よりも新しい。P 14・P 18との新旧関係は判別できなかった。　**遺存状態**　北端部・南端部は調査区外にある。9号住居跡との重複部は溝を確認できなかったため上部は遺存しない。　**覆土**　黒褐色土が基調である。　**規模**　長さは直線距離で214 mが確認され、上端幅は38cm～68cm、下端幅は21cm～30cm、確認面からの深さは19cm～41cmを測る。　**主軸方位**　南側約2／3がN－37°－E、北側約1／3がN－11°－E。　**遺物**　弥生土器16点を図示し得た。弥生時代後期樽式土器が多く出土していることは、多数の弥生時代後期の遺構を壊したためと考えられる。　**備考**　調査区南西隅部からN－37°－Eの方向で150 m延び、そこからN－11°－Eに向きを変えて64 m延び調査区北東隅部に至る。南側約1／3の壁面はほぼ垂直に立ち上がり、北側約2／3は急角度で立ち上がる。底面高は調査区南側が99.65 m～99.70 m、調査区中央が99.62 m～99.66 m、調査区北側が99.60 m～99.65 mで北側がわずかに低いがほぼ水平である。本遺構は、底面に高低差が見られないことから水路として使われたものではなく、区画溝として使用したものと考えられる。帰属時期は、出土遺物は弥生土器樽式土器が多いが木遺構に伴うものではないと考えられ、遺構の重複関係から古墳時代前期～中期と考えられる。

第6節　ピット　（第28図）

今回の発掘調査では、18基のピットが確認された。発掘調査期間に余裕がなかったため全てのピットを掘削することはできず、P13・P15・P16は平面形の記録のみとなった。またピットが確認されたのは調査区南半分のみであるが、北半分には全くないのではなく見落としたことによるものと考えられる。各遺構の詳細についてはピット計測表に記載した。遺物はP4から出土した1点のみ図示し得た。帰属時期は、P03～P05は樽式土器が出土していることから弥生時代後期と考えられる。また遺物が出土していない他のピットも同時期の弥生時代後期と思われる。

第1表　ピット計測表

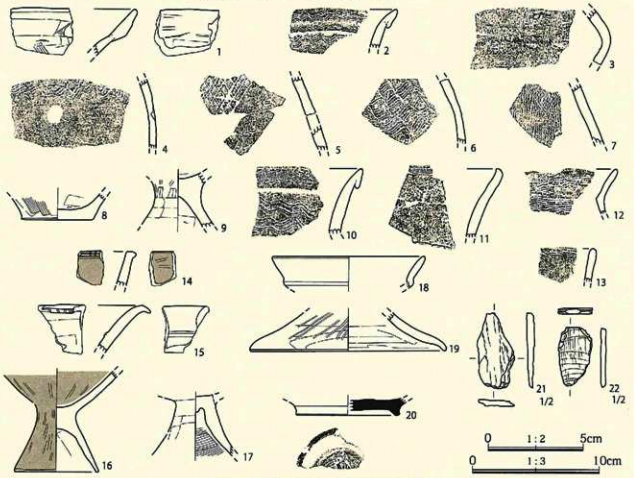
遺構名	平面形	規模（cm）			覆土	出土遺物	備　考
		長径	短径	深さ			
ピット1	楕円形	42	36	51	A		P2より新しい
ピット2	円形か	30	[26]	5	A		P1より古い
ピット3	円形か	27	[21]	43	A	弥生土器	
ピット4	円形か	24	[14]	25	A	弥生土器	SH01より古い
ピット5	不整円形	50	46	36	A	弥生土器	
ピット6	楕円形	37	26	31	A		
ピット7	不整円形	38	31	23	A		
ピット8	円形か	33	31	20	A		
ピット9	隅丸方形	35	31	14	A		

遺構名	平面形	規模（cm）			覆土	出土遺物	備　考
		長径	短径	深さ			
ピット10・11	不定楕円形	50	26	23	A		壊った結果1基と判断した
ピット12	楕円形	43	34	51	B		SK11より古い
ピット13	不整円形	35	32	—	A		遺物確認のみ
ピット14	円形か	34	[16]	23	A		SD03との新旧不明
ピット15	不整円形	35	32	—	A		遺物確認のみ
ピット16	楕円形	26	21	—	A		遺物確認のみ
ピット17	不整円形	31	28	11	A		SH01との新旧不明
ピット18	楕円形	57	29	45	A		SD03との新旧不明

A：黒褐色土　B：黒色土　（　）：推定　［　］：遺存

第7節　遺物包含層出土遺物　（第29図、写真図版13）

今回の発掘調査では、遺構を確認した基盤層の上に遺構覆土と区別がつかない弥生時代後期～古代の遺物を含む土が堆積していた。その土を掘り下げないと遺構の識別ができなかったため遺物包含層として掘り下げ、遺物を取り上げた。遺物包含層出土遺物で図示し得たものは22点である。

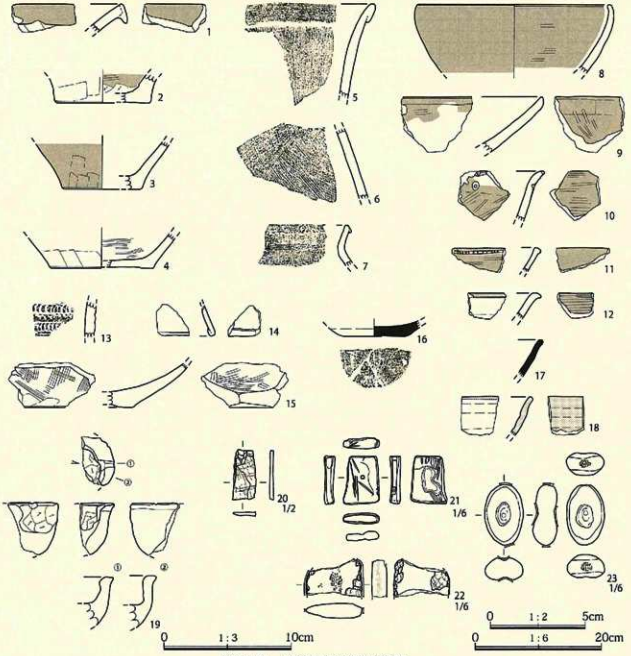


第29図　遺物包含層出土遺物実測図

第29図1～17は弥生時代後期の樽式土器で、Ⅰ期～Ⅲ期の遺物が出土する。第29図18・19は土師器、第29図20は須恵器、第29図21・22は磨製石鏃未成品である。

第8節　遺構外出土遺物（第30図、写真図版13）

今回の発掘調査では、遺構外から縄文時代～古代及び近世の遺物が出土した。近世遺物は瓦・陶磁器が出土し図化も可能であったが、今回は調査の主対象ではないことから図化しなかった。第30図1～12が弥生時代後期樽式土器である。第30図13は縄文時代前期の諸磯式土器と思われる。第30図14・15は古墳時代初頭の古式土師器と思われ、第30図16・17は古代の須恵器、第30図18は灰釉陶器である。第30図19は時期不明・形態不明で、ミニチュア土器と思われる。第30図20は磨製石鏃未成品、第30図21は砥石、第30図22は敲石、第30図23は凹石である。



第30図　遺構外出土遺物実測図

第９節　まとめ

今回の発掘調査では、弥生時代後期以前の土坑１基、弥生時代中期～後期の竪穴住居跡１軒、弥生時代後期の竪穴住居跡８軒、土坑16基、ピット18基、弥生時代終末期～古墳時代初頭の方形周溝墓１基、土坑２基、古墳時代前期～中期の溝跡１条、古墳時代中期の土坑１基および古墳時代中期以降と考えられる土坑２基、古代の土坑２基のほか、近世溝跡２条が確認された。近世を除く各時期の本調査区の様相をまとめてみたい。

弥生時代後期以前の遺構は、陥し穴と考えられる土坑（ＳＫ０２）１基のみである。縄文時代前期の土器片が出土していることから、縄文時代前期まで遡る可能性がある。陥し穴であるならば、集落から少し離れた狩猟場であったのではないかと考えられる。

弥生時代中期～後期の遺構は、調査区東側に位置する竪穴住居跡（ＳＩ０３）１軒のみである。本調査区内には同時期の竪穴住居跡が確認されなかったことから、集落跡の中心は本調査区よりも東側にあるものと想定される。

弥生時代後期の遺構は、竪穴住居跡８軒（ＳＩ０１・０２・０４～０９）、土坑16基（ＳＫ０３～０６・１０・１２・１３・１５～２０・２２～２４）、ピット18基（Ｐ０１～Ｐ１８）が確認されており、集落跡の一部であったと考えられる。住居跡の分布は調査区南東部（ＳＩ０１・０２）・調査区西側（ＳＩ０４～０７）・調査区東側（ＳＩ０８・０９）の３か所に分かれている。調査区南東部・調査区東側は２軒、調査区西側では３軒重複していることから、３期に区分することが可能である。ＳＩ０１・０２・０４・０５・０７～０９が樽式Ⅱ期～Ⅲ期にかけてと考えられ、遺構の重複関係からＳＩ０２・０４・０７・０８が古い段階、ＳＩ０１・０５・０９が新しい段階となる。ＳＩ０６は樽式Ⅲ期と考えられることから一番新しい段階で、同時期の住居跡は調査区外に存在するものと思われる。本調査区北側で竪穴住居跡が確認されなかったことから、本調査区が集落跡の北限と考えられる。東・西・南への集落の広がりは確認できなかった。

弥生時代終末期～古墳時代初頭の遺構は、方形周溝墓（ＳＨ０１）１基、土坑（ＳＫ０１・ＳＫ１４）２基で、古墳時代前期～中期の遺構は溝跡（ＳＤ０３）１条である。弥生時代後期に在った集落は途絶え、方形周溝墓が造営される墓域へと変化したことが伺える。本調査区では方形周溝墓１基の北西隅部が確認されたのみであるため、墓域の広がりは確認できなかったが、東側及び南側に広がるものと想定される。また、ＳＨ０１を壊す古墳時代前期～中期のＳＤ０３が造られていることから、墓域の存続期間はあまり長くなかったと考えられる。また、この溝は区画溝と考えられることから、何らかの土地利用の境界となっていたと思われる。

古墳時代中期以降は土坑（ＳＫ０７～０９・１１・２１）が散見される程度となったことから、集落の範囲から外れたものと考えられる。

また、遺構内外から出土した磨製石鏃の未成品と見られる遺物を９点図示した。伴う遺構はないと考えられるが、切断痕が見られない同一石材の剥片も30点近く出土していることから、周辺で磨製石鏃の製作場があるものと考えられる。

今回の発掘調査は、弥生時代中期～後期の集落及び弥生時代終末期～古墳時代初頭の墓域が存在したこと及び土地利用の変遷が明らかになったが、調査面積がさほど広くないことから弥生時代中期～後期の集落域、弥生時代終末期～古墳時代初頭の墓域の広がりを把握するまでには至らなかった。今後、周辺地域での発掘調査事例が増えていくことで弥生時代中・後期～古墳時代初頭の集落域・墓域、古墳時代中期以降の集落域や近隣の日高遺跡、新保遺跡・新保田中村前遺跡との関係などが解明されることを期待したい。

参考文献

高崎市市史編さん委員会　2003『新編　高崎市史　通史編１　原始古代』

高崎市市史編さん委員会　2000『新編　高崎市史　資料編１　原始古代１』

東日本埋蔵文化財研究会福島県実行委員会　2000　第９回　東日本埋蔵文化財研究会　福島大会『東日本弥生時代後期の土器編年』第１分冊

第２表　出土土器観察表

（ ）：推定　［ ］：遺存

掲載	番号	出土位置	器種・器種	法量（cm）			胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	遺存状況
				口径	底径	器高					
5図	1	S I - 0 1　覆土	弥生土器　小型鉢	(11.2)	—	[10.7]	密	良	灰黄褐色	外面：口縁部ヨコナデ。頸部縦位ヘラナデ。肩部横位多連止葉状文。胴上部横位波状文。内面：口縁部～頸部ヨコナデ。胴部ナデ。	口縁部～胴上部 1/3
5図	2	S I - 0 1　覆土	弥生土器　小型鉢	—	8.4	[8.4]	密	良好	灰黄褐色	外面：胴上部横位波状文。胴下部縦位減撫して不明瞭。ヘラミガキか。内面：胴部～底部ナデ。	胴部 3/4　底部完存
5図	3	S I - 0 1　覆土	弥生土器　小型鉢	8.4	—	[5.6]	密	良好	灰黄褐色	外面：口縁部ヨコナデ。胴部横位多連止葉状文。胴上部横位波状文。胴下部ヘラナデか。内面：口縁部ヨコナデ。胴部横位ヘラナデ。	口縁部～胴上部 ほぼ完存
5図	4	S I - 0 1　覆土	弥生土器　小型鉢	—	—	[4.8]	密	良好	灰黄褐色	胴部以降復元状を呈する。外面：口縁部横位波状文。胴上部縦位ヘラナデ後横位波状文。胴下部横位ヘラミガキ。内面：胴上部横位ヘラナデ。胴下部横位ヘラミガキ。胴部ヘラナデ。	胴部 1/4
5図	5	S I - 0 1　覆土	弥生土器　高杯	—	—	[4.6]	密	良好	明赤褐色（赤彩）	外面：坏下部～脚上部の減撫しくず明瞭。縦位ヘラミガキか。赤彩。内面：坏下部の減撫しくず明瞭。ナデか。赤彩。脚上部ナデ。	坏下部 1/5　接合部完存　脚上部 1/4
5図	6	S I - 0 1　覆土	弥生土器　高杯	—	—	[3.4]	密	良好	明赤褐色	外面：接合部付近ヘラナデ。脚上部縦位ヘラミガキ。内面：坏下部ナデ。脚上部ヘラナデか。	脚裾部～脚上部完存
5図	7	S I - 0 1　覆土	弥生土器　壺	—	—	[2.6]	密	良好	にぶい黄橙色	胴部下部。外面：口縁部ヨコナデ。口縁部ヨコナデ後横位波状文。胴部縦位ヘラナデ後横位波状文。内面：口縁部～頸部横位・胴位ヘラミガキ。	口縁部破片
5図	8	S I - 0 1　覆土	弥生土器　壺	—	—	[2.6]	密	良	褐色	外面：口縁部横位波状文。胴部ヨコナデ後一部縦位ヘラミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。	口縁部破片
5図	9	S I - 0 1　覆土	弥生土器　壺	—	—	[2.3]	密	良	黒褐色	外面：口縁部波状文。胴部ヨコナデ。内面：口縁部ヨコナデ。	口縁部破片
5図	10	S I - 0 1　覆土	弥生土器　壺	—	—	[3.0]	密	良	褐灰色	外面：頸部櫛歯多連止葉状文・波状文後円形浮文（φ7㎝・無文）貼付。内面：頸部ヨコナデ。	頸部破片
5図	11	S I - 0 1　覆土	弥生土器　壺	—	—	[7.4]	密	良	橙色	外面：胴上部横位櫛状文・波状文。内面：胴上部ナデ。	胴部破片
6図	1	S I - 0 2　覆土	弥生土器　壺	—	—	[4.0]	密	良	にぶい橙色	接合口縁。外面：口縁部ヨコナデ。口縁部ヨコナデ後櫛歯状文。胴部横位ハケメ後横位ハケメ。内面：口縁部～頸部横位ヘラナデ。	口縁部破片
6図	2	S I - 0 2　覆土	弥生土器　壺	—	—	[1.9]	密	良	淡黄橙色	接合口縁。外面：口縁部櫛歯状直線連続波状文。口縁部ヨコナデ。内面：口縁部～頸部横位ヘラナデ。	口縁部破片
6図	3	S I - 0 2　鉢	弥生土器　壺	—	—	[7.0]	やや密	良	褐灰色	外面：胴上部横位波状文。内面：胴上部横位ヘラナデ。	胴部破片
6図	4	S I - 0 2　覆土	弥生土器　器台	—	—	[4.0]	密	良好	赤色（赤彩）	口縁部脚のかけがえに到達する。外面：口縁部～杯上部横位ヘラミガキ。赤彩。内面：口縁部～杯上部平位ヘラミガキ。赤彩。	口縁部～杯上部破片
7図	1	S I - 0 3　覆土	弥生土器　壺	—	—	[3.5]	密	良	灰褐色	外面：胴上部横位ハケナデ後横歯状結ぶ文。ナデ後B L 単節縄文。内面：杯上部ナデ。	胴部破片
8図	1	S I - 0 4　福島	弥生土器　壺	—	6.2	[1.4]	密	良好	灰黄褐色	外面：胴下部縦位ヘラナデ。結ぶ文ヘラナデか。内面：胴下部～底部ナデ。	底部 3/4
8図	2	S I - 0 4　覆土	弥生土器　壺	—	[9.9]	[4.3]	やや密	良	灰褐色	外面：胴下部縦位ハケメ後縦位ヘラナデ。底部ナデ。内面：胴下部～底部ナデ。	胴下部～底部 1/5
8図	3	S I - 0 4　p 1	弥生土器　台付鉢	—	(7.2)	[4.1]	密	良好	にぶい黄橙色	外面：台部縦位ヘラナデ。台端部ヘラケズリ。内面：台部縦位ヘラナデ。	台部 1/3
10図	1	S I - 0 5　福島	弥生土器　壺	—	[18.0]	[7.1]	やや密	やや良	橙色	外面：胴下部縦位・斜位ヘラナデ。底部：ナデ。内面：胴下部～底部縦位・斜位ヘラナデ。	底部 1/8
10図	2	S I - 0 5　p 4	弥生土器　壺	—	10.0	(2.2)	やや密	良	橙色	底部外周にドーナツ状に貼土を貼付け上げ底状を呈する。外面：胴下部縦位ヘラナデ。内面：胴下部～底部ナデ。	胴下部～底部 2/5
10図	3	S I - 0 5　覆土	弥生土器　壺	—	—	[7.9]	密	良	褐色	外面：胴部斜位ヘラナデ。内面：胴部ナデ後横位ヘラナデ。	胴部破片
10図	4	S I - 0 5　覆土	弥生土器　壺	—	—	[11.1]	密	良好	にぶい黄橙色	外面：頸部櫛歯状文。胴上部横位波状文後円形浮文（φ11～12㎝・刺突引）貼付。胴中部斜位ヘラミガキ。内面：頸部～胴部ミガキに近い・斜位ヘラナデ。	胴部破片
10図	5	S I - 0 5　覆土	弥生土器　壺	—	—	[6.7]	密	良好	にぶい黄橙色	外面：胴部縦位ヘラナデ後横歯状文。横位ヘラナデか。内面：胴部ミガキに近い・斜位ヘラナデ。	胴部破片
10図	6	S I - 0 5　福島	弥生土器　壺	—	—	[5.6]	密	良好	明赤褐色	外面：胴中部平位横歯状文。胴下部縦位ヘラミガキか。内面：胴部ミガキに近い・斜位ヘラナデ。	胴部破片
10図	7	S I - 0 5　覆土	弥生土器　小型鉢	(12.0)	—	[5.3]	密	良好	灰黄褐色	底台口縁。外面：口縁部櫛歯状文後円形浮文（φ6㎝・無文）貼付。3単位か。頸部～胴上部櫛歯状文後円形浮文（φ7㎝・無文）貼付。口縁上位直を ずらして3単位か。胴中部横位ヘラミガキ。内面：口縁部～胴中部単位不明瞭位ヘラミガキ。	口縁部～胴中部 1/4
10図	8	S I - 0 5　覆土	弥生土器　小型鉢	(11.2)	—	[6.5]	密	良	黒褐色	底台口縁。外面：口縁部櫛歯状文。頸部櫛歯状文・多連止葉状文。胴部横位ヘラナデ後横位波状文。内面：口縁部～胴部斜位減撫しくず明瞭。横位ヘラミガキか。	口縁部～胴中部 1/4
10図	9	S I - 0 5　覆土	弥生土器　壺	(12.0)	—	[6.1]	密	やや良	灰黄褐色	外面：口縁部ヨコナデ。口縁部横位ヘラナデ。頸部横位ヘラナデ。内面：口縁部～頸部横位減撫しくず明瞭。	口縁部～頸部 1/3
10図	10	S I - 0 5　天端	弥生土器　壺	(14.0)	—	[5.3]	密	良好	灰黄褐色	底台口縁。外面：口縁部～頸部櫛歯状直線波状文。内面：口縁部～頸部ミガキに近い・横位ヘラナデ。	口縁部～頸部 1/3
10図	11	S I - 0 5　覆土	弥生土器　壺	—	[8.8]	[3.9]	密	良好	灰黄褐色	外面：胴下部斜位ヘラナデ。横位ヘラナデ後横位ハケメか。底部ヘラミガキ。内面：胴下部～底部縦位ヘラナデ。	胴下部 1/4　底部 1/2
10図	12	S I - 0 5　p 1 0	弥生土器　壺	—	(7.0)	[1.5]	密	良好	灰黄褐色	外面：胴下部斜位ヘラナデ。底部ヘラナデ。内面：胴下部～底部ナデ。	胴下部～底部 2/5
10図	13	S I - 0 5　覆土	弥生土器　壺	—	6.3	[2.1]	やや密	良好	灰黄褐色	外面：胴下部横位ヘラナデ。底部ヘラナデ。内面：胴下部～底部ナデ。	胴下部 1/5　底部 3/4
10図	14	S I - 0 5　覆土	弥生土器　小型鉢	—	3.2	[1.5]	やや密	良	にぶい褐色	手捏ね土器か。外面：胴部ナデ。肩下部横位ヘラケズり。底部ナデ。内面：胴部～底部ユビナデ。	底部完存
10図	15	S I - 0 5　覆土	弥生土器　台付鉢	—	—	[4.4]	密	良好	にぶい黄橙色	外面：胴下部斜位ハケメか。接合部～台上部ミガキに近い・縦位ヘラナデか。内面：胴下部ナデ。台上部横位・斜位ヘラナデか。	接合部～台上部完存
10図	16	S I - 0 5　p 9	弥生土器　台付鉢	—	—	[2.7]	密	良好	褐色	外面：接合部ミガキに近いヘラナデか。内面：胴下部ヘラミガキか。台上部ナデ。	接合部 1/3
11図	17	S I - 0 5　覆土	弥生土器　壺	—	—	[3.2]	やや密	良	淡黄褐色	外面：口縁部ナデ。口縁部櫛歯状文。頸部横歯多連止葉状文。内面：単節不明ヘラミガキ。	口縁部破片
11図	18	S I - 0 5　覆土	弥生土器　壺	—	—	[3.2]	密	良好	淡黄褐色	接合口縁。外面：口縁部ヨコナデ。頸部櫛歯状文。内面：口縁部～頸部ミガキに近い・横位ヘラナデ。横歯ヘラミガキ。	口縁部破片
11図	19	S I - 0 5　p 3	弥生土器　壺	—	—	[1.8]	密	良好	黒褐色	接合口縁。外面：口縁部ナデ。口縁部ヨコナデ後横歯状文。内面：口縁部横位・斜位ヘラミガキ。	口縁部破片
11図	20	S I - 0 5　p 3	弥生土器　壺	—	—	[1.6]	密	良好	黒褐色	外面：口縁部櫛歯状工具による刺目。口縁部ヨコナデ後横歯状文。内面：口縁部横位ヘラナデ。	口縁部破片
11図	21	S I - 0 5　p 3	弥生土器　壺	—	—	[1.4]	密	良好	橙色	接合口縁。外面：口縁部ヨコナデ。口縁部ヨコナデ後ヘラ状工具による刺み列。内面：口縁部横位ヘラミガキ。	口縁部破片
11図	22	S I - 0 5　覆土	弥生土器　高杯	(18.6)	—	[5.5]	密	良好	明赤褐色（赤彩）	接合口縁。外面：口縁部稜状工具による刺み列。坏上部斜位・縦位ヘラナデ。坏下部平位不明瞭位ヘラミガキ。赤彩（刺み列除く）。内面：単節不明縦位ヘラミガキ。赤彩。	口縁部～坏部 1/6
11図	23	S I - 0 5　福島	弥生土器　高杯	(15.0)	—	[3.9]	密	良好	赤褐色（赤彩）	体部の内面が強く屈曲を呈する。外面：口縁部ヨコナデ。体上部縦位・斜位ヘラナデ。全面赤彩。内面：口縁部ヨコナデ。体部単位不明ヘラミガキ。全面赤彩。	口縁部～体上部 1/6

（ ）：推定　[ ]：遺存

期間	番号	出土位置	層別・器種	法量(cm) 口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	遺存状況
11期	24	S1-05 覆土	弥生土器 高杯か	—	—	[2.2]	密	良好	赤褐色（赤彩）	小型提か。外面：口縁部横位・斜位ヘラミガキ。赤彩。内面：口縁部横位ヘラミガキ。強撫ナデ。赤彩。	口縁部破片
11期	25	S1-05 覆土	弥生土器 高杯	—	—	[1.8]	密	良	明赤褐色（赤彩）	外面：口縁部横位ヘラミガキ工具による擬似ヘラ状凹凸。口縁部横位ヘラミガキ。赤彩。内面：口縁部横位ヘラミガキ。赤彩。	口縁部破片
11期	26	S1-05 覆土	弥生土器 鉢	(14.0)	(8.0)	7.1	密	良	にぶい黄色	体部は底部から直立気味に立ちあがる。外面：口縁部横位・斜位ヘラナデ。体下部横位ヘラミガキ。筋下部横位ヘラケズリ。底部ヘラミガキ。内面：口縁部～体部単位不明横位ヘラミガキ。底部ヘラナデ。	口縁部1/8
11期	27	S1-05 覆土	弥生土器 鉢	—	(6.1)	[5.9]	密	良	にぶい黄褐色	体部は底部から直立気味に立ちあがる。外面：体部斜位ヘラナデ。筋下部横位ヘラケズリ。内面：体部コナデ後横位・斜位ヘラミガキ。底部ナデ。	体部～底部1/5
13期	1	S1-06 覆土	弥生土器 壺	(17.4)	—	[3.5]	密	良	褐色	複合口縁壺を装える。外面：口縁部部コナデ。口縁部コナデ後横位ヘラミガキ。頸部横位・斜位ヘラナデ。内面：口縁部～頸部横位・斜位ヘラミガキ。	口縁部1/5
13期	2	S1-06 床面	弥生土器 壺	—	—	[16.1]	密	良好	にぶい黄褐色	彩画は算盤玉状を呈する。外面：頸部横位ヘラナデ。彩画多連止縦状文。肩上部斜位ハケメ後横位縦状文・刺突浮文（φ11mm・刺突3）隙付、5単位か。胴中部横位ヘラミガキ。胴下部横位ヘラミガキ。内面：頸部～肩上部横位ヘラミガキ。胴下部横位ヘラナデ。	頸部～胴部1/3
13期	3	S1-06 ※P2上面	弥生土器 大型壺	—	—	[15.0]	密	良	褐色	外面：胴中部横位ヘラミガキ。胴下部は明所によって調整方法が異なり、底面除まで斜位ヘラミガキと胴下部縦位ヘラミガキ。底部横位・斜位・縦位ヘラナデが認める。内面：胴下部～底部横位ヘラナデ。13図3と同一個体と思われる。	胴部破片
13期	4	S1-06 ※P1上面	弥生土器 大型壺	—	—	[21.7]	[26.7]	密	良		胴中部～底部1/4
13期	5	S1-06 覆土	弥生土器 壺	—	—	[7.8]	[3.5]	密	良好	にぶい赤褐色	底部破片
13期	6	S1-06 覆土	弥生土器 小型鉢	—	—	[2.3]	密	良	黒褐色	外面：口縁部横位ヘラミガキ。内面：口縁部横位ヘラミガキ。	口縁部破片
13期	7	S1-06 覆土	弥生土器 小型鉢	—	(3.8)	[2.2]	密	良好	にぶい黄褐色	外面：胴下部横位ヘラナデ。底部ナデ。内面：胴下部～底部ナデ。	胴部1/5
13期	8	S1-06 覆土	弥生土器 小型鉢	—	(4.3)	[2.3]	密	良好	赤色（赤彩）	外面：胴下部横位ヘラミガキ。底部ナデ。内面：胴下部～底部ナデ。	底部1/5
13期	9	S1-06 覆土	弥生土器 小型鉢	—	(4.8)	[2.2]	密	良好	赤色（赤彩）	外面：胴下部横位ヘラミガキ。赤色。底部ミガキに近い。内面：胴下部～底部横位・斜位ヘラミガキ。赤彩。	底部1/5
13期	10	S1-06 床面	弥生土器 甕	15.8	6.4	27.9	密	良好	褐灰色	胴部は中位に最大径を持ち、丸みを帯びる。外面：口縁部部コナデ。口縁部横位ヘラミガキ。胴下部横位ヘラミガキ。胴下部斜位・縦位ヘラミガキ。胴下部横位・縦位ヘラミガキ。底部ヘラミガキ。内面：口縁～胴上部ミガキに近い横位ヘラナデ。胴中部横位ヘラミガキ。胴下部横位ヘラナデ・斜位ヘラミガキ。底部ヘラナデ。	胴下部～底部1/4
13期	11	S1-06 P2	弥生土器 甕	—	—	[11.8]	粗	良	灰黄褐色	口縁部は頸部から直立して立ちあがり大きく外反する。外面：口縁下部部横位文後横位ナデか。頸部横位多連止縦状文。肩上部横位斜位文後に縦位ナデか。内面：口縁下部ミガキに近い横位ヘラナデ。肩上部斜位ヘラナデ。	頸部1/2 肩部1/5
13期	12	S1-06 覆土	弥生土器 甕	—	—	[8.3]	密	良好	にぶい黄褐色	外面：頸部横位ヘラナデ。肩上部横位多連止縦状文・縦位縦状文。胴中部斜位ヘラナデ。内面：肩上部～胴中部横位ヘラナデ後横位ハケメ。胴部横位ヘラナデ後に縦位ナデか。	頸部～胴中部2/5
14期	13	S1-06 床面	弥生土器 壺	17.3	—	[16.3]	密	良好	にぶい黄褐色	複合口縁。外面：口縁端部コナデ。口縁部横位縦状文。頸部横位多連止縦状文。肩上部横位縦状文。内面：口縁部～肩上部横位ヘラミガキ。	口縁部～頸部は接合有 肩上部2/3
14期	14	S1-06 床面	弥生土器 壺	—	—	[11.5]	やや粗	良	にぶい褐色	口縁部は頸部から外反して立ちあがる。外面：口縁下部斜位・縦位ヘラナデ。頸部斜位ヘラナデ。内面：若干丁寧に不明瞭。下頸部の粘着痕ないことから、台として転用された可能性がある。	頸部は接合有
14期	15	S1-06 床面	弥生土器 壺	—	—	[11.0]	密	良好	灰褐黄色	底か。胴部は下膨に最大径を持つ下膨れの球形を呈する。外面：肩上部横位多連止縦状文・縦位縦状文。胴中部横位ヘラナデ後横位ヘラミガキ。内面：胴部横位ヘラナデ。	肩上部～胴中部2/5
14期	16	S1-06 床面	弥生土器 壺	—	—	[15.1]	密	良好	灰褐色	胴部は球形を呈する。外面：肩上部横位縦状文。胴中部横位ヘラミガキ。胴下部縦位ヘラミガキ。内面：胴部横位ヘラナデ。	胴部破片
14期	17	S1-06 床面	弥生土器 小型鉢	12.2	5.6	13.8	密	良好	黒色	外面：胴部横位縦状文。肩上部横位多連止縦状文・縦位縦状文。胴中部斜位ヘラナデ。内面：肩上部～胴中部横位縦状文後刺突浮文（φ10cm～13cm・無文）隙付、5単位。胴下部斜位・縦位ヘラミガキ。底部ヘラミガキ。内面：口縁部～胴部横位ヘラナデ。肩上部横位ヘラミガキ。胴下部～底部横位ヘラナデ。	頸部破片
14期	18	S1-06 床面	弥生土器 壺	—	(9.0)	[2.4]	密	良好	にぶい黄褐色	外面：肩下部ミガキに近い横位・縦位ヘラナデ。胴部下部横位ヘラケズリ。底部ヘラミガキ。肩上部横位ヘラミガキ。胴下部～底部横位ヘラナデ。	肩上部～胴中部破片
14期	19	S1-06 覆土	弥生土器 壺	—	6.0	[4.4]	やや粗	良好	にぶい赤褐色	外面：胴下部斜位ヘラナデ・ケズリに近い縦位ヘラナデ。胴部下部横位ヘラケズリ。底部ミガキに近いナデ。内面：胴下部縦位ヘラミガキ。底部ヘラナデ。	底部1/4
14期	20	S1-06 覆土	弥生土器 壺	—	6.3	[3.8]	密	良好	にぶい褐色	外面：胴下部斜位ヘラナデ。胴部下部横位ヘラケズリ。底部反使の圧痕（φ6mm・φ4mm・φ3mm）あり。内面：胴下部横位ヘラミガキ。底部外周縦位ヘラケズリ。	底部破片
14期	21	S1-06 覆土	弥生土器 小型鉢	—	—	[2.7]	密	良好	黒褐色	胴部は上位に最大径を持ち底部に向かって窄まる台付鉢と思われる。外面：胴部横位多連止縦状文。肩上部横位縦状文・斜位ヘラナデ。内面：胴部～胴部横位ヘラナデ。	胴部～肩上部1/8
14期	22	S1-06 覆土	弥生土器 台付鉢	—	(5.8)	[4.0]	密	良好	褐色	外面：台部縦位・斜位ヘラナデ。台下部ナデ。台脚部：ヘラケズリ（面取り）。内面：台部横位ヘラナデ。	台部1/3
14期	23	S1-06 覆土	弥生土器 台付鉢	—	(8.5)	[5.8]	密	良好	にぶい黄褐色	外面：台部横位ヘラミガキ。不明瞭。縦位・斜位ヘラナデか。台脚部ナデ。内面：台上部斜位・縦位ヘラナデか。台下部ナデ。	台部1/6
14期	24	S1-06 覆土	弥生土器 高杯	(21.1)	—	[6.8]	密	良好	灰黄色	外面：口縁部コナデ。坏上部横位ヘラナデか。坏下部横位ヘラケズリ。斜位ハケメ・斜位ヘラナデか。	坏部1/6
14期	25	S1-06 覆土	弥生土器 高杯	(13.0)	—	[4.5]	密	良好	赤色（赤彩）	外面：口縁部横位ヘラミガキか。坏部斜位ヘラミガキか。赤彩。内面：口縁部コナデか。坏部斜位・横位ヘラミガキか。赤彩。	口縁部～坏部1/6
14期	26	S1-06 覆土	弥生土器 高杯	—	—	[5.0]	密	良好	にぶい赤褐色	外面：坏下部斜位ヘラナデ。接合部～台部縦位ヘラミガキか。内面：坏下部コビナデ。台上部斜位ハケメ後ヨコナデか。	接合部～脚上部 ほぼ完存
14期	27	S1-06 覆土	弥生土器 高杯	—	—	[4.4]	密	良好	褐色	外面：坏下部縦位ヘラナデか。接合部縦位ヘラナデか。内面：坏下部ナデか。脚上部縦位ヘラナデか。	接合部1/3
14期	28	S1-06 覆土	弥生土器 高杯	—	—	[4.1]	密	良好	にぶい赤褐色	外面：接合部～脚上部縦位ヘラナデか。内面：坏下部ヘラナデか。脚上部ヨコナデか。	接合部破片
14期	29	S1-06 覆土	弥生土器 高杯	—	—	[3.9]	密	良好	赤色（赤彩）	外面：接合部～脚上部縦位ヘラナデか。赤彩。内面：脚上部縦位ヘラナデか。	接合部は不完存
14期	30	S1-06 p3	弥生土器 鉢	12.5	4.4	6.7	密	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部コナデか。体部斜位・縦位ヘラケズリ後体上部横位・斜位ヘラミガキか。下膨縦位ヘラミガキか。内面：口縁部～体中部斜位ヘラミガキか。体下部～底部斜位ヘラナデか。	ほぼ完存
14期	31	S1-06 覆土	弥生土器 鉢	(9.0)	—	[5.3]	密	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部コナデ後端部移植工具による刻目。頸部～胴部部縦位ヘラナデ。内面：口縁部コナデ頸部横位ヘラナデ。上部に指頭圧痕。	口縁部～頸部1/6

( ): 推定　[ ]: 遺存

時期	番号	出土位置	時期・遺構	法量(cm) 口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	遺存状況
14期	32	S1-06 覆土	弥生土器 手焙ねじ土器	—	1.8	[1.7]	密	良好	にぶい黄橙色	皿のミニチュア土器か。外面：製陶糸切痕ヘラナデ。底部ナデ。内面：刷毛→底部ユビナデ、爪痕あり。	底部完存
14期	33	S1-06 覆土	弥生土器 不明	—	—	[3.7]	やや粗	良	灰黄褐色	焼成前穿孔2か所あり。製作の方向は不明。外面：底縁ヘラケズリ。内面：刷毛目。	破片
14期	34	S1-06 覆土	弥生土器 壺	—	—	[3.1]	やや粗	良	浅黄橙色	外面：口縁部横ナデ後沓状部貼り。φ1mm前後3mmの微細な多孔質など。口縁部補修・別造ハケメ。内面：口縁部横位ハケメ。	口縁部破片
14期	35	S1-06 覆土	弥生土器 鉢	—	—	[3.0]	粗	良	橙色	口縁部に補修か痕跡を2箇所。外面：口縁部ナデ。口縁部ヨコナデ後上位と下2段。下段は下1段に接続工具による横外列。内面：口縁部ヨコナデ。	口縁部破片
14期	36	S1-06 覆土	弥生土器 壺	—	—	[22.1]	密	良	黒色	口縁部がわずかに内屈する。外面：口縁部ナデ。口縁上部横圧跡状文後内側浮文（φ8mm・刻文）貼付。口縁下部縦位ヘラナデ。頸部横圧跡状文。内面：口縁部～頸部横位ハケメ。	口縁部～頸部破片
14期	37	S1-06 覆土	弥生土器 壺	—	—	[4.4]	密	良好	黒褐色	外面：口縁部ナデ。口縁部横圧跡状文・ヨコナデ。頸部縦位ヘラミガキ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ。粘土紐巻上痕。	口縁部破片
14期	38	S1-06 覆土	弥生土器 壺	—	—	[4.0]	密	良好	褐色	口縁部端外方に内屈する。外面：口縁部横ヘラケズリ。口縁部横圧跡状文・横位・斜位ヘラナデ。内面：口縁部横ヘラミガキ。	口縁部破片
14期	39	S1-06 覆土	弥生土器 壺	—	—	[2.3]	密	良好	灰白色	外面：口縁部ヨコナデ。口縁部横圧跡状文。内面：口縁部ミガキに近い横位ヘラナデ。	口縁部破片
16期	1	S1-07 覆土	弥生土器 小型鉢	(13.8)	—	[8.1]	密	良好	黒褐色	胴部球形。外面：口縁部ナデ。口縁部～頸部横圧跡状文。口縁下端部に内屈浮文貼付か。縦軸横位多連止葉状文。胴上部横圧跡状文。内面：口縁部～胴部ミガキに近い横位ヘラナデ。	口縁部～胴中部1/5
16期	2	S1-07 覆土	弥生土器 壺	—	49.0	[4.5]	やや粗	良好	にぶい橙色	外面：胴下部縦位ヘラミガキ。底部ヘラケズリ。内面：胴下部縦位ヘラミガキか。底部ヘラナデ。	胴下部～底部1/5
16期	3	S1-07 覆土	弥生土器 小型鉢	(8.3)	—	[2.5]	密	良好	黒褐色	外面：口縁部横圧跡状文。頸部横圧跡状文。内面：口縁部～頸部ナデ。	口縁部1/3
16期	4	S1-07 覆土	弥生土器 壺	—	46.0	[5.0]	密	良好	にぶい橙色	外面：胴下部縦位ヘラケズリ後横位ヘラナデ。底部ナデ。内面：胴下部～底部横位・斜位ヘラナデ。	胴下部～底部1/5
16期	5	S1-07 覆土	弥生土器 有孔土器	—	49.0	[2.8]	密	良好	にぶい橙色	孔径最大1.2cm。外面：胴下部縦位・斜位ヘラナデ。底部ナデ。内面：胴下部～底部縦位ヘラナデ。	胴下部～底部1/5
16期	6	S1-07 覆土	弥生土器 壺	—	—	[2.8]	粗	やや不良	浅黄橙色	外面：胴上部横圧跡状文。施釉後の刷毛状多連止葉状文。胴上部横圧跡状文。胴部文の上端直線に沿刷浮文（φ15mm・刻突文多数）結束。内面：胴上部横位ヘラナデ。	胴部破片
16期	7	S1-07 覆土	弥生土器 壺	—	—	[5.8]	密	良好	浅黄橙色	外面：頸部横圧跡状文。胴部縦位多連止葉状文。胴上部横圧跡状文。内面：頸部～胴上部横圧跡状文。調整不明。	胴部破片
17期	1	S1-08 廃棄	弥生土器 壺	(20.0)	—	[2.5]	やや粗	良	にぶい黄橙色	複合口縁。外面：口縁部ヨコナデ後内屈部に刻目を施す。頸部横位ヘラナデ。内面：口縁部～頸部ヨコナデ。	口縁部1/8
17期	2	S1-08 廃棄	弥生土器 壺	—	(7.0)	[3.2]	密	良好	にぶい黄橙色	外面：胴下部縦位ヘラケズリ後ナデ。底部ヘラケズリ。内面：胴下部～底部横位ヘラナデ。	胴下部～底部2/5
17期	3	S1-08 廃棄	弥生土器 壺	—	(8.0)	[2.7]	密	良好	灰黄褐色	外面：胴下部斜位ヘラナデ。胴部下部斜位ヘラケズリ。底部周代底文はハケメか。内面：胴下部横位ヘラミガキ。底部ナデ。	胴下部～底部1/3
17期	4	S1-08 廃棄	弥生土器 壺	—	(6.4)	[2.2]	やや粗	良好	橙色	外面：胴下部ヨコナデ後斜位ヘラナデ。底部ナデ。内面：胴部による調整不明。	胴下部～底部1/3
17期	5	S1-08 p1	弥生土器 台付鉢	—	[7.4]	[3.4]	密	良好	にぶい黄橙色	外面：胴下部ヨコナデ。底部ナデ。内面：台上部ナデ。台端部ヨコナデ。	台部1/6
17期	6	S1-08 廃棄	弥生土器 高杯	—	—	[3.9]	密	良好	明赤褐色(赤彩)	外面：口縁下部縦位ヘラナデ。坏部ヨコナデ。赤彩。内面：口縁下部ヨコナデ。赤彩。坏部横位ヘラナデ。ヨコナデ。	口縁下部～坏部破片
17期	7	S1-08 廃棄	弥生土器 高杯	—	—	[1.8]	密	良好	にぶい橙色	外面：口縁部横位ヘラナデ。内面：刷毛目が多い。横位ヘラミガキか。赤彩。	口縁部破片
17期	8	S1-08 廃棄	弥生土器 高杯	—	(8.8)	[5.3]	密	良好	赤色(赤彩)	外面：脚部縦位ヘラナデ・ヘラミガキ。脚部端ヨコナデ。赤彩。内面：脚上部ナデ。脚下部ヨコナデ。	脚部1/6
17期	9	S1-08 廃棄	弥生土器 壺	—	—	[2.8]	密	良好	浅黄橙色	外面：口縁部横圧跡状文。口縁部横位ヘラナデ。頸部斜位工具による波状文。内面：頸部横位ヘラナデ。	口縁部破片
18期	1	S1-09 覆土	弥生土器 壺	(17.0)	—	[8.0]	密	良好	黒褐色	複合口縁。外面：口縁部ナデ。口縁部～頸部横圧跡状文。内面：口縁部～頸部横位ヘラナデ。	口縁部1/6
18期	2	S1-09 表面	弥生土器 壺	(16.2)	—	[7.7]	密	良好	にぶい黄橙色	複合口縁。外面：口縁部ナデ。口縁部～頸部横圧跡状文。内面：頸部横位ミガキ痕。ヘラナデか。	口縁部～頸部1/5
18期	3	S1-09 覆土	弥生土器 壺	—	[7.2]	[3.8]	やや粗	良好	にぶい黄色	外面：胴下部横位ヘラナデ。底部ナデ。内面：胴下部～底部ナデ。	底部1/6
18期	4	S1-09 表面	弥生土器 壺	—	—	[5.2]	密	良好	黄橙色	口縁部端がわずかに内屈する。外面：口縁部横圧跡状文。口縁部横位ヘラナデ。頸部横圧跡状文。内面：口縁部ナデ。口縁部～頸部横位ヘラミガキ。	口縁部破片
18期	5	S1-09 覆土	弥生土器 壺	—	—	[4.0]	密	良好	灰黄褐色	輪積痕残るため複合口縁を呈する。外面：口縁部ナデ。口縁部～頸部横位ヘラナデ後ヘラ状横位ミガキ。内面：口縁部～頸部横位ヘラナデ後ヘラミガキ。	口縁部破片
18期	6	S1-09 覆土	弥生土器 壺	—	—	[3.5]	密	良	浅黄橙色	複合口縁。外面：口縁部端ヨコナデ後端部に ヘラ状工具で刻目を施す。頸部ヨコナデ。横位ヘラナデ。内面：口縁部ナデ。口縁部～頸部横位ヘラナデ。	口縁部破片
20期	1	SH-01 覆土	弥生土器 甕	—	[5.8]	[3.4]	やや粗	良好	にぶい黄橙色	上げ底状を呈する。外面：胴下部斜位ハケメ後横位ヘラナデ。胴部下部縦位ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面：胴下部～底部横位ヘラナデ。	底部1/4
20期	2	SH-01 覆土	弥生土器 器又は鉢	—	[6.4]	[2.9]	密	良好	にぶい橙色	外面：胴下部横位ヘラナデ。底部ナデ。内面：胴下部～底部横位ヘラナデ。	底部1/5
20期	3	SH-01 覆土	弥生土器 器又は鉢	—	[4.2]	[2.5]	密	良好	にぶい橙色	底部外周が凹かに高く、ドーナツ状を呈する。ミニチュア土器か。外面：胴下部斜位ヘラナデ。一部に横位ヘラミガキ。底部ナデ。内面：胴下部～底部ナデ。	胴下部～底部1/3
20期	4	SH-01 覆土	古式土師器 鉢	(21.6)	—	[8.7]	密	良	浅黄橙色	S字状の頸部は立ち上がるか。外面：口縁部ヨコナデ。S字を意識したものか。頸部横圧跡状文・ヘラによる横位ナデ。胴上部縦位ハケメ。横位・斜位ハケメ。	口縁部～胴上部1/6
20期	5	SH-01 No.18	古式土師器 台付鉢	—	—	[3.7]	密	良	浅黄色	S字状の頸部は立ち上がるか。外面：口縁部ヨコナデ。S字を意識したものか。口縁部横位ハケメ。横位・斜位ハケメ。胴部横位ヘラミガキ。口縁部横位ヘラナデ。	口縁部～胴部破片
20期	6	SH-01 覆土	弥生土器 台付鉢	—	—	[4.7]	密	良好	褐色	外面：胴下部斜位ハケメ後横位ヘラナデ。台上部横位ヘラナデ。台上部端部ヨコナデ。台上部端部ヨコナデ。	胴下部1/8 接合部完存
20期	7	SH-01 覆土	古式土師器 高杯	—	12.9	[12.3]	密	良好	にぶい橙褐色	脚開1・8式の有段高杯に類似した脚部。脚部端4.3ヶ所。外面：坏下部縦位ヘラミガキ。坏底部縦位ヘラナデ。接合部ナデ。脚上部縦位ヘラナデ。脚下部縦位ヘラナデ。外面：坏部横位により調整不明。脚上部端位ハケメ後ナデ・赤彩。脚下部端位ヘラナデ。	坏下部1/2 脚下部1/2 接合部一部欠損
20期	8	SH-01 覆土	古式土師器 高杯	12.0	—	[4.4]	やや粗	良	にぶい橙色	脚開1・8式の有段高杯に類似した脚部。外面：口縁部ヨコナデ。坏部縦位ヘラミガキ後ナデ。坏底部縦位ヘラナデ。内面：脚部による不明瞭。口縁部ヨコナデ。坏部横位ヘラナデ。坏底部ナデ。	坏部破片完存
20期	9	SH-01 覆土	弥生土器 器台	(18.2)	—	[4.0]	密	良好	明赤褐色(赤彩)	口縁部端が外側へわずかに肥厚する。外面：口縁部端部横位工具による刻目。坏部縦位・斜位ハケナデ。赤彩。内面：口縁部～坏部直線調整し調整不明。赤彩。	口縁部～坏上部1/8
20期	10	SH-01 覆土	弥生土器 高杯	—	—	[2.8]	密	良好	明赤褐色(赤彩)	外面：口縁部横圧跡状文。坏部外面不明ヘラミガキ。赤彩。内面：口縁部～坏部単位不明ヘラミガキ。赤彩。	口縁部破片

( ): 推定　[ ]: 遺存

掲図	番号	出土位置	種別・器種	法量(cm) 口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	胴形、底・整形、文様等の特徴	遺存状態
20図	11	SH-01 周土	弥生土器 鉢	—	—	[4.7]	密	良好	にぶい黄橙色	丸みを帯びた体部から短い口部部が外傾する。外面：口縁部部ヨコナデ後排気工具による刺目。体部縦位ヘラケズリ後横位ヘラナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部横位ヘラミガキ。	口縁部～体上部欠損
20図	12	SH-01 周土	弥生土器 ミニチュア土器	5.6	3.9	6.0	やや粗	良	明褐色	口縁部は外反し、胴部は球状を呈する。丸底。外面：口縁部ヨコナデ。胴上部縦位ヘラケズリ。胴中部横位ヘラナデ。胴下部縦位ヘラケズリ。底部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部～底部指ナデ痕。	ほぼ完存
20図	13	SH-01 周土	弥生土器 ミニチュア土器	5.5	4.5	6.5	やや粗	良好	にぶい橙色	口縁部は直立し、胴部は球状を呈する。底部は丸底。底部外面：口縁部ヨコナデ。胴上部縦位ヘラナデ。胴中部横位ヘラナデ。胴下部縦位ヘラケズリ。底部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部～底部指ナデ痕。	ほぼ完存
20図	14	SH-01 周土	弥生土器 ミニチュア土器	5.4	4.2	7.4	密	良好	橙色	口縁部は直立気味に立ち上がり、胴部は球状。底部。外面：口縁部ヨコナデ。胴部上部縦位ハケメ後横上部縦位ヘラナデ。胴中部斜位ヘラナデ。胴下部斜位ヘラケズリ。底部ヘラナデ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部～底部指ナデ痕。	ほぼ完存
20図	15	SH-01 周土	弥生土器 手捏ね土器	5.3	実況	3.0	密	良好	にぶい橙色	丸底で体部は球状を呈する。外面：口縁部ヨコナデ・ユビナデ。体部縦位ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ・ユビナデ。	ほぼ完存
20図	16	SH-01 周土	弥生土器 甕	—	—	[12.0]	密	良	黒褐色	口縁部部がわずかに内傾する。外面：口縁部部櫛描波状文後円形浮文（φ4cm・刻文）貼付。口縁部ヨコナデ。頸部横位ヘラミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。口縁部～頸部横位ヘラナデ。	口縁部欠
20図	17	SH-01 周土	弥生土器 甕	—	—	[13.8]	密	良好	にぶい黄橙色	胴部は球状。外面：口縁部ヨコナデ。口縁部～頸部ヨコナデ後櫛描波状文。頸部横位ヘラナデ後横位ヘラミガキ。内面：口縁部～頸部横位ヘラミガキ。	口縁部欠
20図	18	SH-01 周土	弥生土器 甕	—	—	[12.4]	密	良好	褐色	胴部は球状。外面：口縁部ヨコナデ。口縁部～頸部ヨコナデ後櫛描波状文。頸部横位ヘラナデ後横位ヘラミガキ。内面：口縁部～頸部横位ヘラミガキ。	口縁部欠
20図	19	SH-01 周土	弥生土器 甕	—	—	[13.6]	密	良好	にぶい橙色	口縁部部がわずかに内傾する。外面：口縁部ヨコナデ後櫛描波状文。口縁部～頸部ヨコナデ後横位ヘラミガキ。内面：口縁部～頸部横位・斜位ヘラミガキ。	口縁部欠
20図	20	SH-01 周土	弥生土器 甕	—	—	[16.8]	密	良好	淡黄橙色	外面：頸部ヘラナデ後横位櫛描波状文。胴部上部による横位波状文。胴部～胴部ハケメ後横位ヘラミガキ。内面：口縁部～頸部横位・斜位ヘラミガキ。	口縁部欠
20図	21	SH-01 周土	弥生土器 甕	—	—	[16.0]	密	良好	橙色	外面：胴上部縦位ハケメ後横位波状文。内面：胴上部縦位ヘラミガキ。	胴部欠
24図	1	SK-02 周土	弥生土器 壺	—	—	[3.9]	密	良好	にぶい橙色	外面：口縁部縦位ハケメ後ヘラナデ。内面：口縁部横位ヘラナデ。外面：赤彩。	口縁部欠
24図	2	SK-02 周土	弥生土器 高杯	—	—	[2.6]	密	良好	赤褐色（赤彩）	口縁部は外側へ水平に屈曲する。外面：口縁部～杯上部縦位・横位ヘラミガキ。赤彩。内面：口縁部～杯上部横位不明ヘラミガキ。赤彩。	口縁部欠
24図	3	SK-02 周土	須文土器 鉢体	—	—	[3.8]	密	良好	灰白色	底部口縁。外面：口縁部直線の結上位置が不規則で突起を形成。内面：口縁部横位ヘラナデ。	口縁部欠
24図	5	SK-04 周土	弥生土器 壺	—	(11.6)	[5.0]	やや粗	良好	にぶい黄橙色	底部口縁。外面：口縁部直線の結上位置が不規則で突起を形成。内面：口縁部横位ヘラナデ。	口縁部欠
24図	6	SK-05 周土	弥生土器 高杯	—	—	[5.3]	密	良好	赤色（赤彩）	外面：脚下部縦位ヘラミガキ。赤彩。内面：脚下部横位不明ヘラミガキ。赤彩。	脚下部～裾部 1/3
24図	7	SK-06 底面	弥生土器 鉢	[12.0]	—	[6.2]	密	良好	にぶい黄橙色	外面：口縁部櫛描波状文。口縁部縦位ハケメ後横位ヘラナデ・斜位ユビナデ。胴部櫛描波状文。胴上部横位波状文。内面：口縁部ヨコナデ。斜位ヘラナデ。胴部横位ヘラミガキ。	口縁部～胴部 1/6
24図	8	SK-06 底面	弥生土器 鉢	—	—	[4.1]	密	良好	黒色	外面：口縁部ヨコナデ後斜位ナデ。胴部横位波状文。内面：口縁部斜位・横位ヘラナデ後横位ヘラミガキ。	口縁部欠
24図	9	SK-06 底面	弥生土器 鉢	—	—	[5.1]	密	良好	黒色	外面：胴部横位ハケメ、横位・斜位ヘラナデ。内面：胴部横位ヘラナデ。	胴部欠
24図	10	SK-06 底面	弥生土器 壺	—	—	[7.6]	やや粗	良好	暗褐色	最大径を中中部に持ち、胴部が膨らむ。外面：胴部櫛描波状文。円形浮文（φ8mm・刻文）貼付。胴中部横位ヘラナデ後横位・斜位ヘラナデ。内面：胴部横位ヘラナデ。胴中部斜位ヘラナデ。24図11と同一個体と思われる。	胴部～胴中部 1/5
24図	11	SK-06 底面	弥生土器 壺	—	—	[16.4]	やや粗	良好	にぶい黄色	最大径を中中部に持ち、底部に向かって窄まる。外面：胴中部～胴下部縦位ヘラナデ後斜位ヘラナデ。内面：胴中部～胴下部横位ヘラナデ。24図10と同一個体と思われる。	胴中部～胴下部 1/5
24図	12	SK-06 底面	弥生土器 壺	—	(7.5)	[2.3]	やや粗	良好	淡灰色	底部が張り出かに窄まり、ドーナツ状を呈する。外面：胴下部横位・斜位ヘラナデ。底部ナデ。内面：胴下部～底部ユビナデ。	底部 1/3
24図	14	SK-08 周土	古式土師器 S字甕	—	—	[2.4]	密	良	褐黄色	外面：口縁部ヨコナデ。胴部縦位ヘラナデ。胴部斜位ハケメ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部～底部横位ヘラナデ。	口縁部～胴部欠
24図	15	SK-08 周土	弥生土器 台付壺	—	(9.8)	[5.1]	密	良好	にぶい橙色	底部脚部。外面：台部部位ハケメ後縦位ヘラミガキ。台部部ヘラケズリ。内面：台部横位ハケメ。台部部ヘラケズリ。	脚部 1/5
24図	16	SK-09 周土	弥生土器 壺	—	—	[3.0]	粗	良	褐黄色	外面：口縁部櫛ナデ。円形浮文（φ14mm×11mm・刻文）貼付。口縁部縦位ヘラナデ。内面：口縁部ヨコナデ。口縁部横位ヘラナデ。	口縁部欠
24図	17	SK-09 周土	弥生土器 台付壺	—	—	[4.0]	密	良好	にぶい黄色	外面：接合部斜位ヘラナデ。台上部縦位ヘラナデ。内面：胴下部ナデ。台上部横位ヘラナデ。	接合部 1/4
24図	18	SK-09 周土	古式土師器 S字甕	—	—	[12.2]	やや粗	良	にぶい黄橙色	外面：口縁部櫛描・指波工具によるナデ。口縁部ヨコナデ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部斜位ハケメ。	口縁部～胴部欠
24図	19	SK-11 周土	土師器 高杯	—	(9.8)	[4.1]	密	良好	にぶい橙色～黒色	底部中央が張り出た状態を呈する。外面：脚下部横位・斜位ヘラナデ。底部ヘラナデ。内面：脚下部～底部横位調整しく不明瞭。ヘラナデか。	底部 1/3
25図	20	SK-13 周土	弥生土器 高杯	(15.5)	—	[3.9]	密	良好	赤色（赤彩）	外面：口縁部～体部横位調整しく不明瞭。ヘラナデ後ヘラミガキか。赤彩。内面：口縁部～体部横位・斜位ヘラナデ後横位ヘラミガキか。赤彩。	口縁部～体部 1/6
25図	21	SK-13 底面	弥生土器 壺	—	—	[10.3]	粗	良	灰白色	外面：頸部縦位・斜位ハケメ。内面：頸部ナデ。	頸部欠
25図	22	SK-13 底面	弥生土器 壺	—	—	[7.9]	やや粗	良	にぶい黄橙色	外面：頸部横位波状文・斜位ハケメ。内面：頸部ナデ。	頸部欠
25図	23	SK-14 周土	古式土師器 甕	—	—	[3.8]	密	良	灰白色	S字甕の頸胴部と思われる。外面：頸部斜位ハケメ、横位ヘラナデ。胴上部横位ハケメ。内面：頸部横位ヘラミガキか。頸部ハケメ後ヘラナデ。胴上部斜位ヘラナデ。	頸部～胴上部破片
25図	24	SK-19 周土	弥生土器 壺	—	—	[6.0]	[1.9]	密	黒色	外面：脚下部横位ヘラナデ。底部ヘラナデ。内面：脚下部～底部ナデ。	底部 1/3
25図	25	SK-19 周土	土師器 壺	—	—	[19.2]	密	良好	にぶい黄橙色	外面：胴下部斜位ヘラナデ。胴部横位ヘラナデ後横位多連広幅状文。肩部横位波状文。肩部横位波状文。肩部横位ヘラミガキか。内面：胴下部～胴部横位ヘラミガキか。胴部ナデ。	胴部 1/3　胴上部 2/5
25図	26	SK-21 周土	土師器 高杯	(16.1)	—	[8.7]	密	良好	黄橙色	外面：口縁部ヨコナデ。口縁部～胴部横位ヘラナデ。肩上部斜位・横位ヘラナデ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部～脚上部ナデ。脚部ヘラケズリ。	口縁部～脚上部ほぼ完存
25図	27	SK-21 周土	古式土師器 S字甕	—	—	[3.9]	密	良好	黒褐色	外面：頸部斜位ハケメ。内面：頸部ヘラナデ。	頸部破片

( ):推定　[ ]:道春

柳刷	番号	出土位置	柳刷・胴刷	法量(cm) 口径	底径	胴高	勢土	成成	色調	器形、成・型形、文様等の特徴	遺存状況
25期	28	SK-21 覆土	土師器 高坏	(19.5)	—	[8.0]	密	良好	明褐色	口縁端部がわずかに内傾する。外面:口縁部～坏部中部にコナデ、坏下部端部～脚柱ヘラケズリ後放射状ヘラミガキを施す。内面:口縁部～坏部にヨコナデ、ナデ後放射状ヘラミガキを施す。	口縁部1/10 坏体部1/4 脚端部残
25期	29	SK-21 覆土	土師器 高坏	(19.5)	—	[7.1]	密	良好	明赤褐色	外面:口縁部～坏中部にコナデ、坏下部端部～脚柱ヘラケズリ後放射状ヘラミガキを施す。内面:口縁部～坏中部にヨコナデ、坏下部端部ヘラナデ後放射状ヘラミガキを施す。	口縁部1/6 坏体部1/3
25期	30	SK-22 覆土	弥生土器 壺	—	[5.2]	[2.3]	密	良好	黒褐色	外面:胴下部ヘラミガキ。胴以下胴端位ヘラナデ。底部下胴端位ヘラナデ。内面:胴下部～底部指ナデ。底部ヘラナデ。	胴下部～底部1/5
25期	31	SK-23 覆土	弥生土器 壺	(24.0)	—	[5.5]	密	良	にぶい橙色	複合口縁。外面:口縁部ヨコナデ。上胴部横位ミガキ。胴部ヨコナデ、横位・縦位ヘラナデ。内面:上胴部ヨコナデ。口縁部～胴部斜位ヘラナデ。	口縁部2/5
27期	1	SD-03 覆土	弥生土器 壺	[17.0]	—	[4.4]	密	良好	にぶい黄橙色	外面:口縁部～胴部縦位ハケメ後ミガキ上に斜・横位ヘラナデ。内面:口縁部～胴部ミガキに近い斜位ヘラナデ。	口縁部1/8
27期	2	SD-03 覆土	弥生土器 高坏	—	—	[1.9]	密	良好	赤色(赤彩)	複合口縁。外面:口縁部ヨコナデ。赤彩。胴部縦位ハケメ後横位ヘラナデ。内面:口縁部～胴部ヨコナデ。赤彩。	口縁部残片
27期	3	SD-03 覆土	弥生土器 壺	—	—	[3.7]	密	良好	赤褐色(赤彩)	外面:胴部横位ヘラミガキ。赤彩。内面:横位にヨコナデ。赤彩。	胴部破片
27期	4	SD-03 覆土	弥生土器 底又は壺	—	—	[4.6]	密	良好	にぶい赤褐色	外面:胴下部胴位ハケメ。底部ナデ。内面:胴下部～底部指ナデ。	胴下部1/4 底部残存
27期	5	SD-03 覆土	弥生土器 底又は壺	—	—	[13.0]	[3.1]	やや悪	明赤褐色	外面:胴下部胴位ヘラナデ。底部ナデ。内面:胴下部～底部指ナデ。	底部1/6
27期	6	SD-03 覆土	弥生土器 高坏	—	—	[4.0]	密	良好	淡黄色	外面:坏下部ヘラナデ後横位・斜位ヘラミガキ。内面:胴下部ヘラナデ。	坏下部1/5
27期	7	SD-03 覆土	弥生土器 有段壺	—	—	[5.2]	密	良	明黄褐色	外面:複合口縁上部横位ヘラナデ。内面:胴下部横位ヘラナデ。有台部接着・横位ヘラナデ後ユビナデ。	複合口縁部
27期	8	SD-03 覆土	弥生土器 高坏	—	—	[4.6]	密	良好	赤色(赤彩)	外面:複合口縁～脚上部横位ハケメ後横位ヘラナデ。赤彩。内面:坏下部胴端部に調整不明。赤彩。脚上部ヨコナデ。	複合口縁部 脚上部2/5
27期	9	SD-03 覆土	弥生土器 高坏	—	[14.0]	[4.5]	密	良好	淡黄色	外面:脚下部胴位ヘラナデ後斜位ヘラナデ。内面:脚下部胴位ハケメ後横位ヘラナデ。	脚部1/6
27期	10	SD-03 覆土	弥生土器 壺	—	—	[2.1]	やや粗	良	淡褐色	外面:口縁部に粘土帯貼付。内面:口縁部コナデ後ヘラ状工具で5本の列を2段施す。胴部横位ヘラナデ。内面:口縁部～胴部ヨコナデ。	口縁部破片
27期	11	SD-03 覆上	弥生土器 壺	—	—	[2.3]	密	良	淡褐色	外面:胴部ヘラミガキ。内面:胴部横位ヘラミガキ。	口縁部破片
27期	12	SD-03 覆上	弥生土器 甕	—	—	[1.9]	密	良	黒色	口縁部がわずかに内傾する。外面:口縁部ナデ。口縁部端部直下後横位ヘラナデ。内面:口縁上部ナデ。口縁下部横位ヘラナデ。	口縁部破片
27期	13	SD-03 覆上	弥生土器 壺	—	—	[3.1]	密	良	淡褐色	外面:口縁部～胴部縦位ヘラナデ。内面:口縁部～胴部ナデ。	口縁部破片
27期	14	SD-03 覆上	弥生土器 壺	—	—	[5.7]	やや粗	良	淡黄褐色	外面:胴上部横位ヘラナデ。内面:胴上部ナデ。	胴部破片
27期	15	SD-03 覆上	弥生土器 壺	—	—	[4.7]	密	良好	淡黄褐色	外面:胴部横位をずらした斜位ヘラナデ。内面:胴部横位ヘラナデ。	胴部破片
27期	16	SD-03 覆上	弥生土器 小型壺	—	—	[3.1]	密	良	にぶい黄橙色	小型台付壺か。外面:胴部横位ヘラナデ。脚下部ナデ後ヘラミガキ。内面:胴部ナデ。脚下部横位ヘラナデ。	脚部破片
28期	1	P-4 覆土	弥生土器 壺	[11.0]	[2.9]	やや粗	良	淡黄色	淡黄色	外面:口縁部に粘土帯貼付。内面:口縁部コナデ後ヘラ状工具で5本の列を2段施す。胴部横位ヘラナデ。内面:口縁部～胴部ヨコナデ。	底部1/4
28期	1	加筆	弥生土器 壺	—	—	[4.7]	密	良	橙色	複合口縁部。外面:口縁部ヨコナデ。上胴部ヨコナデ。上胴部斜位ハケメ後横位ヘラナデ。内面:口縁部横位ヘラミガキ。横位ヘラナデ。	口縁部破片
29期	2	NE区 IV′層	弥生土器 壺	—	—	[3.0]	密	良好	にぶい黄橙色	複合口縁。外面:口縁部ナデ。口縁部コナデ後横位ヘラミガキ。内面:口縁部上ガキに近い横位ヘラナデ。	口縁部破片
29期	3	NE区 IV′層	弥生土器 小型壺	—	—	[4.4]	密	良好	灰白色	胴部は算盤玉状を呈するとおれる。外面:胴部横位ヘラナデ。横位ヘラナデ。内面:胴部横位ヘラナデ。	胴部破片
29期	4	PK IV′層	弥生土器 壺	—	—	[5.4]	やや粗	やや不良	橙色	外面:胴部縦位ヘラナデ。底部指ナデ。内面:胴部ヨコナデ。	胴部破片
29期	5	加筆	弥生土器 壺	—	—	[5.7]	密	良好	淡黄色	外面:胴部斜位ヘラナデ後底部指ナデ。内面:胴部ヨコナデ。	胴部破片
29期	6	MK IV′層	弥生土器 壺	—	—	[5.1]	密	良好	にぶい橙色	外面:胴部横位ヘラナデ。内面:胴部ヨコナデ。	胴部破片
29期	7	A・BK IV′層	弥生土器 壺	—	—	[4.7]	密	良	黄橙色	外面:胴部横位ハケメ後胴部指ナデ。内面:胴部ヨコナデ。	胴部破片
29期	8	HK IV′層	弥生土器 甕	—	5.7	[2.1]	密	良好	にぶい黄橙色	外面:胴下部胴位ハケメ・ヘラナデ。底部ナデ。内面:胴下部～底部横位ヘラナデ。	底部破片
29期	9	FK IV′層	弥生土器 有段壺	—	—	[4.3]	密	良	橙色	外面:複合口縁部ヘラミガキ。台上胴部ヨコナデ。内面:胴下部横位ヘラミガキ。台上部ナデ。横位ヘラケズリ。	複合部～台上部1/2
29期	10	加筆	弥生土器 壺	—	—	[5.1]	やや粗	良	淡黄色	複合口縁。外面:口縁部ヨコナデ。口縁部～胴部胴部直下。内面:口縁部～胴部横位ヘラナデ。ナデ。	口縁部～胴部破片
29期	11	HK IV′層	弥生土器 壺	—	—	[3.4]	密	良	黒褐色	口縁部がわずかに内傾する。胴部:胴部横位ヘラナデ。ナデ。内面:口縁部横位ヘラナデ・ナデ。	口縁部破片
29期	12	IK IV′層	弥生土器 小型壺	—	—	[3.7]	密	良	黒褐色	外面:口縁部ヨコナデ。口縁部ヨコナデ後横位ヘラナデ。胴部横位ヘラナデ。胴上部ヨコナデ。内面:口縁部～胴上部ヨコナデ。横位ヘラナデ。	口縁部～胴部破片
29期	13	A・BK IV′層	弥生土器 小型壺	—	—	[2.7]	密	良	にぶい橙色	外面:口縁部横位ヘラナデ。口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ。内面:口縁部ナデ。口縁部上ガキに近い横位ヘラナデ。	口縁部破片
29期	14	FK IV′層	弥生土器 小型壺	—	—	[2.7]	密	良好	赤色(赤彩)	口縁部端部が外側へ張り出し玉状を呈する。外面:口縁部横位ヘラナデ。内面:口縁部ヨコナデ。赤彩。内面:上胴部横位・斜位ヘラミガキ。赤彩。	口縁部破片
29期	15	A・BK IV′層	弥生土器 高坏	—	—	[4.0]	密	良	淡橙色	口縁部がわずかに外傾する。外面:口縁部に刻目を施す。口縁部ヨコナデ。脚ハケメ。内面:口縁部ヨコナデ。口縁部ナデ。下部に粘土帯を横位に貼付。	口縁部破片
29期	16	IV層	弥生土器 高坏	—	6.6	[8.0]	密	良	橙色(赤彩)	外面:坏下部～脚部端部直し。ケズリ後、縦位ヘラミガキか。赤彩。脚上部斜位ヘラナデ。脚下部ナデ。	坏下部1/4 脚下部3/4
29期	17	IV層	弥生土器 高坏	—	—	[4.8]	密	良好	淡黄褐色	外面:複合部ヨコナデ。脚上部縦位ヘラナデ。一部ヘラケズリ。内面:坏下部ナデ。脚上部斜位ヘラ。横位・斜位ハケメ。	複合部～脚上部破片
29期	18	IV層	土師器 坏	(11.8)	—	[2.6]	密	不良	橙色	複雑坏。口縁部は外屈する。外面:横位指して調整不明。内面:横位指して調整不明。	口縁部～体上部1/8
29期	19	IV層	土師器 高坏	—	[15.3]	[3.0]	密	良好	橙色	脚端部が内傾する。外面:脚下部ヨコナデ・ナナメナデ後斜位ヘラミガキ。内面:脚下部ヨコナデ・ナナメナデ。	脚下部～底部1/5
29期	20	IV層	須恵器 高台坏	—	(7.9)	[1.4]	密	良 遊元端	褐灰色	外面:ロクロナデ。底部回転糸切り後高台付貼付。ナデ付け。内面:ロクロナデ。	底下部～高台部1/5
30期	1	遺構外	弥生土器 壺	—	—	[2.2]	密	良	赤色(赤彩)	複合口縁。外面:口縁部ヨコナデ。赤彩。胴部横位・斜位ヘラナデ。内面:口縁部～胴部ヨコナデ。赤彩。	口縁部～胴部破片
30期	2	遺構外	弥生土器 壺	—	(7.2)	[2.2]	密	良	にぶい黄橙色	外面:脚下部横位ヘラナデ。底部ヘラナデ。内面:脚下部横位ヘラミガキ。赤彩。底部斜位ヘラケズリ。	脚下部～底部1/4
30期	3	遺構外	弥生土器 壺	—	(5.8)	[3.8]	やや粗	良	赤色(赤彩)	外面:脚下部斜位ヘラナデ。赤彩。底部ヘラナデ。内面:脚下部～底部端部直し調整不明。	脚下部～底部1/5

( ): 推定　[ ]: 遺存

図版	番号	出土位置	種別・器種	法量(cm) 口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	遺存状況
30図	4	遺構外	弥生土器 壺	—	(8.1)	[2.8]	密	良	灰黒褐色	外面：胴下部研位ヘラナデか。胴取下部研位ヘラナデ、底部ヘラナデ。内面：胴下部研位ヘラミガキ。底部ナデ。	胴下部～底部 1/5
30図	5	遺構外	弥生土器 壺	—	—	[7.5]	密	良好	褐灰色	複合口縁。外面：口縁部原ヨコナデ。口縁部原位ヘラナデ。ナデ。胴部原ヘラナデ。内面：口縁部～胴部原位・頸位ヘラナデ。	口縁部～胴部破片
30図	6	遺構外	弥生土器 壺	—	—	[5.6]	密	良	灰白色	外面：胴部研鉢ハケメ後櫛描斜格子文を胴部原に施す。内面：胴部原位ハケメ。	口縁部～胴部破片
30図	7	遺構外	弥生土器 甕	—	—	[13.2]	密	良好	褐灰色	口縁部がわずかに内傾する。外面：口縁部胴部かい櫛描波文横印形浮文（φ5mm・間文）施す。口縁部ヨコナデ。胴部研かい櫛描波状文。内面：口縁部～胴部研位ヘラナデ。	胴部破片 口縁部～胴部破片
30図	8	遺構外	弥生土器 高杯	(15.0)	—	[6.4]	密	良好	赤色（赤彩）	口縁部は内傾する。外面：口縁部～杯部ナデ。仕上げが甘く表面は凹凸がある。赤彩。内面：口縁部～杯部コナデ後一部研位ヘラミガキ。赤彩。	口縁部～杯部 1/8
30図	9	遺構外	弥生土器 高杯か	—	—	[4.4]	密	良好	赤色（赤彩）	外面：口縁部コナデ。杯部研位ヘラミガキか。赤彩。内面：口縁部～杯部原位ヘラナデ後研位ヘラミガキ。赤彩。	口縁部～杯部破片
30図	10	遺構外	弥生土器 高杯か	—	—	[3.9]	密	良好	赤色（赤彩）	口縁端部がわずかに外反する。口縁部に段或別稜線あり。外面：口縁部研目。赤彩。口縁部横研ヘラナデ。杯部研位ヘラミガキか。赤彩。内面：口縁部～杯部研位ヘラミガキか。赤彩。	口縁部～杯部破片
30図	11	遺構外	弥生土器 高杯か	—	—	[2.0]	密	良好	赤色（赤彩）	口縁端部が外側に強く張り出し玉縁状を呈する。外面：口縁部研目。口縁部原位ヘラミガキか。赤彩。内面：口縁部コナデか。赤彩。	口縁部破片
30図	12	遺構外	弥生土器 高杯	—	—	[2.0]	密	良好	橙色	口縁端部がわずかに外反する。外面：口縁部ヨコナデ。内面：口縁部原ヨコナデ。口縁部研位ヘラミガキか。赤彩。	口縁部破片
30図	13	遺構外	須文土器 深鉢	—	—	[2.2]	密	良好	黒褐色	外面：胴部研目。口縁部～胴部ヘラナデ。内面：胴部研位ヘラミガキか。	口縁部破片
30図	14	遺構外	古式土師器 5子型	—	—	[2.4]	密	良	灰黄褐色	外面胴所り返し。外面：台下部研位ヘラナデか。内面：台下部ナデ。	胴部破片
30図	15	遺構外	古式土師器 鉢	—	—	[3.9]	密	良	浦黒色	上げ底状を呈する。外面：脚下部研位ハケメか。内面：脚下部研位ヘラナデ。底部ヘラナデ。内面：脚下部～底部研位ハケメ後櫛位・底位ヘラミガキ。	台部脚破片 脚下部～底部破片
30図	16	遺構外	須恵器 坏	—	3.8	[2.2]	密	良 還元焼	灰色	外面：ロクロナデ。底部研転糸切り。内面：ロクロナデ。	底部 1/2
30図	17	遺構外	須恵器 坏	—	—	[2.9]	密	不良 酸化焼	暗白色	外面：ロクロナデ。内面：ロクロナデ。	口縁部破片
30図	18	遺構外	灰釉陶器 坏	—	—	[3.1]	密	良	灰白色	外面：ロクロナデ。自然釉付着。内面：ロクロナデ。口縁部～体部破片。	口縁部～体部破片
30図	19	遺構外	不明 ミニチュア土器か	—	—	[4.2]	密	良好	褐灰色	寸法ミリの超深型を呈する。口縁部～胴部は一部欠損しており上から見るとC字状を呈すると思われる。外面：口縁端部面取り（ヘラナデ）、往工痕の浅い切り込み1か所あり。口縁部～胴部ナデ。内面：胴部～底部横位ヘラケズリ。	1/3

第3表　出土土製品観察表

図版	番号	出土位置	種別	法量 ( ): 推定　[ ]: 遺存 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	器形、成・整形等の特徴	遺存状況
5図	12	S1-01 層土	土製品 勾玉	3.2	2.1	1.5	7.5	手捏ね成形。一部（頭部）にヘラナデか。孔径最大3mm以小2mm。片側から穿孔。	完存
11図	28	S1-05 層土	土製品 紡錘車	4.1	4.1	1.4	20.3	表裏面共にヘラナデ。側面ナデ。孔径最大7mm当小6mm。表裏片側から穿孔。	完存

第4表　出土石器・石製品観察表

図版	番号	出土位置	種別	法量 ( ): 推定　[ ]: 遺存 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	器形、成・整形等の特徴	遺存状況
05図	13	S1-01 層土	石器 敲石	14.8	7.3	4.5	904.3	安山岩か	片方の端部に敲打痕が見られる。	破損完存
05図	14	S1-01 層土	石器 敲石	10.5	5.9	3.7	322.8	安山岩か	上下両端部に敲打痕、側面1か所に擦痕が見られる。	完存
15図	40	S1-06 層土	石器 敲石	16.3	6.4	4.1	664.3	安山岩か	両端部に敲打痕が見られ、敲打に伴う欠損がある。	完存
15図	41	S1-06 層土	石器 スクレイパー	7.2	11.8	1.8	140.1	黒色頁岩	両部に細かい加工痕が見られる。	完存
15図	42	S1-06 層土	石器 打製石斧	(6.8)	3.5	2.1	39.2	黒色頁岩か	打製石斧の刃部品。上下欠損部に下部を使用し、両刃石器となっている。	完存
15図	43	S1-06 層土	石器 剥石か	10.7	6.1	1.7	171.8	結晶片岩	両面に赤色物質が付着する。	完存
15図	44	S1-06 層土	石製品 磨石	7.5	7.0	2.1	100.9	砂岩	表裏面及び側面に擦痕が見られる。	1/2
15図	45	S1-06 層土	石器 砂岩石臼	4.0	3.3	0.5	9.6	頁岩	表裏石臼の未成品。片方の端部及び片方の側面に擦痕が見られる。	—
15図	46	S1-06 層土	原石	3.2	2.0	1.6	12.3	輝緑凝灰岩	加工痕の痕跡と思われる。	破損完存
18図	7	S1-09 層土	石器 砂岩石臼	2.6	2.9	0.5	4.5	頁岩	砂岩石臼の未成品。片方の端部に擦痕が見られる。	完存
20図	22	SH-01 層土	石器 砂岩石臼	5.1	1.6	0.5	7.1	頁岩	砂岩石臼の未成品。片方の端部と側面に切断痕が見られる。	—
24図	4	SK-02 層土	石器 砂岩石臼	2.6	2.4	0.4	2.7	頁岩	砂岩石臼の未成品。片方の端部に切断痕、表裏面に擦痕が見られる。	—
24図	13	SK-07 層土	石器 砂岩石臼	2.4	1.4	0.2	0.8	頁岩	砂岩石臼の未成品。	—
29図	21	DK Ⅳ 層	石器 砂岩石臼	4.0	2.0	0.5	2.7	頁岩	砂岩石臼の未成品。	—
29図	22	HK Ⅳ 層	石器 砂岩石臼	3.1	1.8	0.3	2.7	頁岩	砂岩石臼の未成品。片側の端部に切断痕が見られる。	—
30図	20	遺構外	石器 砂岩石臼	2.6	1.2	0.2	1.1	頁岩	砂岩石臼の未成品。	—
30図	21	遺構外	石製品 磨石	7.6	5.7	1.7	79.7	砂岩	表片面及び片方の端部に擦痕が見られる。	完存
30図	22	遺構外	石器 敲石	(5.8)	9.1	2.3	167.6	砂岩	表片面に敲打痕が見られ、片方の側面に潰れた痕跡がある。また、両面由に縁入為的な調整加工がなされている。	1/4
30図	23	遺構外	石器 凹石	9.6	6.0	3.6	258.9	輝石安山岩	表裏両面に凹み、上下両端部に敲打痕が見られる。	完存

発掘調査報告書抄録

ふ り が な	ひだかむらぬしいせき
書 名	日高村主遺跡
副 書 名	事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻 次	
シ リ ー ズ 名	高崎市文化財調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第420集
編 著 者 名	高林 真人
編 集 機 関	株式会社 測研
所 在 地	〒370－3517 群馬県高崎市引間町712-2
発 行 年 月 日	平成30年12月21日

ふりがな 所収遺跡名	所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北 緯 (世界測地系)	東 経 (世界測地系)	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
日高村主遺跡 (ひだかむらぬしいせき)	群馬県高崎市日高町 581番地1	102024	724	36° 21′ 55″	139° 02′ 09″	20180409 ～ 20180531	192	事務所建設

所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
日高村主遺跡	集落跡	近世	溝跡 2条	瓦・陶磁器	
	包蔵地	弥生時代 ～平安時代	遺物包含層 1面	弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・石器	
	集落跡	弥生時代 ～古墳時代	竪穴住居跡 9軒 方形周溝墓 1基 土坑 24基 溝跡 1条 ピット 18基	弥生土器・古式土師器・土製品・石器	

要 約	本遺跡は前橋台地上に立地する弥生時代後期以前・弥生時代中期～古墳時代前期、古墳時代中期以降の遺構が確認された複合遺跡で、弥生時代中期～後期の集落及び弥生時代終末期～古墳時代初頭の方形周溝墓・溝跡が主体となる遺跡である。弥生時代の竪穴住居跡は、中期後半～後期初頭が1軒、後期後半が8軒確認された。後期後半の住居跡は3時期に分けられ、集落は4時期にわたって継続すると考えられる。弥生時代終末期～古墳時代初頭になると竪穴住居跡は確認されず方形周溝墓が造られていることから、集落が途絶え墓域へと変わり、さらに古墳時代前期～中期には区画溝が走る境界地域へと変わる土地利用の変遷が確認された。

調査区全景 （西から）

調査前状況　遠景　南西から

遺構検出状況　南から

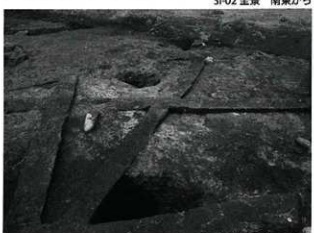
SI-01 全景　南東から

SI-01 炉跡痕跡全景　東から

写真図版 2

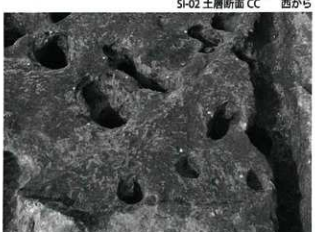
SI-02 全景　南東から

SI-02 炉跡全景　北東から



SI-02 土層断面 CC′　西から

SI-03 全景　西から



SI-04 全景　南西から

SI-04 遺物出土状況　南西から

SI-04 土層断面 AA′　南西から

SI-04 土層断面 BB′　南東から

SI-05 全景　西から

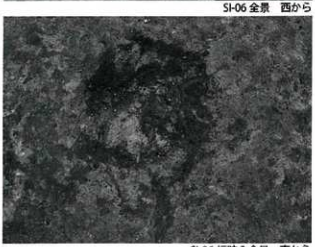
SI-05 遺物出土状況　西から

SI-05 遺物出土状況 UP(第 10 図 4・5、第 11 図 28)　西から

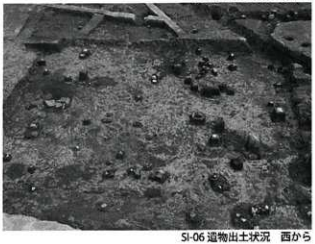
SI-05 土層断面 AA　西から

SI-06 全景　西から

SI-06 炉跡 1 全景　東から



SI-06 炉跡 2 全景　東から

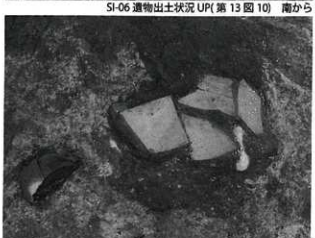


SI-06 遺物出土状況　西から

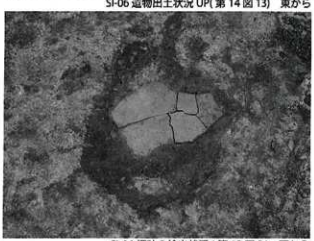
写真図版4

SI-06 遺物出土状況 UP(第 13 図 10)　南から

SI-06 遺物出土状況 UP(第 14 図 13)　東から

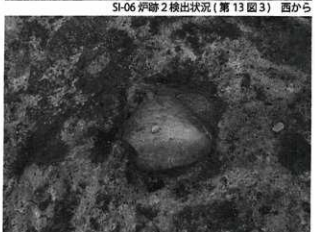


SI-06 遺物出土状況 UP(第 13 図 4、第 14 図 15)　西から

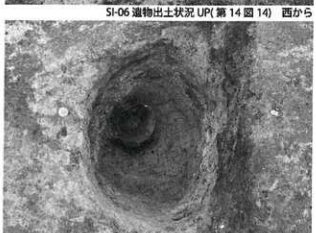


SI-06 炉跡 2 検出状況 (第 13 図 3)　西から

SI-06 遺物出土状況 UP(第 14 図 14)　西から



SI-06 遺物出土状況 UP(第 13 図 2)　東から

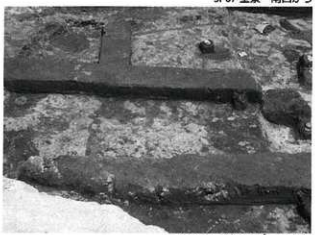


SI-06 p 3 遺物出土状況 (第 14 図 30)　西から

SI-06 土層断面 BB′　西から

SI-07 全景　南西から

SI-07 遺物出土状況　南西から

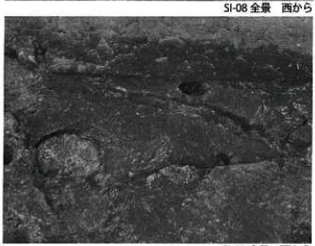


SI-07 土層断面 BB′　西から

SI-04~SI-07 遺物出土状況　南から

SI-08 全景　西から

SI-08 土層断面　西から



SI-09 全景　西から

SI-09 土層断面　西から

写真図版6

SH-01 全景　南東から

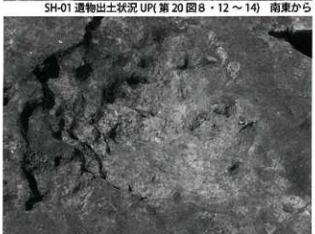
SH-01 遺物出土状況　南東から

SH-01 遺物出土状況 UP　南東から

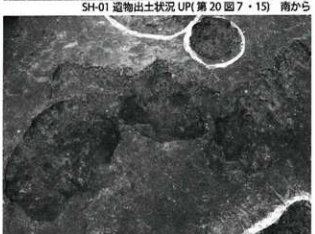
SH-01 遺物出土状況 UP(第 20 図 1・8・12～14)　東から

SH-01 遺物出土状況 UP(第 20 図 8・12～14)　南東から

SH-01 遺物出土状況 UP(第 20 図 7・15)　南から

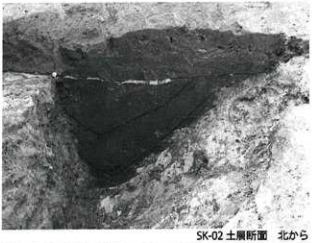


SK-01 全景　南から



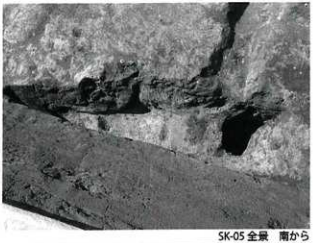
SK-03・SK-12・SK-24 全景　南東から

SK-02 全景　北西から

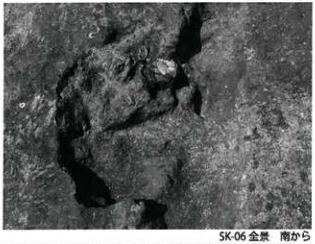


SK-02 土層断面　北から

SK-04 全景　南から

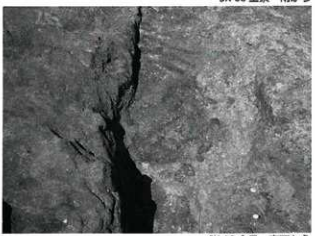


SK-05 全景　南から

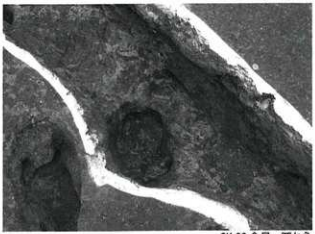


SK-06 全景　南から

SK-07 全景　南から



SK-08 全景　南西から

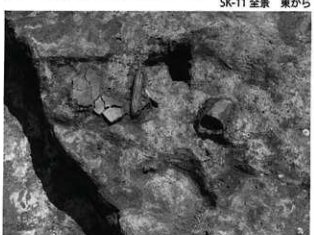


SK-09 全景　西から

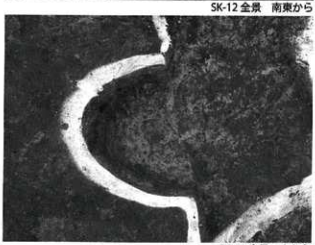
SK-10 全景　南東から

SK-11 全景　東から

SK-12 全景　南東から



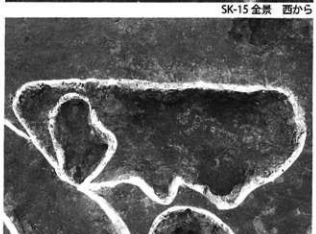
SK-13 遺物出土状況（第 25 図 20 ～ 22）　西から



SK-14 全景　南から

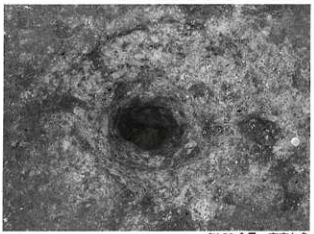
SK-15 全景　西から

SK-16 全景　北東から

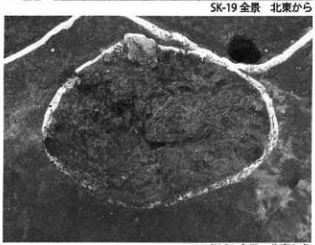


SK-17・SK-18 全景　東から

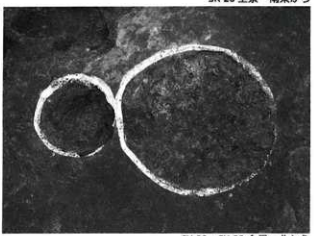
SK-19 全景　北東から



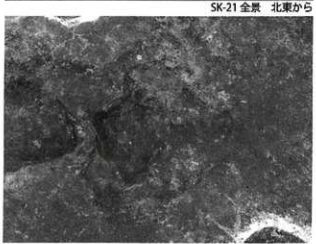
SK-20 全景　南東から



SK-21 全景　北東から



SK-22・SK-23 全景　北から



SK-24 全景　南東から

SD-03 全景　南西から

SD-03 土層断面 GG′　南西から

作業風景

写真図版 10

SI-01

5図1

5図2

5図3

5図5

5図12

5図14

SI-02

6図2

6図4

SI-04

8図1

8図2

8図3

SI-05

10図2

10図7

10図8

10図11

10図10

10図14

10図15

11図22

11図25

11図26

11図28

SI-06

13図2

13図3

15図40

15図41

13図4

13図6

13図8

15図45

15図46

SI-06

13図10

13図11

13図12

14図14

14図13

14図16

14図19

14図17

14図20

14図30

14図31

14図21

14図32

14図25

14図26

14図29

14図33

14図34

14図35

写真図版 12

SI-07

16図1

16図3

16図6

SI-08

17図1

17図2

17図3

17図6

17図7

SI-09

18図1

18図4

18図5

18図7

SH-01

20図1

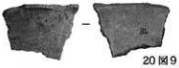
20図3

20図7

20図8

20図4

20図6



20図9

20図11

20図22

20図12

20図13

20図14

20図15

20図20

SK-02

24図2

24図3

24図4

SK-06

24図7

24図9

24図12

SK-07

24図13

SK-08

24図14

24図15

SK-04

24図5

24図10

SK-09

24図16

24図17

SK-11

24図19

SK-13

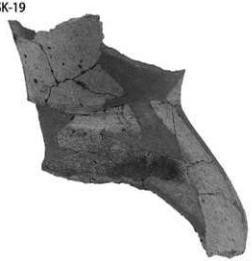
25図20

25図22

SK-14

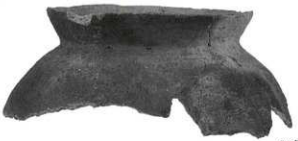
25図23

SK-19



25図25

SK-21



25図26

25図29

SK-23

25図31

25図27

25図28

SD-03

27図2

27図4

27図8

27図10

27図16

遺物包含層

29図1

29図5

29図12

29図15

29図21

29図22

29図4

29図8

29図16

29図17

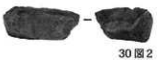
遺構外

30図1

30図7

30図10

30図19



30図2

30図8

30図13

30図14

30図3

30図12

30図18

30図20

30図23

高崎市文化財調査報告書第 420 集

日高村主遺跡

—事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2018 年 11 月 30 日　印刷
2018 年 12 月 21 日　発行
発　行　株式会社　高崎測量
高崎市教育委員会
株式会社　測　研
印　刷　上毎印刷工業株式会社